

Johann Fredrich Schär 「帳簿記帳の方法¹⁾」

大澤 一雄

- 〈目次〉
1. はじめに
 2. シェーア²⁾の「帳簿記帳の方法」
 3. あとがき

-
- 1) ヨハン・フリドリッヒ・シェーア (Johann Fredrich Schär : 1846年3月21日～1924年9月25日) が著している著書の原題は「Methode der Buchhaltung」であり、die Buchhaltung の訳語として「簿記」が一般的なものと考えられるが、本稿において「帳簿記帳」として理由は、簿記手続きの中で取引 (das Geschäft) の認識・測定機能が仕訳手続きにおいて行なわれる。その後、仕訳において用いられた勘定科目への「転記 (die Eintragung)」が行なわれる。更に、会計期間末の時点で勘定残高が貸借対照表における計上金額となり、このような簿記手続きのプロセスの中での中核的な位置を占める勘定元帳の意義についての論攻がなされているものと考えられることから、本稿のテーマを「帳簿記帳」とした。なお、本稿において、以下においてシェーアと表記しているものは、ヨハン・フリドリッヒ・シェーア (Johann Fredrich Schär) を取り扱っているものである。
- 2) シェーアの業績に関して、岡田昌也氏が詳しく紹介されており、その内容を年表形式で示すと以下ようになる。
- 1846年3月21日 スイスのベルン州ウルゼレンにエムメンタールのチーズ製造業者に生まれる。
- 1861年 ミュンヘンブッフゼーの師範学校に入学 (1865年 ヴァッテンヴィル村の小学校教員となる)
- 1867年 師範学校教員の資格試験に合格し、ミュンヘンブッフゼーの師範学校に就任して教頭となる (担当科目: 数学など)
- 1870年 教職を辞し、旅館主、チーズ輸出商となる。また、バーゼル州立銀行の設立に参加し、後に管理役となる。
- 1874年 ビショッフスツェルのギムナジウムの第二学級の教師となる。
- 1874年 スイスチーズ製造業者組合を設立して組合長となる。
- 1875年 ビショッフスツェルの消費組合設立に参画する。
- 1880年 ビールの高等女学校の校長となる (~1882年)。
- 1882年 バーゼル高等商業学校に商業科が設立され、同校の商業学の教師となる。
- 1903年 チューリッヒ大学法律学…国家学部に商業学の講座が新設され、正教授として招聘される。
- 1906年 ベルリンに商科大学が設立され、商業学講座正教授として赴任。
- 岡田昌也: 『経営経済学の生成 [三訂版]』 森山書店 1982年 P.171～175
- また、岡田昌也氏は「シェーアが研究を行なった領域は、まず会計上の問題、特に簿記および貸借対照表の問題にはじまる。… (中略) …この方面におけるシェーアの功績は複式簿記の方法の論理的・数学的基礎づけにあるが、… (中略) …ドイツにおける会計研究に重大な影響を与えた」点を指摘されている。
- そして、岡本人志氏は「この領域におけるシェーアの習作は、かれが商業学校の教師であった1890年にまでさかのぼる」点を指摘されており、特に、簿記の根本法則を等式の形において展開しているものである点も指摘されている。つまり、シェーアは上記でみられるように当時の師範学校で学んだ後に、実業界との関わり合いをも持っていたことが示されているものと考えることが可能であり、そして、1890年の時点でシェーアはバーゼル高等商業学校に在任しており、この時期に複式簿記に関する研究を積んでいたものと理解することができる。
- 岡本人志: 『経営経済学の形成』 森山書店 1984年 P.29～30
- 特に、1906年にベルリンの商科大学が設立された時期にシェーアがスイスにあるチューリッヒ大学からドイツのベルリン商科大学に招聘されたことは、シェーアの会計学の領域における高い評価を反映したものと考えられる。加えて、20世紀初頭における会計学の発展状況を考える場合には、シェーアの所説を手がかりとして考えることが可能になると思われる。
- 当時の商業学関連領域と商科大学のひとつの関わり合いに関しては、拙稿: 『ドイツにおける原価理論の展開』 (2010年9月「中央学院大学商経論叢」第25号 第1号) P.86～P.87 を参照されたい。

1. はじめに

本稿は、平成22年2月26日にご逝去された大西道孝先生に捧げるものである。

2. シェーアの「帳簿記帳の方法」

シェーアが著した「帳簿記帳の方法」は、以下に示した目次のうち、特に、第三部の「あらかじめ考え抜かれ

た段階的な効果をもった帳簿記帳の授業の素材を選択すること」の箇所において記されている複式簿記に関するシステムマティックな状態がどのようなものであるかが、その重要な点であると考えられる。特に、【付表3-1】～【付表3-8】にあるような詳細なデータを取り扱う場合には、シェーアが言うところの「単純な計算手続き」では企業の営業過程を把握することに困難な点が現れてくることが説明されている。

| | 原書ページ | 本稿ページ |
|--|-------|-------|
| 序文 | | 166 |
| 第1部 帳簿記入の方法の導入 | 1 | 168 |
| 第2部 一般的方法の原則の導出 | 3 | 170 |
| 第3部 あらかじめ考え抜かれた段階的な効果をもった帳簿記帳の授業の素材を選択すること | 11 | 178 |
| 第一段階 単純な計算手続きまたは帳簿記帳の構成要素 | 12 | 179 |
| 第二段階 複式簿記の導入 | 17 | 184 |
| A. 簡略化されている方法 | 18 | 184 |
| B. 複式帳簿記帳の完備している教科課程 | 32 | 196 |
| C. 経営形態に基づく複式帳簿記帳の簡潔な表示 | 35 | 198 |
| D. 決算貸借対照表と勘定の締め切りの構成的表示 | 36 | 199 |
| E. 複式帳簿記帳における要約されている導入に関する試験的な授業 | 40 | 200 |
| F. 複式帳簿記帳における筋道の通っている復習 | 40 | 200 |

以下において、その論証過程をみることにする。

序文

「複式簿記(die doppelte Buchhaltung)は、人間の理知のなかで最もすぐれている発明品の(der schönsten Erfindungen)1つであり、そしてそれぞれが優れた執事(jeder gute Haushalter)であり、彼ら(sie = Haushalter)は経済の中に採用される人とならなければならない。」

既に1606年にジェノバの修道士であるドン・アンゲロ・ピエトレ(Don Angelo Pieträ)が著書で著している考え方(der Gedenke)は、「複式簿記におけるそれぞれの著作が適切な方法でもって構築するための、経済を専門的に研究するための手引き」で著されている、つまり、複式簿記(die doppelte Buchhaltung)は商人にだけでなく、経済に対して当然のごとく必要とされるものであり、実際(eigentlich)、200年後になって初めて(erst zweihundert Jahre später)ヴィヘルム・マイスターの見習

期間において、ゲーテ(Goethe)が上記のモットー(obenstehendes Motto)が見て取れることが著されている(ist ausgesprochen)。

しかし、大学と実生活において(in Schluß und Leben)複式簿記を用いることの必要が一般的になるまでには更に100年の時間の経過を必要とされなければならない。

小規模な商売(die Kleingewerbetreibenden)だけでなく、そのうえ多数の商人(eine große Zahl von Kaufleuten)が複式簿記をけむたがること(die vor der doppelten Buchhaltung)が経済に最もすぐれている発明品の(der schönsten Erfindungen)ひとつを導入することになり、あきらかにこの領域において(in diesen Kreisen)常に不可解なものとして(als „ein Buch mit sieben Siegeln“)システムマティックな簿記(die systematische Buchhaltung)また複式簿記(die doppelte Buchhaltung)を考えられていることに由来しており、このことは事象を認識していないだけのことから(nur aus Unkenntnis der Sache)これらの事象に対して(gegen sie)根拠のない抗弁と偏見(unbegründeten

Einwendungen und Vorurteilen)が現れてくるためである (entstanden ist)。

しかし、経済において活動している外部資本と自己資本 (fremden und eigenen Kapitals) を検証する能力を持つ (mit einem prüfungsfähigen Nachweis) 組織が計算的に組織立てられて以来、費用と収益が関係づけられている限り (soweit)、商業 (Handel)・運輸 (Verkehr)・工業 (Industrie)・農業 (Landwirtschaft) を大規模に経営している (großen Betrieben) だけではなく、小規模な経営において (in gewerblichen Kleinbetrieben) も【訳者が意味上挿入：組織立てられている計算組織を】求めるようになってきている、自立している経済人の領域において (in den Kriesen der selbständigen Wirtschaftler) 個々の企業の生存能力 (die Lebensfähigkeit jedes Unternehmens) と競争に打ち勝ち続けるという見通し (die Aussicht) は、それほどには秩序立てられていない計算体系 (Rechnungswesen) と記帳体系 (Buchführungswesen) に大いに依存するものであり、こうした事実の影響力によって (durch die Macht der Tatsachen) 複式簿記 (die doppelte Buchhaltung) が初めてそれにふさわしい地位を得ることになり (ihr gebührenden Stellung)、そして適切に用いられることになる (ihr gebührenden Anwendung) ことを認識することが普及する (die Einsicht Bahn gebrochen)。

したがって、教え子 (der Schüler) が小規模な手工業 (das Kleigewerbe)・商業 (Handel)・運輸 (der Verkehr) の職業に直接的に (direkt) または間接的 (indirekt) に準備されていなければならないすべての教員の主要な任務が与えられている (gegeben ist)。それは複式簿記の入門 (Einführung in die doppelte Buchhaltung) が準備されている。

帳簿記帳に関する教育において初学者が示す要求から、最も単純な方法と明快な方法でもってこうした目標が達成され得るもののような、帳簿 (dieses Buch entstanden ist) が現れる。

商人の活動の中において (in seiner Tätigkeit) 実際の商人として (als praktischer Kaufmann) 試している範囲内を専門する分野において40年以上にわたって (in seinem mehr als vierzigjährigen) 教職についている執筆者 (der Verfasser) は、素材の選択 (die Stoffauswahl) とそれを提供している方法 (die Art der Darbietung) を詳細に説明し

(einläßlich darzulegen) そして詳細に根拠づける (einläßlich zu begründen) 努力に方向づけている (geleitet war)。

その場合、執筆者 (der Verfasser) が、二つの主要な観点に (von zwei Hauptgesichtspunkten) 左右されている。

第一に (zunächst)、帳簿記帳の授業において (im Buchhaltungsunterricht) その構成を単純化することと同様に、価格面で (in der Preis) ビジネス上の不意の出来事を容易に推論し、簿記的に表示することを可能とするという (woraus) もっとも単純な基本的な形態 (die einfachsten Grundformen) が考慮される (auf . . . zurückgeführt werden) ことによって (indem)、簿記的な経済的な経過 (die buchfähigen Wirtschaftsvorgänge) が表されなければならない (gezeigt werden soll)、経済における資本の活動の大きさと構成内容 (von der Größe und Zusammensetzung) をつねに示すものとなり (den stetigen Nachweis) そして、こうしたことを達成する (erreichen will) ために、複式簿記が記帳されている経済的な経過の性格に (der Natur der zu verbuchenden Wirtschaftsvorgänge) 適応され、そして複式簿記の活用 (ihre Anwendung = die Anwendung der doppelte Buchhaltung) がまさに説得力のあるものとなる (geradezu zwingend ist)。

第二に (in zeiter Linie)、さまざまな方法を明らかにし、学習の目標における (in ihren Lehrzielen) 段階がさまざまなものであり、その欲求 (die Bedürfnisse) がさまざまなものであり、これらに役立てられ (zu dienen haben)、またこうしたことを可能とするために (mögen sein)、帳簿記帳の授業 (der Unterricht in der Buchhaltung) が商業高等学校の (jeder Kaufmännischen Schule) 必ず備えられなければならない構成要素に (zum eisernen Bestandteil) 含められることが考察される。

このようなさまざまな状況に (diesen verschiedenen Verhältnissen) この分野における授業に (zum Unterricht in diesem Fache) 役立つ手引書 (dienenden Anleitung) のすべてに (in einer allen) そのさまざまな事柄が引用されていること (die angeführten Verschiedenheiten) が考慮されていなければならない (auf . . . genommen werden muß)。

われわれは、その理由は、われわれの研究において (in unserer Arbeit) 帳簿記帳の授業のすべての段階が考慮さ

れているためであり、数年間のうちの1年にまで(bis hinauf zu einem auf mehrere Jahre)授業計画が分割している(verteilten Unterrichtsplan)という授業時間(die Unterrichtsstunden)が短期に限定されていなければならない(sich auf・・・beschränken muß)単純な計算手続きから(von der einfachen Rechnungsführung an)このような要求がかなえられなければならない(dieser Forderung Genüge geleistet zu haben)ものと信じている。

帳簿記帳の授業のさまざまな方法とさまざまな段階(der verschiedenen Arten und Stufen)をこのように顧慮すること(diese Berücksichtigung)は、その著書(das Werk)が初学者(den Anfängern)だけに明確なものとなるばかりでなく、多くの課題から(aus manche Anregung)経験を積んできている生徒(der erfahrene Lehrer erhalten)にも、そして新しい解決法(in neuer Beleuchtung)に再び取り組もうとしている多くのベテラン(maches Alte)にも明確なものとなることが期待されている。

このような関係については第4・5章(die Abschnitte 4 und 5)での、一般的な簿記(die Buchhaltung)と経営理論(die Betriebslehre)との組み合わせ(die Kombinationen)特に、簿記(die Buchhaltung)と報告文書(die Korrespondenz)との組み合わせ(die Kombinationen)が指摘されている。

本書が帳簿記帳の授業を(den Buchhaltungsunterricht)実務的に役立つ(praktisch nützlichen)ものとする(zu gestalten)ばかりでなく、「帳簿記帳の授業を(den Buchhaltungsunterricht)」思想的に取り扱うことと帳簿記帳の授業を(den Buchhaltungsunterricht)一般的に求められているもの(die allgemeinen Bildung fördernden)にする(zu gestalten)ことに貢献できることを希望する(beitragen möge)。

Berlin, in März 1913.

ヨハン・フリドリッヒ・シェア(Johann Friedrich Schär)

S.1

第1部：「Erster Teil」

I. 帳簿記入の方法の導入 Einführung in die Methodik der Buchhaltung

(手順をふんだ組織的な)方法は授業を行う方法の体系(die Lehre von der Unterrichtskunst)である。

その方法(sie = die Methode)は高校の生徒(der Schüler)

と教員(der Lehrer)との間にある溝(die Kluft)を埋(う)ずめるものでなければならない。

この(溝を埋めるような体操にみるような)屈伸運動(diese Bücke)は、高校の生徒を(den Schüler)教師の知的な高さに(zur geistigen Höhe des Lehrers)引き上げるのに役立つものであり、他方(anderseits)、この(溝を埋めるような体操にみるような)屈伸運動(diese Bücke)に関する教師(der Lehrer)が、高校の生徒の認識力(der Geist)と理解力(das Auffassungsvermögen)まで降りてこなくてはならない(herabsteigen soll)。

疑いなく(ohne Zweifel)このような授業の方法(diese Kunst des Unterrichts)があり、教員と高校の生徒の間の知的な相互関係(diese geistigen Wechselbeziehungen)である個人的特性(etwas Subjektives)があり、教員の特性のすべてと(mit der gesamten Eigenart des Lehrers)一致している特別所有権(das Sondereigentum)があり、つまり、朗読(der Vortrag)と教えること(die Lehre)によって知識などが身につけられる(aneignen)のではなく、何年にもわたる教職によって(durch jahrelanges Einleben in den Schuldienst)、流通業における(im Verkehr)分析(Probieren)・開拓者(Pfadfinden)に理解が得られる(mit der Jugend erworben wird)ようになる。

それぞれの教員が、自分の方法(seine Methode)が生来そなわったもの(Ureignes)・後から自身が得たもの(Selbstgefundenes)・教員としてのパーソナリティー(seiner Perönlichkeit)と特性(Eigenart)を一体化したものの(Verwachsenes)であるという意識(das Bewußtsein)を持つことは確かなことである。しかし、われわれはしごくもっともなことであると(mit ebensoviel Recht)ということが可能である。

しかしながら(allein)、このような意味で、私が帳簿記帳の方法を記述する任務を引き受ける場合には、方法の概念(der Begriff der Methode)が局限されて把握されなければならない(zu eng gefaßt ist)、私がそうした方法(die Methodik)が極めて広い意味で(in einem viel weiteren Sinne)把握することが起こる。

この方法において習熟している最終的な成果(das schließliche Ergebnis)は、教師に方法がすっかり教師の身につく(dem Lehrer in Fleisch und Blut übergeht)、教師の方法が生来からの生得されているものと(als seine ureigenste Schöpfung)考えられるというクライマックス

に達すると (wenn · · · darin gipfelt, daß · · ·)、こうした性格と同様に、その方法性の知識 (die Wissenschaft der Methodik) が存在しているということ、素材が一貫した影響力を持ち、授業方法に習熟している専門家 (mit der Unterrichtskunst vertraute Fachmann) が他の若い同僚に対して豊富な知識から (aus dem Schatze seiner Erfahrungen) 共通して有効な規準 (allgemein gültige Normen) を設けることが可能となることを経験することがない (nicht der erfahrene) ことを述べるのがまだまだできない (noch lange nicht gesagt ist)。

要するに、われわれが授業と教えによって (durch Unterricht und Belehrung) 獲得した知識と技量 (Wissen und Können) のすべてが、生来の認識力 (ureigene Geistestat) となり、われわれはわれわれに知識と技量 (Wissen und Können) の初歩を教えている (in · · · einführt) 教師の足に膝 (ひざ) を屈することになる。

つまり、私は科学的な取り扱い (die wissenschaftlichen Behandlung) の方法が身近なものとなっている (zugänglich ist) という意見である。むろん、学校とオフィスにおける (in Schule und Kontor) 勤務中に得られた方法的な原則 (erworbenen methodischen Grundsätze) が学問的に異論の余地のない成果 (einwandfreies Ergebnis der Wissenschaft) となっているとは考えていない (entfernt anzunehmen)。

「すべての道がローマに通じている (Es gibt verschiedene Wege nach Rom)。」この言葉は他の専門分野にはよく当てはまるものではなく、方法論の分野には (auf das der Methodik) よりよく当てはまるものである。

第一に、帳簿記帳の授業に関する私が述べている方法的な原則 (methodischen Grundsätze) がさまざまな著書に書きとどめられており (niedergelegt habe)、これらの著書が言及していることは許容するものである。

S.2

1. 複式簿記システムの基本 (Elemente = Elemente der doppelten Buchhaltung) から、そしてその複式簿記システム (System = System der doppelten Buchhaltung システム) のさまざまな帳簿記帳の形態への (auf die verschiedenen Buchhaltungsformen) 応用 (die Anwendung) から示されている帳簿記帳の方法を示している簿記の教科書 (Lehrbuch der

Buchhaltung) は、1888年に刊行されている。主として (in der Hauptsache) ここで方法的な教科書を取り扱うこと示すために、本書の序文から幾つかの思考内容 (einige Gedanken) を再録される。「手元にある著書の筆者 (der Verfasser des vorliegenden Werkes) は、帳簿記帳の確立されている教科書 (ein selbstsändiges Lehrbuch der Buchhaltung) には、一方では、専門家の要求 (die fachmännischen Anforderungen) が考慮されており、そして実際のビジネス生活との (mit dem praktischen Geschäftsleben) 関係が保たれており (Fühlung behält)、他方、素材が段階的に進められていく方法を構成していくもの (aufbaut) と取り扱っていくもの (behandelt) とが、推敲されていなければならない (auszuarbeiten) という課題が課せられている (sich die Aufgabe gestellt hat)。

帳簿記帳に関する内容の豊かな且つ数多くの文献 (reich auch quantitativ die Literatur) が存在しており、経済的な技法の重要な領域 (wichtige Gebiet wirtschaftlicher Technik) は公式に授業科目に (zu einem bildenden Unterrichtsfach) 形成されることであり、高校の生徒 (der Schüler) は思考能力と判断力において (in seinem Denk- und Urteilsvermögen) 重要な訓練される (wesentlich gefördert) だけでなく、取り扱われている素材を処理することによって (durch die Verarbeitung des behandelten Stoffes) 高校卒業後の職業に向けて (nach dieser Richtung in seinem späteren Berufe) 実際の生活に踏み出すこと hinzutretenden Forderungen des praktischen Lebens) が求められていることを満たす (genügen) ような状態になることが試みされる記されており、(1888年以來、このことは主張されていることではあるが) こうした試みはこれまでのところ決して行われてはいない (noch nie gemacht worden ist)。

既存の帳簿記帳の入門書 (der Leitfäden) と教科書 (die Lehrbücher) 方法の進歩を考慮することなく曳航されている水上コンテナのように手ほどきを受けている状態から難しい状態にまでを専門の学問よりも理論的な領域 (das Gebiet) を取り扱っており、他方 (die anderen)、もっぱら実務的な目的だけが追求され、そして所与の型紙にしたがった帳簿記帳の領

域に限定されたものを取り扱っている。

要するに(kurz)、これまでの専門分野の教科書には、実際の生活で求められているもの(die Anforderungen)と高校で求められているもの(denjenigen der Schule)を同時に満たし得る(gleichzeitig genügen können hätte)ことが欠けていた。

私は、帳簿記帳の授業が人格形成に共通した教科に昇格されるべきである(erhoben werden soll)と、進んで述べている(ausgeführt habe)。この構想のすべてがこの原則に対応している(entsprechend ist)。著書はとっくの昔に(längst)品切れとなっており、すべて素材(der ganze Stoff)と主要なイデー(die leitenden Ideen)が新しい著書に引き継がれているために新しい構想(eine Neuauflage)が処理すべきことが残っている。

2. 商業の授業時間コース I の帳簿記帳は「シェアーの縦断システム(System Schär-Langenscheidt)」というタイトルで、帳簿記帳の取り扱い(Buchhandel)に取り入れられている。

そこでの授業(dort)は、21課に分けられ、2段組の800ページを超える帳簿記帳(die Buchhaltung)と、同様に(ebenfalls)段階的な方法(in methodischer Stufenfolge)での帳簿記帳(die Buchhaltung)が取り扱われている(behandelt wird)。

その著書(das Werk)は独学用に執筆されており、1894年に出版され、1912・1913年版まで版を重ねている。30,000部以上が出版され、ドイツ語圏全体に普及し、一部は外国語に翻訳されている。

S.3

この著書は、特に、方法的に段階的な経過(der methodischen Stufengang)を含んでおり、さらに、実務と理論についての帳簿記帳の領域全体を含んでいることから、商業学の授業(die Handelslehren)のさいによく取り上げられている(beliebt ist)。

つまり、方法論の教科(der methodische Lehrgang)は、私が最も有効なものであることを確証している(bewähr hat)ものであり、以下の私の研究の中で続けていくものである。

3. 多数の著書からの抜粋(der Zug)としては1894年の単式帳簿記帳(einfache Buchhaltung)と複式帳簿記

帳(Buchhaltung)という書物が刊行されている(erschienen ist)。後者(die letzte = Buchhaltung: 複式帳簿記帳)は1912年に5版となっている。

これらの著書は、商人の授業時間(die kaufmännischen Unterrichtsstunden)の第2番目全体をこれらの著書に(darin)何も(nichts)含まれていないことから、根本的な要求だけを満たすことになる。

4. 小規模営業の帳簿記帳のモデル

言語学と商業学の出版社において S. ジモンが書物を刊行する場合、その書物は手工業と小売業の要求に関する帳簿記帳を完備したものであり、理論が移り変わっている経営理論を簡潔にまとめたものであった。

5. 帳簿記帳の理論に関して、私(= シェアー: Johann Friedrich Schär)の以下の研究が出版されている、帳簿記帳の科学的取り扱いの試論 1890年、まもなく重版が新たに出版される。

6. 科学的基礎・数学的基礎における複式簿記の体系の入門、ユリウス・スプリングャー出版社 ベルリン
ところで同じ目的に関する研究がさまざまな専門誌において公表されている、リンツにおける帳簿記帳に関する雑誌、オーストリアの商業雑誌、商業研究雑誌、商業学と商業実務に関する雑誌、ドイツ経済誌

第2部 一般的方法の原則の導出: Zweiter Teil: Ableitung der allgemeinen methodischen Grundsätze

帳簿記帳(die Buchhaltung)は、オフィスの外での教えによって、文書と学校で学ぶことを調整して成立している(vermittelt wurde)さまざまな商人的な分野(die kaufmännischen Disziplinen)の中で最初のものである(die erste ist)。

帳簿記帳に関する初めての印刷物(die ersten gedruckten Werkes)が出版されることと商人の初めての学校が設立されることが、ほぼ同じ時期(ungefähr in die gleiche Zeit)であることは、偶然な出来事ではない(nicht Zufall ist)。

周知のように、ルカ・パッチオリ(Lucas Paccioli)が帳簿記帳の最初の著述家であった。学術的な論文(Traktus)が「複式簿記(doppelten Buchführung)」の完備した叙

述を含んでおり、ベニスにおいて15世紀の初めに (am Ausgang des 15 Jahrhunderts) 最初の商業高等学校 (die erste Handelsschule) が設立され、そこでの授業に (an deren Unterricht) あちこちのドイツの商人 (ab und zu deutsche Kaufleute) が出席していた。

S.4

また、そのとき以来、商人の文献において帳簿記帳がリードし続けている (die Führung beibehalten hat)。1675年のサバリによる大著「完全なる商人 (Le Parfait negociant)」に至るまで、商人の分野には、ほかに取り立てて言うほどの文献 (nennenswerte Literatur) はない。そして、そこではそのときから商人の高等学校 (ein kaufmännische Schule) が開校されていた (aufgetan worden ist) が、帳簿記帳の授業が厳格な授業計画を構成していたことは間違いない。

帳簿記帳の領域から文書による作品に関して、15世紀から現代までの近代 (die Neuzeit) が、もっぱら専門家だけが関わってくるのではないことが知られており、こうした方式で実り多いことは、極めて特異なことである (ganz besonders ist)。

ほぼ毎日、新しい教科書 (ein neues Lehrbuch)、手引書または概説書 (einen Leitfaden oder Grundriß)、帳簿記帳の本質を示した書物 (eine Quintessenz der Buchhaltung)、また「文献を充実させるもの (Bereicherung der Literatur)」と「ひとく流布されている要求を充足するために (zur Befriedigung eines weitverbreiteten Bedürfnisses)」といったことに拠 (よ) りどころを感じているような著述家によって頻度は高いがしばしば未熟な作品 (die häufig oft unreifen Produkte) と呼ばれるものもたらされ (bringt)、しばしば (vielfach) これらはほんやりとしたものではなく、さらに (weder) 内容豊かなものと予感させるもの (eine Ahnung haben) であり、帳簿記帳の根本概念を予感させるもの (eine Ahnung haben) である授業の課程 (die Lehrgang ihres Unterrichts) が公開されている (veröffentliche)。

商業高等学校における (in den kaufmännischen Schulen) 帳簿記帳の授業は、残念ながら (leider) 今日でも (heutigentags) 不完全なものであることが珍しくなく (nicht selten) またかなり不完全なもの (recht unvollkommen) である。しばしば (vielfach)、商人のオ

フィスから (vom kaufmännischen Kontor) から習得されたもの (ihrer Erlernung) がこのようにして (die Art und Weise) 高校に移される (übertragen wird)。授業では、単に無意識的に着払いのものを、場合によっては理解されていないものを口述筆記するものとなってしまう。

著者は、帳簿記帳の授業では記述者に転記させるために、与えられている石版印刷されている申告用紙に (die gegebenen lithographierten Formulare) 飾り文字で正確に (kalligraphisch korrekt) 書き写されていること (abschreiben zu lassen) を任務とみなす時代をよく思い起こすことになる。

今日、多数の教師が、外見上の表現 (die äußere Darstellung) されている形態 (die Form)、幾つかの事柄に関する理解の間を調整して成立させることのない形態 (die Form) のそれぞれのいずれにどのように (wie) 主要な数値決定 (das Hauptgewicht) を行うかは定めらるべきではない (soll dahingestellt bleiben)。

教科に適切な方法を準備する技法に熟知していない (nicht kennen) と高等学校の生徒の理解力に適応した教材の構造に熟知していない (nicht kennen) 実務の帳簿記帳担当者によって、授業が与えられている (erteilt wird) ことがしばしばあるが、こうしたことは、だれが考えても当然の根拠から (aus naheliegenden Gründen) 実務の帳簿記帳担当者から授業の教育資格が取り去られる。授業が、オフィスの実務にどれだけ適合しているかは、その成果はあまり実りの豊かものとはならない。

オフィスにおける見習い (der Lehrling) はそここの手続きの根拠の課題に関して、「汝 (なんじ) がなさなければならぬ」という定言的な命令にどのような解答を得るかは、帳簿記帳の授業における偏 (かたよ) った教育を受けている実務的な帳簿記帳担当者はたいていの場合 (meistens) 「これが実務において形成されている」という解答を逃げ道としている。

S.5

当然のごとく、帳簿記帳の理論のカテゴリーには多くの例外事項 (zahlreiche Ausnahmen) があり、これらはその専門にとっては実務的なもの (praktisch) であるだけでなく、理論的に把握可能なものであり、さらに授業については生来の能力 (eine angeborene Fähigkeit) を備えているものである。

しかし、帳簿記帳の教員にとって (dem Buchhaltungslehrer)、副業だけのものとして授業に取り組むには、その教職に由来する (aus dem Lehrerberuf hervorgegangen) 専門能力のある教員にとって (zu einem tüchtigen Lehrer seines Faches) 必要となる特質が欠けていることは珍しくはない (nicht selten)。

たしかに、帳簿記帳の教員にとって (ihm = dem Buchhaltungslehrer) 正しい方法を提出することは周知のこと (geläufig sein) であり、たしかに、帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) が他の専門領域における同様に帳簿記帳の授業を教育的なものにしようとしている (erzieherisch zu gestalten) が、しかし、帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) が、帳簿記帳の教員 (ihm = dem Buchhaltungslehrer) には、帳簿記帳の教員の (sein = des Buchhaltungslehrer) がその生来の目的を不十分にしか達成してないために (so daß)、生来の専門知識 (die eigentliche Fachkenntnis)、商人的経営の過程における洞察 (der Einblick in den Gang des kaufmännischen Betriebes)、商人の実務の要求を認識すること (die Kenntnis) と考慮すること (die Berücksichtigung) に精神的な影響を及ぼしている (geistbildend wirkt)。

したがって、われわれは帳簿記帳の教師にふさわしいことに (an den rechten Lehrer) 要求される指針 (die Richtlinien für die Anforderungen) を特徴づけている (gekennzeichnet haben)。

ふさわしい教師 (er = der rechten Lehrer) とは教師としての高い教育を受けいる教員であり (ein pädagogisch gebildeter Lehrer)、きちんとした方法論の研究者 (ein tüchtiger Methodiker) でなければならず、また同時に専門家として帳簿記帳の領域と最も精通してなければならぬ (möglichst beherrschen muß)。

こうしたことから、われわれは帳簿記帳の教師について以下のような特別な要求 (besondere Forderungen) を導き出している

1. 帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) は専門知識のある人 (ein fachkundiger Mann) でなければならない。

一般的に、教師が何回も繰り返して心得たことを、自分の生徒に教えなければならぬ場合にはそれ以上の繰り返しが必要となる、このことは帳簿記帳に

関してまったく特別に (ganz besonders) 当てはまることである。

帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) は、第1時間目に (in der ersten Stunde) さっそく (schon)、最後の授業時間で (in der letzten) 帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) が言おうとしていることを、知っていなければならない (er wissen muß)、ひとつひとつの授業時間 (jede Stunde) と全体の授業時間がどのように関連しているか (in welchem Zusammenhang) と意識していなければならない (sich bewußt sein muß)、そうでなければ (sonst) 帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) は、無計画な授業時間を割り当てる人 (ein planloser Stundengeber) となってしまう。

帳簿記帳の教員 (er = der Buchhaltungslehrer) の授業のそれぞれの個別的な部分 (einzelne Abschnitt) は、後に、専門の構造の全体のみならず (im ganzen Aufbau seines Faches) 的確に用いられる続ける (seine bestimmte Verwendung erhält) ひとつの構成要素となる (ein Baustein ist)。

そのために、帳簿記帳における授業の場合よりも、その日暮らしの準備をすることにはどこでもより小さいものとなり (nirgends weniger ist)、授業時間に、授業の計画と目的のすべてに係わり合いなく (ohne Zusammenhang mit)、準備することに許可を当てることが可能となる。

こうしたことは、授業のより高い段階に妥当するばかりでなく、初歩的な教え (die elementare Belehrung)、根本的な概念の核心を酌 (く) む (die Einführung in die Grundbegriffe)、商人的な計算そのもの (das ganzen kaufmännischen Rechnungswesens) の構成要素の展開 (die Entwicklung der Elemente) にも妥当するものとなる。

そのために、多くの教育庁と学校理事会が信頼を置いている場合には、授業の最初の段階に (für die ersten Stufen dieses Unterrichts) 帳簿記帳における【訳者が意味上挿入：生徒の】気持ちに関して (für die Einführung in die Buchhaltung) 専門知識を多少なりとも持っているかまたは持っていない教師 (wenig oder nicht fachkundige Lehrer) を用いるこ

とが可能となる。

筆者(der Verfasser = Johann Friedrich Schär)の経験によれば、まさに第一番目に根本的な授業がこの領域の最も難しい教育上の任に含まれるものである、最初の段階において(auf der ersten Stufe)多くの高校の生徒にとって(für die meisten Schüler)多種多様な新しい概念を伴っている(mit allerlei neuen Befiffen)最初の段階では(für die = für die ersten Stufe)理解することがなされていない(noch kein Verständnis mitbringen)全く新しい知識の領域を(ganz neues Erkenntnisgebiet)最も高い授業の段階においては実務と文献から与えられた素材が前面に出てくるものをここでとあり扱うことになる(es sich her um · · handelt)。

S.6

2. 教師(er = der Lehrer)は、授業の正しい方向のすべを習得している口やかましい家庭教師であり、教材の選択と加工を(die Auswahl und Zubereitung des Lehrstoffes)自分の生徒の人間形成と理解力に(dem Bildungsgrad und Auffassungsgabe seiner Schüler)

合わせる能力を持った(anzupassen vermag)教育家(der Pädagoge)でなければならない。

目標について(zum Ziel)機械的に手本を示すのではなく(nicht mechanisches Vormachen)そして機械的に模倣するのではなく(nicht mechanisches Nachmachen)、同じく理論的な講義ではなく(ebensowenig theoretischer Vortrag)、また退屈な口述の書き取り(geisttöendes Diktat)が行われるのではなく、不自然な授業成果(das gewollte Unterrichtsergebnis)が問答によって(durch Frage und Antwort)成立している、つまり、高校の生徒が【訳者が意味上挿入：授業の最後には】成果それ自体に基礎を置いている感情を持つというここでは賢明な教育方法が用いられなければならない。

高校の生徒の誤った解答(eine unrichtige Antwort des Schülers)は教師(der Lehrer)が何の造作もなく(ohne weiteres)誤ったものとして(als falsch)退けられない(nicht zurückweisen wird)、むしろ、高校の生徒の考え方の誤りを見つけ出そうとし

(aufzufinden suchen)、そして、このような誤った判断を(eines solchen unrichtigen Urteils)結果し(die Konsequenzen ziehen)がなされ、生徒自らの考えによって(durch eingenes Denken)生徒を正しい方法に(auf den richtigen Weg)導くようにする。

3. 教師(er = der Lehrer)は実生活のとの連続している関連によって(durch stetige Beziehungen zum praktischen Leben)生徒の関心と呼び起こさなければならぬ(das Interesse der Schüler)、そして生徒【訳者が意味上挿入：の関心】を活気のあるものにするようにしなければならない(zu halten suchen muß)。

こうした前提の元にだけで(nur unter dieser Voraussetzung)ためになる授業(ein ersprießlicher Unterricht)と生徒が理解を深めようと活気づくこと(sein lebensdiges Erfassen)が可能となることから、主要な課題(eine Hauptaufgabe)がまさに【訳者が意味上挿入：教える】技法にある。

生徒の全パーソナリティーを予知し、授業の種類と本来的には生徒の関心事に依存している(hägt dieses Interesse im wesentlichen davon ab)生徒が持っている理解の種類を予知し、教師が生徒の思考の範囲(Gedanken skreis)と経験の範囲(Erfahrungskreis)と同じように実生活と連続して関係していることに授業の素材をもたらすことになる。

実際には、帳簿記帳(die Buchhaltung)は商業経営学の一部(ein Stück Handelsbetriebslehre)であり、その授業は持続的に提供する機会を与えられており、このような授業は商業経営学(der Handelsbetriebe)と関連づけられている。

たとえば、会社設立の開始貸借対照表(die Eröffnungsbilanz)の場合、銀行と関連している流通業の銀行諸勘定(die Bankkontos)の導入の場合、手形流通の手形の差し込み(die Einführung)の場合、経営原価(die Betriebskosten)を間接費勘定に(dem Unkostenkonto)導入する場合等を挙げることができる、別の専門において(in einem anderen Fach)詳しく関連付けられている(im Zusammenhang ausführlich)生き生きとしている事物によって(durch die lehrenden Dinge)主要科目から(vom Hauptgegenstand)外されなければならない

(abzuschweifen)ことは自明なことではない(ohne selbstverständlich)

高校の生徒には、例えば、商人のより上級の学校と同じように早速(schon)実務の応用があり(in der Praxis stehen)、それぞれの個別の新しいビジネス事象(jeder einzelnen neuen Geschäftsvorfall)の場合または帳簿記帳的に表現される(die buchhalterischer Darstellung)の場合、高校の生徒の経験と認識に結び付けられていることによって(indem)関係がとても容易にそして活発に形成される(viel leichter und lebhafter gestalten werden)。

S.7

そのほかに、このような手続きには、教師(er = der Lehrer)は教師(er = der Lehrer)がそれまで認識していない、または多くが有効なことが証明されているが教師(er = der Lehrer)はその内容の取り扱いに迷っている(noch im Zweifel war)ことを多くの実務から経験しているという大きな利点がある(den großen Vorteil hat)。

この場合、慎重な方法で(in vorsichtiger Weise)行われなければならないことは当然のことであり、すでにビジネス上機密とされるものが考慮されており、中世以来の職人の資格を得る前の見習い(der Lehrling)が負わされている義務である。教師が実務と関係を保っていることと同様に、こうしたことが唯一の方法(der einzige Weg)ではないことが当然なことである。

教師の主要な任務の1つが教師(er = der Lehrer)が実際の商人とともに商人の学校に関して興味を持つことであり、一彼らの目標が常に広く理解されており—この関係が現れている。

この場合、教師(er = der Lehrer)は当然のごとく博識を鼻にかける人(der Vielwisseur)でも知ったかぶりをする人(der Alleswisseur)であってはならない、むしろひとつの道標として存在するものでなければならず、あらゆることを学び(lernt)問いかけを行い(fragt)研究を行い(studiert)考察し(beobachtet)そして理解した事(die Kenntnisse)と経験した事(die Erfahrungen)によって異なるものを(anderer)取得しなければならない(bereichert muß)。

4. 知識と能力の結合(Verbinden von Wissen und Können)。学ぶこと(Lehre)と練習すること(Übung)は常に互いに交差しなければならない(ineinander greifen müssen)、知識が能力とならなければならない、能力は認識していることから現れてくる(hervorwachsen)。このことに関して、この方法は偏(かたよ)った理論的な指示(講義・口述筆記)が偏った練習と同様にあまり用いられていない(ebensowenig ist)。

そのために帳簿記帳の授業は、高校の生徒のいつも行われる共同作業が教室の黒板に現れ、帳簿の中にある一つの文書(ein Dokument)、一つの勘定(ein Konto)、一つの帳簿記帳の項目(ein Buchhaltungsposten)その他に帳簿記帳全体のなんらかの一部(irgendein Glied)といった授業の産物(das Unterrichtsgebilde)が現れるという方法で与えられなければならない(erteilt werden muß)。

古い格言(ein altes Sprichwort)が教師を最善の者であり、もっとも多くの白墨を必要としている者であることが記されていることは理由があつてのことだ(nicht umsonst)。高校の生徒の引き続いている共同作業を確実なものとするために、高校の生徒が黒板に(an der Wandtafel)表したものを(die Darstellung des Schülers)生徒のノートにおいて(in seinem Heft)内容全体の展開が同一方向に向かっていることは当然なことである。

このような原則にしたがつて、教室の授業では大きく仕上げられる(in großer Ausführung)ように、高校の生徒の手では小さく仕上げられる(in kleiner)ように、すぐ使える言葉で表現されたもの(fertigen Formularen)が広められるように評価されなければならない(zu beurteilen sind)、これらは表現されているものの全体のイメージ(das Bild der Gesamtdarstellung)を記録している限り、復習するために役に立つものとして推奨され得るものである(empfohlen werden können)。

この場合、高校の生徒は必要な巧みさ(die Fertigkeit)と確実さ(die Sicherheit)と自主性(die Selbständigkeit)を身につける(erlangen)ために、一つのテーマを一回限りの徹底的な熟読(die einmalige Durcharbeitung)で十分であるかどうかは、必要な

場合にはより広い練習問題に繋(つな)げるためか、教師がそれぞれ個別のケースだけにおいて判断しなければならない。

一般的には、ここの教材を熟読する場合、以下の順序を準拠している。

- a) 上記で叙述されている方法で教室の授業としての標準的な描写 (die Normaldarstellung) がなされる。
- b) (新たな難しさが無い) 高校の生徒たちによって同じような問題 (die gleichen Problem) の模造がなされる。
- c) 同じような問題を自力で仕上げる。

S.8

5. 時間厳守であること (die Pünktlichkeit) と入念さ (Gewissenhaftigkeit) に関して、そして帳簿記帳の好ましく表すこと (gefälligen Darstellung) と綿密に表示すること (sauberen Darstellung) に関する高校の生徒を躱けること。

課せられた仕事が無くなることはないと思われている (nicht erschöpft glaubt) 教師 (der Lehrer) は、教師 (er = der Lehrer) が自分の高校の生徒に専門知識と巧みさ (Kenntnissen und Fertigkeiten) を可能な限り (ein möglich großes Maß) 手ほどきし (beibringt)、自分の授業 (seine Unterricht) を特に口喧(くちやかま)しく指導しようとする、自分の教え子 (seine Zöglinge) を本当のことを考えられるように (zum Denken des Wahren) し、優れた者になるという意欲をもつように (zum Wollen des Guten) 養成しようとし、自分の教え子に (dem = seinem Zöglinge) 専門の授業 (der Unterricht in jedem Fach) を与えられる機会を多少なりとも用意し、高校の生徒を自発性をもった者 (zu die Selbsttätigkeit) にそして一本立ちした者に (zu die Selbstständigkeit) に養成しようとする、簡単に言うと (kurz gesagt)、およそ (überhaupt) それぞれの教育が最終目標である自己修業を身につけさせる (anleiten) ことである。しかし、あまり重要ではない書き間違い (Schreibfehler) ・ 計算間違い (Rechnungsfehler)、複数の帳簿記帳を行うこと (die Eintragung in die Buchhaltungsbücher) さいの不精確 (die Ungenauigkeit) と期

日に間に合わないこと (Unpünktlichkeit) が予測できない (unberechenbaren) ことと度重なる (vielfach) 回復の見込みのない損害 (unheilbaren Schaden) をもしばしば引き起こす (im Gefolge haben) といった機会が明らかにされている (Gelegenheit hat nachzuweisen) ために (weil)、帳簿記帳の授業とその他にオフィスでの専門家が特に適切なものであるために高校の生徒に几帳面さ (die Gewissenhaftigkeit) と時間厳守 (die Pünktlichkeit) を促さなければならない。

帳簿記帳の教師は、商業と流通業における実生活 (das praktische Leben in Handel und Verkehr) が極めて多数の高校の生徒に、なには差し置いてそして第一に (in erster Linie und zunächst) 帳簿記帳の領域でのその熟達の全部 (die gesamte Beherrschung) を求めている (verlang) ことではなく、事実即して正確にそして几帳面に働く人 (treue und gewissenhafte Arbeiter)、外見を重視し、また慎重に示すことを重視し、慎重にコントロールすることなしの仕事を手放さないことを求めている (verlang) ことを常に心に留めておかななければならない (gegenwärtig halten muß)。

教師が自分の高校の生徒のうちの一人以上の (von keinem einzigen) 将来の経歴を定める能力を持ち、そのために自分の高校の生徒のすべてにある (in allen seinen Schülern) 潜在的な能力 (die schlummernden Keime) を呼び起こし、それを手に入れさせる (zu pflegen) ようにしなければならない義務があり (die Pflicht tat)、そして能力が最も発達させる義務があり、偏りのない (vorurteilslos) そして偏見を持つことなく (unbefangen) 多くの人に (Geringsten) そして最も少ない才能のある人にも可能なかぎり、実生活における少なくとも高い地位と最も高い地位に就かせる義務があり (die Pflicht tat)、今日において (in der heutigen) ほとんど常にその聡明さではなく意欲に打ち勝っており、われわれは経済界を前進させるため (vorwärts zu bringen) に、そして経済界を前方に侵略させるため (vorwärts zu erobern) 第一番目に意志強固な性格を必要とする。

しかし、高校の生徒の大多数の場合 (ei der großen

Mehrzahl der Schüler)、「その前途は洋々なものではなく (den Mahrschallstab nicht im Tornister tragen)」、将来の糧を効用関係の中の低い位置または中間の位置を求めるものとならなければならず、第一番目にその職業における (in ihrem Berufe) 几帳面さ (die Gewissenhaftigkeit) と時間を厳守すること (die Pflichttreue) が重要なこととなる。

そして、このような人間形成においても、帳簿記帳の教師が参加することが可能である (mitarbeiten kann)。そのために、義務への忠実さ (die Pflichttreue) と時間厳守 (die Pünktlichkeit) において自立するのではなく (selbst nicht wird)、授業の場合にはその準備を欠き、高校の生徒の勉強をコントロールの場合には名前を挙げることを欠かすことになる。

S.9

したがって、義務に忠実な教師はクラス全体の多数を同じような役立つものへ (zu der gleichen Tugend) ぐいぐいと引っ張って行く。しかし、教師 (er = der Lehrer) は高校の生徒の場合、授業における場合、文字での作業 (die schriftlichen Arbeiten) の場合、手抜きすることなく (keine Flüchtigkeit) そして時間を守らないことがなく (keine Unpünktlichkeit) 事柄と表示されている物に決して欠く物があって残念がらせることがあってはならない (ungerügt lassen wird)。簡単に言うと、帳簿記帳の教師 (auch der Buchhaltungslehrer) も口やかましい家庭教師 (ein Erzieher) でなければならない (sein muß)。

6. 授業の素材を前もって一定の方法で加工しておくこと。教師の任務は、営業上の不意な出来事の混乱したもの (jeder Durcheinander der Geschäftsvorfälle) から段階的に進められている構造を伴っている単純化された営業の状況を構成することである。またここでは、単純なもの (Einfachen) から組み立てられているもの (Zusammengesetzten) まで、容易なもの (Leichten) から難解なもの (Schweren) まで、関係の近いもの (Nahen) から隔たっているもの (Entfernten) まで、既知のもの (Bekannten) から未知のもの (Unbekannten) までを定評のある予め考え

ぬかれた原則 (die altbewährten methodischen Grundsätze) が用いられなければならない。

実際の営業活動 (das praktische Geschäftsleben) は、帳簿記帳が第一に学び取ろうとしており、こうした研究を顧みることとはしない。それぞれの経済的な経営者 (der wirtschaftliche Unternehmen) は、その形態が多様なものとして現れてくる、その形態を計算的に表すこと (rechnungsmäßige Darstellung) はちょうど初めから (gleich von Anfang an) の帳簿記帳の完全な認識 (die vollständige Kenntnis der Buchhaltung) を想定している組み立てられている経営 (zusammengesetztes Geschäft) と向かい合われている (entgegen)。

まさに、このような原則から、帳簿記帳の初学者にとって、初学者が (er = der Anfänger) これら帳簿記帳 (sie = die Buchhaltung) を実務から自分自身で学び取らなければならず、そして誰の手助けもなく、初学者を (ihm = dem Anfänger) 難しい内容を一步一步克服しなければならないことを学ばせるような初学者を (ihm = dem Anfänger) 傍観している場合には、とても難しいものとなる (so schwer wird)。また、こうした原則から、単純なもの (Einfachen) から組み立てられているもの (Zusammengesetzten) まで、容易なもの (Leichten) から難解なもの (Schweren) までといった段階を移行している帳簿記帳の授業は優れたものであり、この帳簿記帳の授業は、学問が基本的にひとつひとつの避けて通ることのできない欲求を把握しようとしているものである。

システム化されている [システムティックな : systematischen] 帳簿記帳の段階的な構造 (der stufenmäßigen Aufbau) に関しては、第一に、授業の始めから (von Anbeginn des Unterrichts) こうした実際の営業状況を用いることは不可能であり (nicht gebrauchen kann)、むしろ (vielmehr) われわれは、授業の進行に合った (dem Gange des Unterrichts entsprechen) そして、取り扱う内容の難しさを克服できるように (überwinden möglich machen)、または必ず克服するように (zu überwinden machen) 構成されている (derart zusammenzustellen, daß ...) 単純な実例 (einfache Beispiele) を

必要としている (genötigt sind)。

営業の単純な形態でもって【訳者が意味上挿入：帳簿記帳の授業が】始められ、そして、帳簿記帳の授業 (sie = die Unterricht der Buchhaltung) が提供しているようなさまざまな種類 (die verschiedensten Arten) の営業の実生活 (das praktische Leben) に向けて着実に段階的に【訳者が意味上挿入：帳簿記帳の授業が】進められる (schreite stufenmäßig vorwärts zu . . .)。

このようにして (auf diese Weise)、教師自身の高校の生徒を確実に帳簿記帳の実務へ連れて行くことが教師にとって (dem Lehrer) 可能となり、またこれらの生徒を (sie = seine Schüler: 教師自身の高校の生徒) 仕事をきちんとする帳簿記帳係に仕上げるのが教師にとって (dem Lehrer) 可能となる。

7. 広く浅くではなく、深くあれ。(広く浅くではなく、細かいことを非常に丹念に、)

すでに数千年の昔からの秩序立てられている原則 (alte methodische Grundsatz) が、一般的な商人の専門家の授業に当てはまり、そして特殊な専門家の授業である帳簿記帳の授業にも当てはまる。用いられている帳簿記帳は、凡のところ (überhaupt) 理論的に洗練されている人ではなく、若干の【訳者挿入：偏った教育を受けている】実際の帳簿記帳担当者 (weniger praktischen Buchhalter) も、極めて形態の変化に富むものであり (so vielgestaltig ist)、そして種々の変化に富んだものである (mannigfaltig ist) といったその無数の形態を身につけなければならないものである (sich anzueignen ist)。

S.10

ある種の制限のもとでは、商業・工業・その他の特色をもつ産業のそれぞれの企業というものが存在しており、それぞれが自らの帳簿記帳を備えていることが事実である。

その結果として、帳簿記帳の授業は、一帳簿記帳の授業 (er = ein Buchhaltungsunterricht) 数十年に亘って拡張されており —

こうしたあらゆる産業の形態を取り扱うことが不可能となり、そしてこれら産業形態の組み合わせをも取り扱うことが全く不可能となってきた。

こうしたことから、帳簿記帳における教授法の主要な課題のひとつが営業の出来事のすべて (sämtliche geschäftlichen Vorkommnisse) が若干の統一基本形態 (einige wenige Grundformen) に戻されて、帳簿記帳的に表示されており (buchhalterisch dargestellt werden) 限りにおいてはそれが実務において用いられている全てのさまざまな形態からその共通点 (das Gemeinsame) とその本質となる点 (das Wesentliche) を探し出さなければならない (herauszufinden)。

このような要請は帳簿記帳の理論に徹底的に精通している (gründlich kennt) 帳簿記帳の教師だけが、例えば、商人のビジネス全体が

一方では (einerseits)、資産の構成要素の数値とその構成に影響を与えているかどうか、そしてどれだけの影響を与えているのか、他方では (andererseits)、純資産の増減 (die Zunahme oder Abnahme des reinen Vermögens) に影響を与えているかどうか、そしてどれだけの影響を与えているのか、さらに (ferner) システムティックな知識 (die Kenntnis der Systematik) が帳簿記帳の形態を個別的に変形したものと帳簿記帳の形態を組み立てたものに含まれるといった根本的な問題に (auf die Grundfragen) 帰していることを満足させることが可能となる (genügen kann)。

帳簿記帳の教師が自分の高校の生徒が帳簿記帳の以前に上記で言及されている根本原理について、無数のさまざまな営業形態にそれぞれ営業上の財産の構成と数値に関連して (mit Bezug) 基本的な経過 (der Grundvorgang) を判断することを知るということを自力によった判断 (ein selbständiges Urteil) を仲介にして成立させる場合、そして、他方 (andererseits) 実際の営業における (in einem praktischen Handelsgeschäft) さまざまな帳簿 (die verschiedenen Bücher) との関連とさまざまな帳簿 (die verschiedenen Bücher) を選び出すことが根本的な手本に基づいて (an Hand) 容易に見当がつくようになる (sich mit Leichtigkeit zurechtzufinden wissen) 場合、したがって、帳簿記帳の授業が教師の主要目的を達成していることになる。

このような考え抜かれた要求には二つの危険が迫っている。以前、実務経験のない教師の側からは、帳簿記帳の唯一の形態を研究し、その帳簿記帳の形式だけを知っている純粋に実務に明るい人とほぼ同じ程度である教師

は実務における偶然の出来事(zufällig)を学んでいた。こうしたことは、その高校の生徒たちが、高校の生徒が帳簿記帳を表わす場合には学校における帳簿記帳の訓練を受けたことから逸脱することになると、頼るものもなく立ち尽くしてしまうという帳簿記帳の偏った知識だけを巧みに覚えこまされる可能性がある。

しかし、帳簿記帳の領域全体を徹底的にマスターしているような教師は、このような教師(sie = diejenigen Lehrer)が、あらゆる事柄をわかっており、抽象的な知識(was sie wissen)を高校の生徒に巧みに教えられなければならないものと評価されているが、このように考え抜かれている原則に比較して(gegen diesen methodischen Grundsatz)、【訳者挿入：教師が】徹底的にマスターしているものは容易に失われる可能性がある。

ここでは、みごとな中庸(die goldene Mittelstraß)を守ることにその多様性によって(von dem Vielerlei)あらかじめ考え抜かれた正しい選択がぴったりなものとなる、つまり、異なる側面から(nach der anderen Seite hin)分散していること(die Zersplitterung)と浅薄な事(Oberflächlichkeit)が離れたものとなっているように、授業の一面性から広くかけ離れたものとなっているものを、一方では、高校の生徒の理解力をそれに合わせて押し量り、他方では、実際の要求を配慮(はいりよ)することが何より大事なことになる。

S.11

ここでの第一番目の要求は非常に丹念なことである。素材の規模(das Stoffausmaß)が高校の生徒がその完備されている習熟ぶりに浸透し、その自力性(die Selbständigkeit)と積極性(die die Selbsttätigkeit)が要求される方法(der Art)とならなければならない。

そのために、あらかじめ考え抜かれた教訓(die methodischen Belehrungen)は第一に、正しい素材の選択に向けられなければならないことになる。

S.11

第3部 あらかじめ考え抜かれた段階的な効果をもった帳簿記帳の授業の素材を選択すること。: Dritter Teil : Auswahl der Unterrichtsstoffes in der Buchhaltung in methodischer Stufenfolges.

「容易なもの(Leichten)から難しいもの(Schweren)へ」

という原則を当てはめると、帳簿記帳の授業は同じ範囲内に(in konzentrischen Kreisen)与えられなければならない(zu erteilen ist)。

このことは、われわれが、一方では、高校の生徒がその理解(das Verständnis)と把握力(die Auffassungskraft)が最も自然なものであり(am nächsten liegt)、他方では、授業の以下に示してある幾つかの段階(die nächstfolgende Stufe)に関する基礎を構築している帳簿記帳の領域全体によって(durch das ganze Gebiet der Buchhaltung)、最初に進められている経過のさい(bei einem ersten Gang)、その段階だけが選択されるという意味である。

授業全体のこうした構造の場合、同じ範囲内に(in konzentrischen Kreisen)は、教育的な事情が決定的なものになるばかりでなく、特に、実生活の要求があり、特に(insbesondere)高校の生徒が将来職業に従事する際に色分けすること(die Abstufungen)がある。

われわれがこうした関連にしたがって(nach dieser Beziehung)無数の多様な色分けを(die Abstufungen)を概観する場合には、こうして概観した中における(in denen)商人の経営(die kaufmännischen Betriebe)と工業経営(die industriellen Betriebe)がその種類と数(Art und Größe)が明らかになり(in die Erscheinung treten)、帳簿記帳において準備される授業を必ず配慮しなければならない(muß)、高校の生徒の義務として同じ範囲内に(in konzentrischen Kreisen)したがつている授業を色分けするようになる。

一方で、われわれは、わずかな時間だけで(ie nur wenig Zeit)理論的な専門教育に用いることを可能にする、そして、経営の下部の段階に勤務する(tätig)ことが求められている高校の生徒たちの知的な素質と関連していることが、高校の生徒たちが後の職業において活用することが可能となり、また、教師が決して見落とすことがないことが高校の生徒に提供していなければならない。

授業の目標が帳簿記帳の授業だけでなく、自己教育(die Selbsterziehung)一本立ちすること(die Selbsttätigkeit)積極的なことが(die Selbständigkeit)のそれぞれの中に一般的な(überhaupt)それぞれの授業目標があることがすでに強調されている。

実際の高校の生徒がどの程度の(wie weit)生活することができ、高校の生徒(er = der Schüler)が職業上の下位の段階の留まり続けるのか、または、職業上の中

位に昇進するか、そのうえさらに最上位に昇進するのかわかることは知る教師はいない。その結果として、それぞれの授業における、授業のより低い段階(der niedrigsten Stufe)ないし同じ範囲の第一番目(der ersten konzentrischen Kreise)が、その発端(der Keim)が最も高い展開に含まれなくてはならない。

S.12

このことは、われわれが第一番目の同じ範囲内において(im ersten konzentrischen Kreise)、授業のより高い段階での拡充(der höheren Ausbau des Unterrichts)に関する基礎としてすでに授業の素材を(den Unterrichtsstoff)用いているという方法で行われており(geschehen)、より高い授業の素材はより低い段階の授業を構成している(enthalten sind)ものである。

私(ich = Johann Friedrich Schär)は25年以上に亘(わた)って商業学校において(an einer Handelsschule)同じ範囲の授業の素材のこのような拡充における(auf diesen Aufbau)必要性を伴っている(mit Notwendigkeit)実際の要求を(der praktischen Bedürfnisse)考慮してひとりで(von selbst)行うようになる(geführt wurde)という効果をもっている。

つまり、私(ich = Johann Friedrich Schär)は相前後している以下に述べる3年のコースでの授業が与えられなければならない(zu erteilen hatte)。第一年のコースは約100人の高校の生徒がおり、第二年のコースには50人の高校の生徒がおり、第三年のコースにはほぼ15人から20人までの高校の生徒がいた。半分以上の者が一年のコースだけを学び、高校の生徒の1/5のものは3年間全体の教材に達することはない。

したがって、私(ich = Johann Friedrich Schär)は、第一年目に、高校の生徒(er = der Schüler)が【訳者挿入：同じ範囲の中での】均整のとれた形で完了するような初めてのクラスにおける授業を形作らなければならない(gestalten mußte)。そして、この初めてのクラスの高校の生徒(die Schüler der ersten Klasse)が授業のある種を完結したものを持った者として学校から巣立って行くことを可能としなければならない。

したがって、第二番目のクラスにおいて(in der zweiten Klasse)同じ範囲の授業があり、第三番目のクラスの学生(die Schüler der dritten Klasse)が課題を完全に達成す

る(das vollständige Pensum erreichten)場合に、私は個人的な人間形成が完了するものとは信じては考えていない(weit entfernt, zu glauben)。

反対に、私は—このような大多数のケースにおいてこれまでに卒業していった高校の生徒がその仕事において立証されていることだが—卒業生(sie = die gewesenen Schüler)が実生活において容易にその全体像を容易に(mit Leichtigkeit)見当づけることが可能となり(zurechtfinden konnten)、自発的な思考を養成されているという確信を抱いていた(die Überzeugung hegte)。

私(ich = Johann Friedrich Schär)が、25年以上に亘る経験において(in mehr 25jähriger Erfahrung)あらかじめ考え抜かれたテーマの順番(die methodische Stofffolge)と授業の素材を選択すること(die Auswahl des Unterrichtsstoffes)に関して検証したこと(was · · geprüft)と正しい位置にある(richtig befunden)ということが、私(ich = Johann Friedrich Schär)が、こうしたことに従って展開しているものと考えている。

私(ich = Johann Friedrich Schär)は、私(ich = Johann Friedrich Schär)がそれぞれの通年のカリキュラム(jedes Jahrespensum)が二つの相前後している段階に分解しており(zerlegt habe)、ある意味においては(in gewissem Sinne)それぞれのセメスターに関して(für jedes Semester)ひとつの最終的な結果(ein Abschluß)が成り立つことになり、六つの段階において(in sechs Stufen)体系的な学説の全体(das ganze Lehrgebäude)を配列している(sich aufbaute habe)ことをあらかじめ述べておく(vorausschicken will)。

第一段階。単純な計算手続きまたは帳簿記帳の構成要素
(Erster konzentrischer Kreis [I. und II. Stufe])

A. 現金計算 Kassenrechnung

1. 現金計算の課題と内容(Aufgabe und Inhalt der Kassenrechnung)
2. 現金計算を表示することに関する例示(Beispiele über die Darstellung der Kassenrechnung)
 - a) 締め切りと繰り越しを伴う現金帳簿の丁付け(Foliiertes Kassabuch mit Abschluß und Vortrag)
 - b) ページに二重の段を持った現金帳簿の丁付け(Paginiertes Kassabuch mit doppelten Spalten)
 - c) (Paginiertes Kassabuch mit Halbseiten)

- d) 現金勘定についての現金締め切りの伝票(Kassaschlußzettel zum Kassakonto)

S.13

現金計算と関連して、勘定を設けること(die Einrichtung)と勘定の考え方(der Begriff)を発展させることは目的に合ったものである。

しばしば起こることは、われわれが、帳簿記帳の授業が徹底的な調査を始めることである。

私(ich = Johann Friedrich Schär)の経験によれば、こうしたことは正しいことではない、その理由は不適当な新しい概念が明らかにされなければならないためである。

現金計算(die Geldrechnung)始めることは予め考えられているものの中で最も適切なもの(das richtigste)としてしっかりしたもの(sicher)であり、一方では、現金の業務上の管理(die Kassaverwaltung)と現金計算(die Kassarechnung)に関する理解が一般的に当然のこととして仮定されていることが可能であり、他方では、現金計算(die Kassarechnung)が単純な簿記処理の最も下位に位置し、第1番目の段階であるが最も必要な段階であるためである。

真っ先に、借方(das Soll)と貸方(das Haben)という用語ではなく、収入(die Einnahmen)と支出(die Ausgaben)という用語を用いる方法で始められ、そして現金の覚書(die Kassenotiz)として現金勘定(das Kassakonto)が使われる可能性がある(führt werden kann)。

現金勘定としての現金計算を教えること(Belehrung)がこうしたことに引き続いて行われる。そこでは収入項目(der Einnahmeposten)と支出項目(dan Ausgabeposten)に関して一般的な名称(eine allgemeine Bezeichnung)が選択されており、例えば、現金での商品の流通：顧客への現金の支払い：経営支出(Betriebsausgaben)、貨物運賃(Frachtkosten)等がある。こうすることによって、現金勘定について(auf das Kassakonto)の、または複式簿記について(auf die doppelten Buchhaltung)の準備がなされた。

現金の証拠となるもの(die Kassenbelege)では、収入における(in den Einnahmen)ものも支出におけるもの(in den Ausgaben)もその教えるもの(die Belehrung)を拡大させなければならない(sich · · auszudehnen hat)。

一ヶ月間に関する現金計算において、日付順に整理することに従って(nach chronologischer Ordnung)内訳金額(die Posten)が記帳されている(gebucht hat)場合には、毎月の構成表(ein monatlichen Zusammenstellung)の場合には、記入されている金額(die Posten)は事務的なものにならない(zu ordnen sind)。(現金元帳の仕訳における事前準備)

B. 人名計算 Personenrechnung.

a) 債務(der Debitor)と債権(der Kreditor)。信用取引に関する初歩的な教え(elementare Belehrungen)

b) 人的勘定と整えること(die Einrichtung)：(Die Einrichtung der Personenkonten)

貸方(das Soll)と借方(das Haben)を導き出すこと；(Ableitung von Soll und Haben)

人的勘定への初歩的記帳(die Elemente der Eintragungen in die Personenkonten)

債務計算(der Debitorenrechnung)と債権計算(der Kreditorenrechnung)における残高の概念と意義

これらのテーマに関する試験授業(die Probelektion)を自由に使えるものとして、我々は以下のプランを付け加える。

1. 信用取引(= 信用の流通：der Kreditverkehr)において我々が切り離しているそれぞれの人(= 法人：取引先)に、われわれは、当該取引先(= der betreffenden Person)を中見出し(die überschrift)としている勘定口座(ein Konto)が設けられなければならない(eröffnen müssen)。
2. 負債側(die Schuldseite)すなわち借方側(die Sollseite)からの勘定と財の貸方側(Guthabenseite)すなわち貸方側(Habenseite)からの勘定がある。(借方記入[Belastung]と貸方記入[Gutschrift])
3. 当該の取引先(die betreffende Person)が我々から現金もしくは現金価値を持つもの(Geld oder Geldswert)を受け取っているもののすべてが、借方側に(auf die Sollseite)含められる：借方記入(die Belastung)
4. 当該の取引先(die betreffende Person)が我々から現金もしくは現金価値を持つもの(Geld oder Geldswert)を保有しているすべてが、貸方側に(auf die Habenseite)含められる：貸方記入(die

Gutschrift)

5. 取引先の金の貸方記入 (das Guthaben der Person) を減少させる金額 (die Geldbeträge) は値引き (der Rabatt)、割引 (der Nachlaß)、贈与 (die Schenkung) 等々を差し引くものであり、これらの勘定の借方に (in das Soll dieses Kontos) に含まれる。

S.14

6. 取引先の負債 (die Schuld der Person) を減少させる金額 (die Geldbeträge) は、割引 (der Nachlaß)、値引き (der Rabatt)、贈与 (die Schenkung) のように、そして同じく差し引かれるもの (ähnliche Abzüge) であり、これらの勘定の貸方に (in das Haben dieses Kontos) に含まれる。
7. 借方残高 (der Sollsaldo) は一つの勘定の借方合計 (das Sollsumme) と貸方合計 (das Habensumme) の間の差額 (der Unterschied) であり、(借方合計 [das Sollsumme] が貸方合計 [die Habensumme] を超えるのが利潤 [der Überschuß] である) 当社に (mir = 私に) 債務者である当該取引先 (当該勘定保有者: der betreffende Kontoinhaber) がどれくらいの借りがあるかを当社が申告する (er angibt)。
8. 貸方残高 (der Habensaldo)、すなわち、ひとつの勘定の貸方合計 (das Habensumme) と借方合計 (das Sollsumme) との間の差額であり、当社 (ich) が債権者 (der Kreditor) である当該取引先 (当該勘定保有者: der betreffende Kontoinhaber) に未だに (noch) 借りがあることをその合計 (die Summe) が述べている。
9. 債務者である顧客と伴う商取引 (der Verkehr) の場合、第一に (das Erste) 自分の財の貸方が発生し、第二に (das Zweite) 同価値のものを受け取ることになる、つまり、借方 (das Soll) は債務者が受領するもの (das Empfangen) と蒙 (こうむ) ることになる借りが現れ (kommen)、その後にはじめて受け取ることとなり、すなわち、貸方 (das Haben) となる。
10. 債権者である商品の納入業者との商取引の場合、第一に (das Erste) 自分の債務が債務が発生し (das Entstehen meiner Schuld)、第二に (das Zweite) その債務の弁済 (ihre Tilgung) が発生する。つま

り、貸方 (das Haben) は債権者が与えるものが現れ (kommen)、その後にはじめて受け取ることとなり、すなわち、貸方 (das Haben) となる。

11. 人的勘定を締め切る (der Abschluß) 場合には、借方残高 (der Sollsaldo) が貸方における (in das Haben) 最終項目として (als letzter Posten) 計上され (eingestellt wird)、反対に、貸方残高 (der Habensaldo) が借方における (in das Soll) 最終項目として (als letzter Posten) 計上される (eingestellt wird)。(手続きを正当なものとする)。
12. 新規に (人的勘定 = 人名勘定) の口座を開設すること (die Neueröffnung) 人的 (= 人名) 勘定を直接締め切ることになり、古い計算の残高 (die Saldos der alten Rechnung) を繰り越すことになる (im Vortrag bestehen)。
貸方残高 (der Sollsaldo) は新しい計算 (die neuen Rechnung) の最初の貸方項目として (als erster Sollposten) あらわれ、借方残高 (der Habensaldo) は新しい計算 (die neuen Rechnung) の最初の借方項目として (als erster Habenposten) あらわれる。
13. ひとつの項目を借方に記入することは、その勘定が負担しているものを借方に記入することを意味しており、ひとつの項目を貸方に記入することは、その勘定が負担しているもの (entlasten)、認識しているもの (erkennen) すなわちその勘定に (ihm) なにか (etwas) を貸方に記入するもの (ihm etwas gutschreiben) を貸方に記入することを意味する。
14. 借方はだれが受け取っているかを示しており、貸方はだれがあたえたかを示している。

こうした授業計画 (dieser Lektionsplan) が復習する場合 (bei der Repetition) に、要約すること (die Zusammenfassung) にも役立つものであり、一方では、教師がこの授業の主旨 (diese Leitsätze) を授業を意のままに用いることが可能になり、他方では、教師 (er = der Lehrer) が以下に述べる繰り返す課題によって (durch folgende Wiederholungsfragen)、どれだけの高校の生徒 (die Schüler) がその事柄 (die Sache) を把握しているかを教師自身が確かめることが可能となる。

1. どのような原則から、信用の流通 (Kreditverkehr) を伴っているそれぞれの人 (Person = Firma: 会社) が勘定 (ein Konto) が開かれる必要がある

(eröffnen muß)のか？

2. どのような項目が借方に (in das Soll) 収容されなければならない (einzustellen sind)、どのような項目が貸方に (in das Haben) 収容されなければならない (einzustellen sind) のか？
3. ひとつの項目が借方に (ins Soll) または貸方に (ins Haben) に含まれるか否かを調べるために (untersuchen)、どのような質問がされるか？

S.15

4. ひとつの項目にどのような内容が含まれなくてはならない (enthalten muß) か？
5. 債務者 (der Debitor) があるとき、債権者 (der Kreditor) があるとき、どのように収支決算して勘定が締め切られている (ausgeglichen ist) のか？
6. 勘定を締め切ること (der Abschluß eines Kontos) はどのような方法で行われるのか？
7. なぜ、借方残高 (ein Sollsaldo) が決算の場合には (beim Abschluß) 貸方に (in das Haben) 含まれなければならない (eingestellt werden muß) のか？ なぜ、借方残高 (ein Sollsaldo) が新しい計算の場合には (bei der neuen Rechnung) 借方に (ins Soll) 含まれなければならない (eingestellt werden muß) のか？
8. どのテキストを用いて、a) 決算の場合、b) 新しく勘定を設ける場合に残高を記帳するのか？
9. なぜ、決算の場合にだけ残高が見積もられるものではないのか？
10. いつでも残高が見積もるために、二つの手続き (beiden Verfahren) がなぜ用いられているのか？
11. 差し引く項目をどのように理解し、どのようにこの差し引く項目が現れるのか？
12. このような差し引く項目がどのように記帳される (eingetragen werden müssen) べきか？
13. このような差し引く項目 (sie = die Subtraktivposten) が人的勘定 (人名勘定 = die Personenkonten) に銘記されねばならない。

c) 当座勘定元帳 (das Kontokorrentbuch) と現金元帳に

対する関係 (例えば、現金勘定における複式記帳と当座勘定における複式記帳)

ここでは、現金勘定と当座勘定に正反対の記帳が行われ、こうすることによって複式簿記に対する準備をさせることへの注意が喚起されなければならない (gemacht werden soll)。

d) 主だった支払手段 (Zahlungsinstrument) としての手形に関する根本的な教えでの手形流通における (im Wechselverkehr) 当座勘定の関係 (das Kontokorrentverhältnis)

e) 第3番目の人の調整による当座勘定取引 (Kontokorrentverkehr)

第3番目の人による支払いに関する基本的な例によって、高校の生徒 (die Schüler) は当座勘定取引 (Kontokorrentverkehr) の複雑な関係に対する (auf die verwickelten Verhältnisse des Kontokorrentverkehrs) 準備がなされる (vorbereitet werden) が、しかし、経営理論の観点からこうした例が大きな価値 (großem Wert) を持つことになる。

高校の生徒を自力させることを熱心に教わること (sehr belehrend) と目標と達成すること (Erzielung) が二つの人 (zwei Personen = 当事者間の取引) の間に同じ当座勘定取引 (einen und denselben Kontokorrentverkehr) が、一方では (des einen) 高校の生徒の半分が当座取引を課題とし、高校の生徒の他方の (die andere) 半分が他の商人の取引を課題とし、こうした課題が適切なものとなる (geeignet ist)。

C. 商品計算 Warenrechnung.

- a) 商品取引における (im Warengeschäft) 価値配分計算 (die Wertverrechnung) : 商品勘定における借方 (Soll) と貸方 (Haben)
- b) 特に、商品の評価の重要性 (die Wichtigkeit der Bewertungen der Waren) が在庫品によって指摘されていなければならない (hingewiesen werden muß) 商品勘定を用いた損益の算定 (die Berechnung von Gewinn und Verlust)
- c) 商品勘定のモデル表示 (die Musterdarstellung) は、借方項目 (Sollposten) 及び貸方項目 (Habenposten) のすべての種類が日付順に整理整頓されて (in chronologischer Ordnung) 現れてくるという観点

のもとで行わなければならない(erfolgen muß)。

S.16

d) 商品勘定の借方項目(Sollposten)と貸方項目(Habenposten)の研究

授業のこうした一定期間に果たすべき課題には、極めて大きな価値(der allergrößte Wert)が存在していなければならない(gelegt werden muß)、その理由は、商品勘定を理解するために必要であるだけでなく、カルクラチオン(die Kalkulation)に関して格別に欠くことのできないもの(ganz besonders · · unentbehrlich)が基礎となるものに対する後の段階に(späteren Stufen)役立つ(dient ist)からである。

e) 商品計算における(in der Warenrechnung)数量の差引計算(die Mengenverrechnung)

モデル表示を伴っている商品勘定(das Warenkontro)：ふつうの商品勘定でもありコンスタントのものとしても取り扱われ、後者(letzteres)は手形勘定(das Wechselskontro)と有価証券勘定(das Effektenskontro)へ導かれるものである。

f) 商品取引における(im Warenverkehr)価値の差引計算(die Wertverrechnung)と数量の差引計算(die Mengenverrechnung)の結合

モデルの例示と結び付けられている教育(diese Belehrungen)が実務に関して、特に、極めて大いに役立つものとなる(sehr wertvoll sind)。

D. その他の資産の構成部分に関する会計 Rechnungsführung über die übrigen Vermögensbestandteile.

a) 新しい在庫計算(die Bestandrechnung)。

この場合、よりよく管理されている商業的な取引において(in einem gut geleiteten kaufmännischen Geschäft)、資産の構成要素(der Vermögensbestandteile)勘定を用いた取り扱いが常に用いられており(bleiben)、一般的な原則(die allgemeinen Grundsätze)が、個々の事物に(auf die Einzelheiten)詳細に立ち入っていない(ohne · · näher einzugehen)在庫勘定が作成されなければならない(aufzustellen sind)。この節の成果として、考察されなければならない。

在庫勘定にあるものは、在庫勘定が他の方法で受け取ったものであり、このような在庫勘定のうちの1つが借方に(im Soll)記録され、別の在庫勘定には商品の出荷として貸方(im Haben)に現れるものであり、すなわち、在庫勘定に返さなくてはならないもの(schuldig)が記帳され(wird)、別の在庫勘定が借りを持つことになる(gut hat)。

このような事実(diese Tatsache)は、交換がどのようなものであるかを意味している、1つの財(ein Gut)が出て行く(gehen)とこのものと等しい価値(gleichwertiges)を持つ別の物(anderes)が受け取られるという、交換法則(Tauschgesetz)に依拠するものである。

そのために我々は、純粋な交換取引(die Tauschgeschäfte)におけるビジネス(die Geschäfte)と損益取引における(in Gewinn- und Verlustgeschäfte)ビジネス(die Geschäfte)とを区別しなければならない(unterscheiden müssen)。

純粋な交換法則(die reinen Tauschgeschäfte)は、ある在庫勘定の借方に(in das Soll des einen Bestandkontos)収容されている(eingestellt werden)と別の在庫勘定の貸方に(in das Haben des anderen Bestandkontos)収容されている(eingestellt werden)というものであり、損失取引(das Verlustgeschäft)は資産残高を減少させたものだけ(einzig)を在庫勘定の貸方に(in das Haben eines Bestandkontos)記録されなければならない(eingetragen werden müssen)。

収益取引(das Gewinngeschäft)は資産残高を増加させたものだけ(einzig)を在庫勘定の借方に(in das Soll eines Bestandkontos)収容されなければならない(eingestellt werden müssen)。

このような重要な事実がシステマティックな(複式)帳簿記帳(systematischen [doppelten] Buchhaltung)の出発点を構築している。

E. 棚卸しと言った徹底的調査 Die Inventur.

在庫調査についての教え(die Belehrungen über die Inventur)は、我々が最もよく(am besten)より大きくなっている商業取引(eines größeren kaufmännischen Geschäfts)を在庫調査のモデル表示(an die Musterdars-

tellungen der Inventur)に結びつけることである。

つぎのことが話題となる。

S.17

- a) 在庫調査の意義と法律的な規定
- b) 在庫調査の内容
- c) 資産の借方残高(die aktiven Vermögensbestände)と資産の貸方残高(die passiven Vermögensbestände)そして在庫調査に関する評価(die Bewertung zur Inventur)
- d) 棚卸項目(Inventurposten)の価値を永続的に作り続ける(dauernde・・Ergänzung)と一時的に作る事(vorübergehende・・Ergänzung)
- e) (借方[Aktiva]・貸方[Passive]といった)在庫調査の帳簿記帳上の表示、財産貸借対照表、損益計算そして在庫調査の最終的な貸借対照表的な表示

F. (単式帳簿記帳)結合された簿記手続き Kombinierte Rechnungsführung (Einfache Buschhaltung).

計算の初歩における教え(die Belehrungen)と練習(die Übungen)が先に行われた後に、実務に関して実際の営業(der praktischen Geschäftsbetrieb)と結びつけられ、そして単式帳簿記帳(die einfache Buchhaltung)が取り扱われることによって、実務に関する一定の重要な結論(ein bestimmten wichtigen Abschluß)を出すことが可能となる。

当然のように、授業の教材には(bei diesem Stoff)すべてのさまざまな補助元帳を伴っているいわゆる商人の単式帳簿記帳(die kaufmännische einfache Buchhaltung)が課題とされるのではなく(nicht kommt)、小規模な営業(kleineren Geschäftsbetrieb)と中規模な営業(mittleren Geschäftsbetrieb)で普通行われているような単式帳簿記帳(die einfache Buchhaltung)が課題とされる。

われわれは以下のような帳簿によって描写することを限定する、

1. 現金元帳の備忘録として第一級の覚書が用いられる。(Die Prima-Nota als Kassabuch-Memorial geführt.)
(備忘録であるメモには三つの段があり、初めの二つの段には現金取引を記入し、第三段には信用取引を記入する。)

2. 単式帳簿記帳が行われているいわゆる主要元帳(Das sog. Hauptbuch der einfachen Buchhaltung)
3. カルクラチオンされている購買元帳(Das Einkaufsbuch mit der Kalkulation)
4. 在庫元帳(Das Inventurenbuch)

ここでは帳簿記帳の授業が、高校の生徒が授業内容を(den Unterricht)実務に用いることが可能となるまでのある種の終わりまで達することになる(gekommen ist)。

実際には、商人的な経営においては、生涯に亘(わた)って一定期間内での教科では取り扱うことが出来ない教材から先に進むことのない極めて多数の社員(sehr viel Angestellte)がいる。

しかし、他方では、これらの社員(sie = Angestellte)はそれまでの授業に基づいてなんの苦もなく(mit Leichtigkeit)自分自身でさらに勉強を続けることが可能となる(sich selbst weiterbilden können)。

このことが第一番目の集中的な範囲の目標ともなる。

第二段階。複式簿記の導入：Zweite Stufe. Einführung in die doppelte Buchhaltung.

このことに関して、二つの異なる方法(zwei verschiedene Wege)が提供されており、これらから授業目的・基礎的な知識そして期間に従って、そこここに(den einen oder den anderen)に関わることが可能な(einschlagen kann)授業内容を自由に活用することになる。

S.18

簡略化されている方法(die abgekürzte Methode)が高校の生徒に簿記の基本(die Elemente der Rechnungsführung)乃至単式簿記(die einfache Buchhaltung)を認識させ、2時間で(bis zwei Stunden)高校の生徒に複式簿記の方法を教えるという目的を定める。

別の方法(der andere Weg)は、全部そろっている教科課程(der vollständigen Lehrgang)に関連されたものであり、この教科課程(den = der Lehrgang)によってわれわれは複式簿記のあらゆる困難(sämtliche Schwierigkeiten)をしだいに(nach und nach)克服することになる。

S.18

A. 簡略化されている方法(die abgekürzte Methode)：

Der abgekürzte Lehrgang.

短期間において(in kürzester Frist)複式簿記の本質と

意味関連を学ぶ技法(die Kunst)を、われわれは試験的な授業時間において(in einer Probelektion)最もよく具体的に説明する(am besten veranschaulichen)ことが可能となる。

私(=シェアー：Johann Friedrich Schär)は高等学校においてこうした試み(sie = die Probelektion：試験的な授業時間)を繰り返し行っている、そして、こうした方法で(auf diesem Wege)こうした試みの場合に(bei denen = bei der die Probelektion)複式簿記の一般的な理解(ein allgemeines Verständnis der doppelten Buchhaltung)を、予備知識なしにまたはほとんどなしに(keine oder nur wenig Vorkenntnis besitzen)身に付けられる(erreicht werden kann)を自分で確かめている(mich davon überzeugt, daß · · ·)。

複式簿記への導入(試験授業)：Einführung in die doppelte Buchhaltung (Probelektion).

教師：生徒諸君！ 私は、君たちにこの時間で(in dieser Stunde)人間の叡智(えいち)の中で最も素晴らしい発明したものとひとつである複式簿記(die doppelten Buchhaltung)についての知識を与えたいと思います(I möchte · · bekannt machen)。

あなたがた(sie = der Schüler)は、私があなたたちの親方(ihr Prinzipal)となり、私があなたがたの中から私の社員として10人(zehn)選びます、これら10人の各自(jeder von Ihnen)が私の小売業の支店を業務管理しなければなりません。

その結果、借方(das Soll)と貸方(das Haben)のあるひとつの勘定(ein Konto)を扱わなければならない(hat zu führen)ことになる。

したがって、あなた方(sie = die Schüler)は、借方と貸方を(von Soll und Haben)容易(たやす)く覚え、あなた方(sie = die Schüler)は、それら(sie = Soll und Haben)が以下の法則を示していることを心に銘記する。

| | | | | |
|--------------|---|---------------|---|--------------------|
| 誰かが受け取り | — | または失い | — | これが「借方(Soll)」である。 |
| Wer empfängt | | oder verliert | | der „Soll!“ |
| 誰かが与え、 | | または獲得し、 | | これが「貸方(Haben)」である。 |
| Wer gibt | — | oder gewinnt | — | der „Hat“. |

あなたがた(sie = die Schüler)によって委託されている財(das anvertraute Gut)が正しく管理されている

(richtig verwaltet)を確信するために、私(ich = der Lehrer)は、例外なく(ohne Ausnahme)それぞれの取引(jedes jedes Geschäft)が私の権利人のうちの二人によって記録される(aufgeschrieben wird)という処理(die Einrichtung)が適切に表現する。

その他の点では、こうしたこと(dies)がひとつの完備している管理組織(die vollständigen Verwaltung)を設けること(die Einrichtung)の逃れることのできない必要なもの(eine zwingende Notwendigkeit)となる。

全財産(das Hab und Gut)を正しく監視する(die richtigen Aufsicht)場合には、わたくしの財産から財の最も少ない一部(der geringste Teil eines Gutes)を取り去ることは不可能であり、(交換とは)そここの(ein anderes)同じ価値のある財を代わりに引き受けるものであり、すなわち、私の純粋な財産(mein Reinvermögen)が代わりに引き受けられていない財[dieses ausscheidenden Gutes = 問題とされていない財]の価値をより小さいものとすると思われる(es sei denn, daß · · ·)。「紛失(Verlust)盗まれる(Diebstahl)自然現象による破壊(Zerstörung durch Naturereignisse)」

反対に、(交換とは)私と同じ価値を持つ別の価値を私のものと取り替える(hinausgabe)場合、または、私の純粋な財産を(mein reines Vermögen)新たな財の価値を(um den Wert dieses neuen Gutes)増加させるというケースがない場合には、私の財産における新たな財を問題にすることはない。[賞金(der Gewinn)・贈り物(das Geschenke)・遺産(die Erbschaft)]

S.19

ここから、以下のことが出てくる。

1. ひとつの財のあらゆる増加していること(jeder Vermehrung)とひとつの財のあらゆる入荷(jedem Eingang)を相対峙させる、このことは、a)[交換では]異なる財の形態における同価値のものが減少すること(eine gleichwertige Verminderung)、b)[収益では]自社の純粋な財産(der reinen Vermögen)が増加すること(eine Vermehrung)のいずれかである。
 - a) 異なる財貨の形態における同価値の減少 — 交換(Tausch)
 - b) 純粋な財産の増加 — 収益(Gewinn)

2. ひとつの財のあらゆる減少していること (jeder Verminderung) とひとつの財のあらゆる入出荷 (jedem Ausgang) を相対峙させる、このことは、a) [交換では] 異なる財の形態における同価値のものが増加すること (eine gleichwertige Vermehrung)、b) [損失では] 自社の純粋な財産 (der reinen Vermögen) が減少すること (eine Verminderung) のいずれかである。

- a) 異なる財貨の形態における同価値の増加 — 交換 (Tausch)
b) 純粋な財産の減少 — 損失 (Verlust)

われわれは、このような全く明らかとなっている事実 (diese durchaus selbstverständliche Tatsachae) を帳簿記帳上の用語 (die Buchhaltungssprache) に置き換える、

1. 私 (= シェアー : Johann Friedrich Schär) は、純粋な財産 (das reine Vermögen) に関するひとつの勘定を築いている様に、それぞれの財の形態に関する勘定を築いている。
2. 異なる財の形態に関する勘定 (die Konten für die Güterformen) は、借方には (im Soll) 入荷 (den Eingang) ・増加を (der Vermehrung) を記録し、貸方には (im Haben) 出荷 (den Ausgang) ・減少 (die Verminderung) を記録する。
3. 純粋な財産に関する勘定 (die Konten für das reine Vermögen) は純粋な財産の減少である損失を借方に記録し (im Soll verzeichnen)、純粋な財産の増加である儲けを貸方に記録する (im Haben verzeichnen)。
4. そのために (daher) あらゆるビジネス (jedes Geschäft) がある勘定の借方に (im Soll des einem Kontos) 記入されそして配賦計算がなされ (eingeschrieben und verrechnet werden)、他の勘定の中のひとつの勘定 (ein anderen Kontos) の貸方に (im Haben) 記入されそして配賦計算がなされる (eingeschrieben und verrechnet werden)。

- a) はじめ。さまざまな勘定を貸借対照表の借方と貸方に割り当てる
(Die Eröffnung. Zuteilung der Aktiven und Passive an die verschiedenen Konten.)

経営者として (als Prinzipal) の教師 : アドルフ、あなたは貸借対照表勘定 (das Bilanzkonto) を扱うのです!

あなたの任務 (ihre Aufgabe) はビジネスの開始までに (zu Anfang des Geschäftes) 財産の借方構成部分と貸方構成部分をさまざまな勘定に (an die verschiedenen Konten) 割り当てなければならないことです。

現在、私の財産は現金が10,000^ズ、商品の在庫が35,000^ズ、(債務者 [Schuldner] である) 借主 (Debitoren) の場合に売掛金20,000^ズで、反対に、私には負債があり、分割払いの負債 (Schuldwechsel im Umlauf) が13,000^ズであり、(債権者 [Gläubiger] である) 貸主 (Kreditoren) には12,000^ズである。つまり、私の純財産は55,000^ズに達する。

われわれはバルドゥインを (Balduin) われわれの現金出納係 (der Kassierer) に選任し、10,000^ズの現金を手渡している。

(現金勘定が受け取り [empfängt] で借方で [Soll] あり、貸借対照表勘定の現金の入金 [gibt] が貸方 [Haben] である)

われわれの商品倉庫を閉じているシーザー (Cäsar) は、商人勘定 (das Warenkonto) を扱っており、35,000^ズの商品在庫が手渡されている。

(商品勘定の受取—借方 [Soll]、貸借対照表勘定が貸方 [Haben] となる)

われわれの(為替)手形のポートフォリオ (Wechselportefeuille) を管理しているディートリッヒ (Dietrich) は、送金為替勘定 (das Rimessenkonto) を扱っており、15,000^ズの送金為替手形が手渡されている。

(送金為替手形勘定が受け取られ、借方 [Soll]、貸借対照表勘定は貸方 [Haben] となる)。

S.20

エルヴィーン (Erwin) は、われわれの借主に関する正確な計算を行っている (借金の計算を行っている)。そのために、あなたがたは (sie) 20,000^ズのわれわれの未回収債権 (unserer ausstehenden Forderungen) を彼 (= Erwin) に手渡しており、つまり、エルヴィーン (Erwin) は、この未回収債権に関する (wofür = für unserer ausstehenden Forderungen) 責任を負っている (verantwortlich ist)。

(債務者勘定の受け取り、借方 [Soll]、貸借対照表勘定は

貸方[Haben]となる)

貸借対照表の貸方に割り当てられており、フリッツ(Fritz)は、為替手形勘定(das Trattenkonto)を持っており、借金の月賦返済の計算(die Schuldwechsel Rechnung)を行っている。

現金の入金(Eingang)を受け取ると、フリッツ(Fritz)は13,000^ズの金銭の流通における借金の返済(die Schuldwechsel)の義務を受け取り、この13,000^ズ(sie = Mk. 13,000)が貸借対照表勘定の借方に含まれ、そこでは返済されている負債(Wechselschulden)がその役目を果たし(entledigen)、そして、為替(振出)手形勘定(das Trattenkonto)の貸方に(ins Haben)、それが受け取られる(das übernimmt)。

ゲオルク(Georg)は、同じような方法でわれわれの負債(unsere Schulden)を債権者勘定(an die Kreditoren)引き継がなければならない。そのためにわれわれ義務の金額(der Betrag unserer Verpflichtungen)が、貸借対照表勘定の借方(ins Soll)に受け取られ(übernimmt)どれだけの負債が弁済されるか(welches die Schulden abgibt)を受け取られ(das sie übernimmt)、債権者勘定の貸方に(ins Haben)受け取られる(übernimmt)。

私、営業主に関するそれら(das Sie)が勘定を開くことになり、われわれは資本勘定(Kapitalkonoto)と言う、そして、当然のこととして、アドルフ(Adolf)が55,000^ズの純資産(reines Vermögen von Mk. 55,000)を私に負債が留められることになる、その理由は、私がこのような財産を(dieses Vermögen)営業に(in das Geschäft)差し出しており(hineinlege)、そのために、債権者と同様に(wie ein Gläubiger)同額が対峙させられており、われわれがその金額を(diese Summe)貸借対照表勘定の借方に(dem Bilanzkonto ins Soll)定め(setzen)、資本勘定の貸方に(dem Kapitalkonto ins Haben)定めるためである。

グレッグ：営業主様、この点は私にはいまだに明確なものとなっていません。貸方勘定(das Kreditorenkonto)は、負債を管理することが繰り返しているものを受け取り、貸借対照表勘定(das Bilanzkonto)が負債を与えていることになる。

したがって(folglich)、「借方(Soll)」である受領している事(die Empfänger)・「貸方(Hat)」である与えている事(der Geber)は、負債の金額(die Summe der

Schulden)を挙げている項目(der Posten)が貸方勘定の借方に(ins Soll des Kreditorenkontos)そして貸借対照表勘定の貸方に(ins Haben des Bilanzkontos)収容される(eingestellt werden)、あなたがたが言っているように(wie Sie gesagt haben)その反対のことは行われぬ(nicht umgekehrt)。

経営主(Prinzipal)：私はこうした異議(der Einwand)を了解している。初学者のほとんど(fast jeder Anfänger)が負債を取り入れること(die Einstellung der Schulden)を間違えている。

貸方勘定において(im Kreditorenkonto)私の債権者に関するすべての勘定がひとつにまとめられており(vereinigt)、具体的には(nämlich)全部で12,000^ズが必要とされているという事情であり、そのために、(売掛金のような)貸しの側における入金(der Eingang)の総額(diese Summe)が対峙させられなければならない(eingestellt werden muß)ことは疑いもないことである。

貸借対照表勘定が採用されること(das Eingangsbilanzkonto)は、資本勘定の位置(die Stelle des Kapitalkontos)を主張している補助勘定にむけられること(zur ein Hilfskonto ist)となり、経営主(der Prinzipal)が総額12,000^ズを負債とし、これらの勘定と負債側(die Schuldseite)すなわち借方側(Sollseite)と対峙させなければならない(eingestellt werden muß)、そのために(daher)、貸借対照表勘定に収容されているものが借方(Soll)、債権者勘定が貸方(Haben)という考え方(die Eingestellung)になる。

アドルフ(Adolf)：貸借対照表勘定がさまざまな管理機関に配分されている資産の構成要素が受領勘定の借方と貸借対照表に収容されている勘定の貸方に入る(kommen)、したがって、貸借対照表の貸方(die Passiven)が正反対の方法で(in entgegengesetzter Weise)対峙されなければならない(eingestellt werden müssen)、つまり(d.h.)為替手形勘定(Tratten)・債権者勘定(Kreditoren)・資本勘定(Kapitalkonto)の貸方(in Haben)と貸借対照表に収容されている勘定の借方(in Soll)が対峙されなければならない(eingestellt werden müssen)。

S.21

記録文書にしたがって貸借対照表に収容されているものは、以下のように構成される、

| | | | | | |
|----|--------|--------|----|--------|--------|
| 借方 | 為替手形勘定 | 13,000 | 貸方 | 現金勘定 | 10,000 |
| | 債権者勘定 | 12,000 | | 商品勘定 | 35,000 |
| | 資本勘定 | 55,000 | | 為替手形勘定 | 15,000 |
| | | | | 債務者勘定 | 20,000 |
| | | 80,000 | | | 80,000 |

経営主(Prinzpal)：この構成は正しい。アドルフ(Adolf)は、営業を始めるという任務(die Aufgabe)を持ち、われわれは決算までには(bis zur Schlußrechnung)もはやアドルフの(seiner:彼の = Adolf's:アドルフの)手助けを必要とはしない。

貸借対照表の借方(aktiven)の資産の構成要素は該当している管理機関に初めに採用された項目(erste Eingangsposten)または借方項目(Sollposten)に配分されている(verteilt sind)、反対に、貸借対照表の貸方(passiven)の構成要素と純資産(das reine Vermögen)は、最初の項目として(als erste Posten)さまざまな勘定の貸方に計上されている(sich befinden)。

われわれが経営の進行状況(Geschäftsgang)に移る前に、私(ich = der Prinzpal)は営業の雑費(die Handlungskosten)に関する管理者としてハンス(Hans)を選任し、損益計算を扱う者(über Verlaust und Gewinn Rechnung führt)としてヤコブ(Jakob)を選任する。しかしながら、われわれは決算の場合に(bei der Schlußrechnung)はじめて彼らの職務を必要とする。

S.21

b) ビジネスの経過：Der Geschäftsgang.

経営主(Prinzpal)：私はビジネス(die Geschäfte)だけを整理し、あなた方(sie)はこれら(sie)を作り上げ、そして正しく差引勘定しなければならない。

1. ビジネス. Geschäft.

消費組合がここで、5,000^ズの商品を必要とし、これに対し(gegen)即金払いが必要とされている。

シーザー：私は予約されている商品を配達し、(商品勘定の貸方に)出荷5,000^ズの価値を記帳する。

バルドウィン(Balduin)：私は現金で(in bar)等価物を

(den Gegenwert)を受け取り、これを受け取っているために(weil es empfängt)、現金勘定の借方に5,000^ズを記帳している。

経営主(Prinzpal)：全く正しい。

バルドウィン(Balduin)は過失から(aus Versehen)またはもくろみから(aus Absicht)(現金の借方である)現金勘定の借方に4,995^ズだけが記帳され(eintragen würde)、私は商品勘定を点検する場合(beim Nachsehen des Warenkontos)に誤りを(den Fehler)直(ただ)ちに見つけ出さなければならない(sofort entdecken müßte)、その理由は反対の項目として5,000^ズ(Mk. 5,000 als Gegenposten)を記帳している(ingeschrieben stehen)ためである。したがって、すべてのビジネスを伴っているものである。

S.22

これら(sie = all Geschäften)は二つの(勘定：Konten)管理機関(Verwaltungen)によって差引勘定され(verrechnet werden)、そのために、これらの勘定を比較する場合(bei Vergleichung dieser Konten)それぞれの誤り(jeder Fehler)が現れてくる。

エルンスト(Ernst)：しかし、バルドウィン(Balduin)とシーザー(Cäsar)は一致して(übereinstimmend)同じ誤りを(den gleichen Fehler)を犯しており、5,000^ズの代わりに4,995^ズを記帳すべきか？

経営主(Prinzpal)：このことには誤りはない。こうした原則から私はシーザー(Cäsar)の記帳は消費組合における納品書と比較されなければならない(vergleichen muß)またバルドウィン(Balduin)の記帳は現金勘定において発行されている(die er ausstellt)領収書(die Quittung)を用いなければならない。証拠書類(die Dokumente)を検証し、勘定に記入することで証拠書類を比較するという作業(dieser Arbeit)を私はこれまで知らないことであった。

2. ビジネス. Geschäft.

経営主(Prinzpal)：税金(der Steuereinnehmer)は200^ズの営業税のレシートを呈示される。

バルドウィン(Balduin)：私は税金(die Steuer)を支払い、勘定の貸方に200^ズを記帳する。

ヤコブ(Jacob)：このことは、純資産の減少(eine Verminderung des reinen Vermögens)をもたらすものであり、私は損益勘定の貸方に(in das Haben des Verlust-

und Gewinnkontos)項目を負担させる。

経営主(Prinzipal)：確かに！ しかし私は、われわれが取引関係の最後に(am Ende im Zusammenhang)損益が集められていることは既に述べている。そのために、われわれは雑費勘定における(im Spesenkonto)項目を(den Posten)さしあたり書き留めておきます。

ハンス(Hans)：私は既に以前に言っていることであり、しかし、ヤコブ(Jakob)は先んじており、私は雑費の借方に項目を記入している。

3. ビジネス. Geschäft.

経営主(Prinzipal)：オスヴァルト兄弟は、現在(heute)所有されている手形4,000^ズをここで(hier)呈示し、私によって(von mir)引き受けられている。手形は真正のものであり(echt ist)、そして手形呈示人によって(vom Präsentanten)領収のサインがされている。

バルドウィン(Balduin)：私は4,000^ズの支払いをし(bezahlen)、それらを現金勘定の貸方に記入する(notieren)。

フリッツ(Fritz)：為替手形勘定(das Trattenkonto)が、その同額が(um dieselbe)われわれの手形負債額(unsere Schuldwechsel)が額面金額よりも小額で流通されているが、額面金額で受領され、その受領された金額を為替手形勘定の借方に(Trattenkonto Soll)記帳される。

経営主(Prinzipal)：全く正しい！ 現金を一生懸命に管理することによって(durch Hingabe)私はある種の手形負債額を流通させることをおさえる。現金の集金 - 現金の貸方記帳、負債手形の入手 - 為替手形勘定の借方記帳、ここでは、現金の減少(der Verminderung des baren Geldes)が負債の減少(eine Verminderung der Schulden)が相対峙させられているが、しかし、負債手形の弁済によって(durch die Tilgung dieser Wechselschuld)私は自分の資産(mein Vermögen)を増加させる(vermehrte)、そのために、われわれはビジネスの場合(bei diesem Geschäft)以下のように対置(die Gegenüberstellung)させている、すなわち、為替手形勘定における所有残高の増加 = 現金勘定における同額の減少。

S.23

4. ビジネス. Geschäft.

経営主(Prinzipal)：ニュルンベルクにおけるアレクサンダー岩(Alexander Fels)が、われわれに送られている途上にあり(die an uns unterwegs sind)、商品には7,500^ズの金額の納品書が送られており、その納品書の有効期限は三ヶ月であり(Verfall 3 Monate)

シーザー(Cäsar)：このことは私の商品在庫(Warenvorrat)を増大させるものであり、私は、商品勘定の借方にその項目をメモっている。

ヘルマン(Hermann)：この商品はまだ課題とはなっていない、したがって、帳簿に記帳すること(die Buchung)は早すぎる。

経営主(Prinzipal)：とんでもない(Keinisweges)！ 商品(die Ware)が私の勘定で搬出し(reist)、商法に従って(nach Handelsrecht)私の所有物(mein Eigentum)が鉄道で引き渡される時刻で(mit dem Zeitpunkt der Übergabe an die Eisenbahn)搬出されており(reist wird)、つまり、シーザー(Cäsar)は正しいことになる(recht hat)。

ゲオルグ(Georg)：当座勘定の負債が7,500^ズ増加している；債権者の岩(der Kreditor)があることから 私は貸方勘定の貸方に(ins Haben des Kreditorenkontos)項目をメモっている。

5. ビジネス. Geschäft.

経営主(Prinzipal)：ハンブルクの E. アルバニ(E. Albani)の7,200^ズの要求(die Forderung)が所有に帰しており(verfallen ist)、われわれは、それをわれわれのポートフォリオから(aus unserem Portefeuille)ふさわしい為替手形(eine passender Rimessse)によって補償される。

デトリッヒ(Dietrich)：私はアルバニに7,200^ズの為替手形(einen Wechsel von Mk. 7,200)返却し、為替手形勘定の貸方(Haben, des Rimessenkontos)は出荷額(die Summe im Ausgang)を記帳しており、経営者殿(Herr Prinzipal)、あなた(Sie)は裏書き署名をされますか？

ゲオルグ(Georg)：私の債権者であるアルバニ(mein Kreditor Albani)は7,200^ズを受け取っており、負債(die Schulden)が減少する、そのために私は債権者勘定の借方に(ins Soll des Kreditorenkontos)項目をメモる。

6. ビジネス Geschäft.

経営主(Prinzipal)：運送業者(die Fuhrmann)はたったいま(soeben)鉄道に商品を発送しており、運送500^ズの貨物の送り状の(des Frachtbriefes von Mk. 500)支払いを要求する(Zahlung verlangen)。

バルドウィン(Balduin)：私は500^ズを支払い、現金勘定の貸方にその金額を記入する(notiere)。

ハンス(Hans)：これらの項目はビジネスの正規の経費・通常経費以外の雑費(die Geschäftskosten)に含められ、私は、これを雑費勘定の借方に記入する(notiere)。
シーザー(Cäsar)：ハンス(Hans)は思い違いをしている！ 運送費(Transportkosten)は商品の大量の買い付け価格(die Ankaufpreise)の構成要素となり、その価値がこの金額を増大させることは明らかなことであり、そのために、私は商品勘定の借方に500^ズを記帳する。

経営主(Prinzipal)：正にそのとおりだ、シーザー(Cäsar)！ 貨物運賃(Fracht)・道路などの通行料(Zoll)・保険(Assekuranz)の原価(die Kosten)は商品取り扱いの正規の経費・通常経費以外の雑費として(als Handlungskosten)雑費に負担させなければならない(zu belasten ist)。

これら[貨物運賃(Fracht)・道路などの通行料(Zoll)・保険(Assekuranz)の原価]は確かに購買されている商品の数量を増加させるものではないが、しかしその価値となるものであり、そのために、これらの原価は商品勘定の借方に含められる。

S.24

7. ビジネス. Geschäft

経営主(Prinzipal)：ミュンヘンの E. ロンコは、われわれの8,000^ズの商品の発送を受け取っており、その金額に関する為替手形を振り出しており(die Tratte wird ausgestellt)、われわれは E.ロンコ宛に手形を振り出しており、こうしたことを記帳している。

フリッツ(Fritz)：為替手形(eine Tratte)が取り扱われることから、為替手形勘定の借方に(ins Soll des Trattenkontos)この項目が含まれることになる。

デトリッヒ(Dietrich)：全く正しくない！ われわれによって入手されている為替手形(die gezogenen Tratten)は、負債手形(Schulwechsel)ではなく、所有手形(Besitzwechsel)であり、そのために、これら入手されて

いる手形(sie = die gezogenen Tratten)は為替手形勘定(das Trattenkonto)とのかかわり合いをもつものではない。われわれが手形を(einen Wechsel)手に入れ、その手形をポートフォリオである書類カバンに入れることによって、送金為替の残高のおける増加が起こり(entsteht)、そのために、その項目(der Posten)が送金為替勘定の借方に(in das Soll des Rimessenkontos)含められる。

エルヴィーン(Erwin)：ロンコ(Ronco)が為替手形の満期の場合に(bei Verfall des Wechsels)支払いを果たす(Zahlung leisten)ことから、私は今日にいたるまで債務者勘定(das Debitorenkonto)を認識することは不可能であり(nicht erkennen kann)、われわれはこの項目を(den Posten)を何ら貸方に収容することが出来ない(einstellen können)。

経営主(Prinzipal)：確かに満期になっている為替手形(er = die verfallende Wechsels)が債務者勘定の貸方に含められることになるが、ひとつの要求から(aus einer Forderung)二つのことが形づくられることは不可能であり(nie · · · zwei mache kann)、われわれはわれわれの財産(unsern Besitzstand)を送金為替勘定に(im Rimessenkonto)8,000^ズに増加し、ロンコについて(an Ronco)の当座勘定の要求(die Korrentforderung = 当座勘定における要求払い：相殺されている債権)が引き続き可能なものとなるケースがあるものと考えられる。

私が帳簿に基づく債権(die Buchforderung)を手形債権に(in eine Wechselforderung)変化させる(umwandle)時期から(von dem Augenblick an)、債務者であるロンコがそれ自身の債務はもはや増加するのではなく、正当な手形持参人に対する支払い義務が増加し、そのために、そのために私の帳簿に基づく債権が失効することになり、つまり、ロンコもしくは債務者勘定が貸方記入されなければならない(zu kreditieren ist)。

8. ビジネス. Geschäft

経営主(Prinzipal)：カールスルーエのアーロイス・フロイトは30日以内に支払う商品11,300^ズを注文し、その商品が今日発送され、その積み荷明細書(die Faktura)が発行された(ausgestellt wird)。

シーザー(Cäsar)：私は商品を引き渡し、そして商品勘定の貸方にその項目を記入する。

エルヴィーン(Erwin)：アーロイス・フロイト(A. Freud)

はわれわれの11,300^{フラン}の債務者となり、そのために、私は債務者勘定の借方にこの項目を記入する。

9. ビジネス. Geschäft

経営主 (Prinzival) : ここで、エミール・クランツ (Emil Kranz) は、今日、私に4,500^{フラン}の商品を倉庫に納品した、そして、私によって自己宛手形が振り出され、このことに関する補償がなされる (gedeckt wird)。

シーザー (Cäsar) : 4,500^{フラン}の商品が入荷し、私は商品勘定の借方にこの項目を記入する。

フリッツ (Frits) : 私はこの商品に対して (dafür) 負債手形 (der Schuldwechsel) で支払い (geben)、為替手形勘定の貸方に (ins Haben der Trattenkontos) にこの項目を記入する。

経営主 (Prinzival) : 正しい。つまり、あなたがたが考えているように (wie Sie sehen)、われわれは、入手した手形の引受人 (Akzepten eines gezogenen Wechsels) と約束手形の振出人 (Eigenwechseln eines Eigenwechsels) との間の区別を行っていない。実際には (in der Tat) 私は最終的な手形債務者 (unwiderruflicher Wechselschuldner = 決済者) であり、私は入手した手形の引受人 (Akzeptant) としてまたは約束手形の振出人 (Aussteller) としての義務を負っている (verpflichtet sei)。

S.25

10. ビジネス. Geschäft.

経営主 (Prinzival) : バルドゥイン (Balduin)、私はあなたに、現金200^{フラン}を私用のために (zu meinem Privatgebrauch) 私に支払ってくれるようお願いする。

バルドゥイン (Balduin) : ここに200^{フラン}あります、私は現金勘定の貸方にこの項目を入れなければならない (einstellen muß)。

ハンス (Hans) : ここでは、雑費勘定の借方に (ins Soll des Spesenkontos) 含まれるビジネス上の (正規の経費・通常経費以外の) 雑費が問題となる。

経営主 (Prinzival) : もうまた判断を誤りました。私が個人的に (für mich persönlich) または私の家族全員が使うものは、商売上の雑費 (Handlungskosten) とはならない。私は、ビジネスから現金を引き上げることによって (durch diesen Rückzug) 私の企業への出資分 (meine Kapitaleinlage) を明らかに減少させることになる。経営

主 (Prinzival) が自身に手形を振り出す (für sich bezieht) ことは、資本勘定の借方に (in Soll des Kapitalkontos) に含まれる。

※ここでみられる 10. ビジネス. Geschäft. の取引内容に関して、シェアー (Johann Friedrich Schär) は【脚注】において「資本勘定：われわれが考えているように、われわれが所有している個人的な勘定の導入 (die Einführung des Privatkontos) は、試験的な授業の中では (in der Probelektion) 取り扱わない (Abstand genommen)」ことを示している。

試験的な貸借対照表：Probabilanz.

経営主 (Prinzival) : このような方法で会社 (Geschäft) がビジネスについて (um Geschäft) 年度の初めから終わりまでを帳簿に記帳されており (gebucht wird)、ときおり (von Zeit zu Zeit) 例えば (beispielsweise) 月末ごとに、帳簿記帳の正しさ (die Richtigkeit der Buchungen) を自分で確かめて認め (überzeugen = innen Prüfung) らなければならない (muß)、そして会社自身の作業 (seine eigene Arbeit) が検証されなければならない (prüfen muß)。

アドルフ (Adolf)、私が重要なセルフコントロールを実行に移す (ausführen) ことがどのようにして可能となりますか (wie · · kann) そしておそらく (und · · wohl) テストを仕上げる (Probe ausführen) がどのようにして可能となりますか (wie · · kann)。

アドルフ (Adolf) : とても単純な方法です。

それぞれの項目が、ひとつの勘定の借方に (im Soll des einen Kontos) そして別の勘定のうちのひとつの貸方に (im Haben eines anderen Kontos) 2回記帳されており、したがって (folglich) その都度 (jedrzeit) すべての勘定における (in sämtlichen Konten) 借方の項目すべての合計 (die Summe aller Sollposten) が貸方の項目すべての合計 (die Summe aller Habenposten) と必ず等しくなる (gleich muß)。

私 (ich = Adolf) はすでにこれらの足し算 (diese Addition) を完了しており (gemacht habe)、それぞれが128,400^{フラン}の金額の同じになっており、したがって (folglich)、私の同級生もこのことが正しいものとしている (richtig gemacht haben)。

経営主(Prinzival)：全く以ってその通りだ！ 借方合計(die Sollsummen)に貸方合計(die Habensummen)を対比させることを試験的な貸借対照表をコントロールする目的を(zum Zwecke der Kontorlle)知ることになる。後で、私(ich = Prinzival)が、確かに、このような試験的な貸借対照表(diese Probe)では不十分なものであることを示さなければならない、その理由は、借方と貸方の間の合計の比較の場合(die Summengleichheit)には未だに誤りが生じる可能性があるためである(vorkommen können)。しかし(allein)今のところ(jetzt)、私(ich = Prinzival)は、どのように帳簿記帳が完了されていることには立ち入ることなく(nicht darauf eingehen)、もっぱら帳簿記帳が締め切られることを示す(allein · · noch zeigen)。

S.25

c) 決算貸借対照表(Die Schlußbilanz).

経営主(Prinzival)：帳簿記帳の最終目標(das Endziel der Buchhaltung)は貸借対照表を決算することにある、決算貸借対照表によって(durch diese)一方では(einerseits)貸借対照表の借方財産の構成要素と貸方財産の構成要素が編成され、現時点での純資産が算定される(berechnet werden)、他方では(andererseits)損失(der Verlust)と収益(der Gewinn)が編成されなければならない(zusammengestellt soll)そして、こうすることによって営業期間全体(die ganze Geschäftsperiode)で達成された純利益(erzielte Reingewinn)が見積もられる(ermittelt werden)。最後に(zu dem Ende)、私は二人の集金人を集める。アドルフ(Adolf)、あなたは、開始貸借対照表(die Ausgangsbilanz)の作成を代行し(vertreten)、業務管理機関全体における(in sämtlichen Verwaltungen)貸借対照表の借方財産の残高(die aktiven Vermögenbestandteile)と貸借対照表の貸方財産の残高(die passiven Vermögenbestandteile)を集めます、ヤコブ(Jakob)、あなたは同じ方法で(in gleicher Weise)損失項目(Verlustposten)と収益項目(Gewinnposten)を集め、これらを(dieselben)損益勘定と収益勘定に(im Verlust- und Gewinnkonto)まとめます(zusammenstellen)！

S.26

しかし、いの一番に(zu allererst)、われわれは現在どれだけの商品の価値があるかについての在庫品調査によ

って、ポートフォリオにある送金為替と流通している為替手形を定めなければならない(bestimmen müssen)、その他の構成要素は当該勘定から判明しなければならない(ergeben sich · · müssen)。

アドルフ(Adolf)：私は自分の任務を理解しなければならないと思います。開始貸借対照表(die Ausgangsbilanz)が経営者の計算に関する会社全体の支払いがどれだけあるか、貸借対照表の借方のすべて(alle Aktiven von)が勘定によって(von den Konten)受け取られており、反対に貸借対照表の貸方(die Passen)が当該勘定の支払いが行われ、さらに、純粋資産(das Reinvermögen)が資本勘定に払い込まれるというように、言ってみれば人間そのもの(die Person)である。

経営主(Prinzival)：全くそのとおりです。つまり、あなた方(sie)は、商品(Waren)・現金(Geld)・送金為替(Rimessen)そして売掛金(Guthaben)の受取人(der Empfänger)であり、そのあとで(demnach)これらの項目が開始貸借対照表の借方に含められる、反対にあなた方は為替手形(Tratten)・当座勘定の債務(Kontokorrentschulden)そして資本(Kapital)の債務合計(die Schuldsummen)を与える人(Geber)であり、そのために開始貸借対照表の貸方に含められ、開始貸借対照表の借方と貸方の合計(deren Summe)が初めて必ず等しくなる。

シーザー(Cäser)：私もこの状況を理解しています。われわれが業務を管理している人として譲る前に、われわれは貸借対照表勘定を用いて(mit dem Bilanzkonto)決算を行わなければならないし(abrechnen müssen)、そして業務管理者(ihm = dem Verwalter)に手元にある価値(die vorhandenen Werte)を委任する(übergeben)。

つまり、バルドウィン(Balduin)には現金の差引残高(der Kassasaldo)が委託されており、私(ich = シーザー：Cäser)には商品在庫(die Warenvorräte)が委託されており、デトリッヒ(Dietrich)にはポートフォリオにおける送金為替(die Rimessen im Portefeuille)が委託されており、エルヴィーン(Erwin)には貸借対照表において(an das Bilankonto)債務者に清算されるもの(die Debtorsaldi)が委託されており、そのために、われわれはわれわれが取り扱いを代行している勘定(die von uns vertretenen Konten)の貸方の項目に収容されなければな

らない(einstellen müssen)。

フリッツ(Fritz)：しかし、私(ich = フリッツ：Fritz)とグオルグ(Georg)が負債に責任があり、この負債にはどのようにもちいるのですか？

グオルグ(Georg)：このことは、私には明らかなものです。アドルフ(Adolf)が貸借対照表の借方(die Aktiven)を引き受けており、彼(er = アドルフ：Adolf)貸借対照表の貸方(die Passiven)も引き受けており、かてて加えて、経営者に(an den Prinzipal)純資産(das reine Vermögen)を支払うことも引き受けている。そのために、当該合計額(die betreffenden Summen)は、われわれが取り扱いを代行している勘定(die von uns vertretenen Konten)の借方におけるフリッツ(Fritz)、私(ich = グオルグ：Georg)と経営者(Prinzipal)に収容されなければならない(einstellen müssen)。

エルヴィーン(Erwin)：私も貸借対照表を用いるこのような決算(diese Abrechnung)を十分に理解している(vollkommen begreife)。

このことに対して、私(ich = エルヴィーン：Erwin)は、われわれが経営者(Prinzipal)とは間接的に(nicht unmittelbar)すなわち資本勘定とは間接的にこのような決算が行うことが可能となる(machen könnten)かの理由

| | | | |
|---------|-----------|----|---------------------|
| 期末貸借対照表 | 借方、現金勘定 | 貸方 | 10,100 [₪] |
| 期末貸借対照表 | 借方、商品勘定 | 貸方 | 32,000 [₪] |
| 期末貸借対照表 | 借方、為替送金勘定 | 貸方 | 15,850 [₪] |
| 期末貸借対照表 | 借方、債務者勘定 | 貸方 | |
| | | | 81,250 [₪] |

ているように(wie Sie sehen)、私(ich = Prinzipal)の現時点での資産(mein jetziges Vermögen)が55,380[₪]に達しているという報告が私(ich = Prinzipal)にあり、私(ich = Prinzipal)は会社(das Geschäft)へ55,000[₪]の出資を行っており、したがって、380[₪]増加したことになる：私(ich = Prinzipal)が私の私用に用いているものが200[₪]であることから、会社の純収益(der reine Geschäftsgewinn)は580[₪]の金額となる。

しかし、私の会社の状態(Stand)と成果(Erfolg)についての最初の報告は、私(ich = Prinzipal)にとって不十分なものであり、私(ich = Prinzipal)は、このような収益が正しいものであり、そして、収益(er = Gewinn)がどこから来て、そしてどのように収益(er = Gewinn)が構成

を理解していない。

経営主(Prinzipal)：私はこれらの質問を予測していました。実際に(in der Tat)私(ich = 経営主：Prinzipal)は、あらゆる項目(die sämtlichen Posten)が資本勘定に適切に直接収容されるような開始貸借対照表が決して必要なものとしなない。しかしながら(allein)、私(ich = 経営主：Prinzipal)は資本計算に関する補助勘定として貸借対照表勘定(das Bilanzkonto)を必要としており、したがって、貸借対照表勘定における(in einer)ひとつの合計(einzigen Summe)が私の純資産(mein Reinvermögen)を表示されることが可能であり(dargestellt werden kann)、数多くある借方項目と貸方項目を区別するものとして表示されるのではない。

アドルフ(Adolf)：現金の差引残高は10,100[₪]であり、商品の在庫(在庫品調査によると)32,000[₪]であり、送金為替(徹底的な調査による)は15,850[₪]であり、売掛金は23,300[₪]であり；流通している為替手形は13,570[₪]であり、当座勘定の貸方は12,300[₪]である。

S.27

つまり、決算は以下ようになる。

経営主(Prinzipal)：貸借対照表勘定が、あなたがたがみ

| | | |
|-------|---------------|---------------------|
| 為替手形 | 借方、期末貸借対照表、貸方 | 13,570 [₪] |
| 債権者勘定 | 借方、期末貸借対照表、貸方 | 12,300 [₪] |
| 資本勘定 | 借方、期末貸借対照表、貸方 | 55,380 [₪] |
| | | 23,300 [₪] |
| | | 81,250 [₪] |

されているかを証明したいと思う。

ヤコブ(Jakob)：ここで、損失と収益を編成するという私の任務がまぎれもなく始まる。さて(nun)私(ヤコブ：Jakob)は、私(ヤコブ：Jakob)には、今さっそく(jetzt schon)現金勘定(Kassakonto)、債務者勘定(Debitorenkonto)そして債権者勘定(Kreditorenkonto)における借方と貸方の間にある合計額を比較すること(Summengleichheit)があり、これら三つの勘定の場合には(bei drei Konten)もはや何もすることがないと考えている。

経営主(Prinzipal)：実際には(in der Tat)、あなた方は商品勘定(Warenkont)・送金為替勘定(Rimessenkont)・為替手形勘定(Trattenkont)・雑費勘定(Spesenkont)に

おける損失と収益を集めることだけが可能となる (sammeln können)。このこと (dies) は貸借対照表の借方と貸方に収容されることにしたがって (nach Einstellung der Aktiven und Passiven) まだ決算されていない (noch nicht abgeschlossen sind) すべての勘定がこうしたことになる。私 (ich = Prinzipal) が初めにした説明にしたがえば、収益 (Gewinn) は貸方に余りがある勘定であり (商品と送金為替) であり、反対に、損失は借方に余りがある勘定となる (為替手形と雑費)。

シーザー (Cäsar) : 商品勘定によると、貸方は売れ残っている商品の棚卸価値を含んでいる商品全体の出荷価値 (der Ausgangswert sämtlicher Waren) 48,300^ズ であり、商品勘定によると、借方は商品全体の購買価値 47,500^ズ の金額になる。つまり、商品勘定は貸方の余り即ち収益 800^ズ を示す。

経営主 (Prinzipal) : 800^ズ は価値の増加 (der Werzuwachs) であり、われわれの商業上の働き全体によって商品が他人からなにを受け取っているのか、そのわためにわれわれがなにに関して商品勘定の借方に記帳しなければならないのかを示すものであり、同時に、これらのこ

と (sie) が私 (ich = Prinzipal) の資産を増大させたもの (eine Vergrößerung) と損益勘定の貸方に (in das Haben des Verlust- und Gewinnkontos) 含まれることを意味している。

S.28

同じような方法で、送金為替勘定における価値増加 (die Wertzunahme) 50^ズ が取り扱われなければならない。これら両勘定とは対照的に、為替手形勘定と雑費勘定が 70^ズ を示しており、200^ズ の借方の余り (Mk 200 Sollüberschuß) 即ち損失を示している。このような財における減損は私の資産を減少させるものであり、損益勘定の借方に関する項目となる。

これらの勘定において貸方の余り (ein Habenüberschuß) 580^ズ であり、これは純収益であり、私の資産を増加させるものであり、そのために損益勘定から資本勘定の貸方に転記されなければならない。

ヤコブ (Jakob) : つまり、損益勘定の差引計算は以下のように具体化される。

| | | | |
|---------------------|------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| 商品勘定 借方 - 損益勘定 貸方 | | 損益勘定 借方 - 為替手形勘定 貸方 | |
| 商品における収益 | 800 ^ズ | 為替手形における損失 ^{*)} | 70 ^ズ |
| 為替送金勘定 借方 - 損益勘定 貸方 | | 損益勘定 借方 - 為替手形勘定 貸方 | |
| 為替送金における収益 | 50 ^ズ | 雑費における損失 | 200 ^ズ |
| | | 損益勘定 借方 - 資本勘定 貸方 | |
| | | Reingewinn | 580 ^ズ |
| | 合計：収益 850 ^ズ | | 合計：収益プラス純利益 = 850 ^ズ |

※上記の「為替手形における損失」に関して、シェアー (Johann Friedrich Schär) は原書 S.28 の【脚注】において以下のような説明と加えている。すなわち、「教師に関する注釈：債務手形勘定 (das Schuldwechsekonto) と為替手形勘定 (das Trattenkonto) が損失を伴って締め切られているという帳簿記帳における非日常的なケースに出くわすものである。実際には、為替手形勘定 (das Trattenkonto) は純粋な手持ち勘定 (reines Bestandskonto) として扱われ、年度末の場合には (beim Jahresschluß) 債務手形から (aus den Schldwechseln) 割り引かれたもの (der Diskont) が一時的な貸借対照表の借方として扱われる。しかし、実際にはこれらの勘定が損失でもって締め切られるというケースに入る、例えば、負債手形は発生して

いる場合には、貸方に割り引かれた金額だけが収容されるか、または、手形が書き換えられたりまたは手形の拒絶証書が作成された場合には、これらに該当する費用 (die betreffenden Kosten) は直ちに為替手形勘定に貸方記帳されることはない。(為替手形を導入している場合には、より詳細なことが考えることになる)」と。

S.28

経営主 (Prinzipal) : 私の財産状態 (meine Vermögenslage) ・損益勘定 (das Verlust- und Gewinnkonto) についての私の二次的なレポート (mein zweiter Berichterstatter) が私に純利益が 580^ズ であることを明らかにしており (ankündigen)、つまり、あなた方がみているように、貸

借対照表勘定が報告している (erstattet hat) 最初のレポートと (mit dem ersten) 一致している (mit · · übereinstimmen)。

資本勘定におけるこのようなコントロールが示される。借方には、決算後の貸借対照表による (laut Ausgangsbilanz) 経営者の私的な給料 (die Privatbezüge) と期末財産 (das das Endvermögen) があり、反対に、貸方には開始貸借対照表による (laut Eingangsbilanz) 当初の財産 (das Anfangsvermögen) と損益勘定による (laut Verlust- und Gewinnkonto) 純利益 (der Reingewinn) がある。開始から完了に至るまでの私の帳簿記帳に関する作業が正確なものであることは、資本勘定における借方と貸方の両方の合計額を等しいことが明らかになる場合であり、このように一致すること (diese Übereinstimmung) すなわち資本勘定においてバランスすることが起こりえないということは、たったひとつの誤り (ein einziger Fehler) が起こっている場合であっても、同様なことが納得のゆくものとなる (einleuchtend ist)。

S.29

つまり、帳簿記帳の作業全体の正確性に関する最後の試験 (die Schlußprobe) は、資本勘定における借方と貸方が一致することである。

さて、あなたがたは複式帳簿記帳のきちんとした発明品の極めて一般的な概念をもっているが、誰が私に最も本質的な点を主張することができますか？

アドルフ (Adolf)：複式帳簿記帳 (die doppelte Buchhaltung) は資産を構成している借方と貸方に関するひとつの勘定 (ein Konto) を必要としているだけでなく、純粋な資産に関するひとつの勘定 (ein Konto) を必要とし、そしてその純粋な資産の増減 (Vermehrung und Verminderung) に関するひとつの勘定 (ein Konto) を必要としている。

バルドウィン (Balduin)：業務管理機関が組織を完備していることのために、われわれの財産におけるビジネス上の変化が何一つないことを監督すること手には出来ない (keine · · einziehen kann) ので、複式帳簿記帳がそれぞれのビジネスを複式で記帳すること (die doppelten Eintragung) を強く求めており (zwingen)、すなわち、ひとつの勘定の借方に記帳が行われ、そして別

の勘定の貸方に記帳が行われる。

シーザー (Cäsar)：帳簿記帳の作業 (die buchhalterische Arbeit) は、借方項目と貸方項目との間での合計を比較することが必ず現れてくるものである試験的な貸借対照表によって (durch die Probabilanz) 短時間で (jeden Augenblick) 最も正確にコントロールされることを可能としている。

デトリッヒ (Dietrich)：私の考え方 (meiner Ansicht) では、貸借対照表を完了させることに (in der Schlußbilanz) 最も重要な点 (der wichtigste Punkt) がある。このことは純財産と純利益が二つの方法によって立証されなければならない (nachweisen muß)。決算後の貸借対照表 (das Ausgangsbilanzkonto) が最後の財産 (das Endvermögen) がどのような構成部分から構成されているかを立証しており、反対に、個々の業務管理機関 (die einzelnen Verwaltungen) または勘定における成果 (Erfolg) と誤った成果 (Mißerfolg) から構成されている損益勘定が純利益 (der Reingewinn) と同じものである正確な情報 (genauen Aufschluß) を提供している (gibt)。

エルヴィーン (Erwin)：二重の財産の証明 (der doppelte Vermögensnachweis) は、資本勘定において明らかにされる、貸方における (im Haben) 当初の財産 プラス 純利益がこの勘定の借方における最終の財産と同額となる。

フリッツ (Fritz)：複式の帳簿記帳のこうしたすべての利点は、これらが営業を執行している全体を明らかにしており、一目瞭然なものであり、そして事実を忠実に表しており、そしてとても容易 (たやす) く理解できることとなる (zu · · kommen)。私 (ich = Fritz) はこれらを単式帳簿記帳 (die einfache Buchführung) よりもとても優れたもの (viel besser) と理解している、こうした帳簿記帳でない場合には、無計画な (planlos) 面倒な計算 (die Rechnerie) であり、さらに、支離滅裂なながたらしい計算 (zusammenhanglos Rechnerie) である。

経営主 (Prinzipal)：実際には (in der Tat) 複式帳簿記帳 (die doppelte Buchhaltung) は単式帳簿記帳 (die einfache Buchhaltung) より容易なものであり、複式帳簿記帳の (ihr = die doppelte Buchhaltung) 本質は、多数の商人は執拗さをもって (mit Zähigkeit) 単式帳簿記帳から離れることがなく、複式帳簿記帳の本質 (das Wesen der Doppelbuchhaltung) が不十分に (nicht genug) しか認識されていないという根拠 (der Grund) が多方面から考え

られており、そして、この点について(hieran)実際の教師(die praktischen Lehrmeister)だけ責任(schuld)でなく、教科書の執筆者(die Verfasser von Lehrbüchern)にも責任(schuld)があり、これらの人々(sie = die praktischen Lehrmeister und die Verfasser)が多数の著書によって(durch eine Masse von Büchern)複雑化している経営の進行状況(die komplizierten Geschäftsgängen)が表されており、単純な例示に代えて(statt an einfachen Beispielen)一目瞭然な表現によって(in übersichtlicher Darstellung)その本質(das Wesen)が示されている、そのために、わかりきったことに気づいていないということになる。

S.32

最後に、「ウィルヘルム・マイスターの年季見習い」の中でわれわれの大文豪のゲーテが帳簿記帳(die Buchhaltung)について記していることに言及することにする、つまり、「複式帳簿記帳(die doppelte Buchhaltung)は人間の知力のもっともすぐれた発明品のうちのひとつであり、それぞれの優れている家事管理人(eder gute Haushalter)が複式帳簿記帳(sie = die doppelte Buchhaltung)を経済の中に導き入れるものである」と。

※原書 S.30～S.31 にある数値例は、本稿の最後に付表 1-1～付表 1-2 としている。

S.32

B. 複式帳簿記帳の完備している教科課程(Vollständiger Lehrgang der doppelten Buchhaltung)

われわれは個々の課のテーマだけを顧慮するために簡潔にし(der Kürze führen)詳しい実施に関して繰り返し「クラス I の商人の授業時間」を参照することを指示している。

a) さまざまな在庫高計算の間の相互関係(der Zusammenhang)

こうした場合、われわれは(交易:Tauschgeschäfte)単式帳簿記帳において(in der einfachen Buchhaltung)既に(schon)複式帳簿記帳が行われているケースを話題にしており(auf die Fälle zu sprechen kommen)、そして、われわれは在庫計算における(in die Bestandrechnungen)損益ビジネス(die die Verlust- und Gewinngeschäfte)だけが偏って記帳される

(einseitig gebucht werden)限りは、単式帳簿記帳が欠けていることを指摘することが可能であるが、こうすることによって次の段階へ移行すること(die Überleitung)が現れてくる。

b) 資本勘定 Kapitalkonto.

在庫高勘定(Bestandskonten)と資本勘定(Kapitalkonten)との間の対照(der Gegensatz)を正確に具体化するために、われわれははじめに(ersten)ひとつのビジネスの進行を(einen Geschäftsgang)を二つの勘定(mit zwei Konten)を採用し、それを取り扱うことにする。

c) (在庫高勘定[Bestandskonten]と資本勘定[Kapitalkonten]の)二つの勘定を用いている型にはまっているビジネスの展開、この場合、在庫高勘定(Bestandskonten)も資本勘定(Kapitalkonten)も分解することが可能とする要求が当然のこととして(ohne weiteres)現れてくる。

d) 在庫高勘定(Bestandskonten)と資本勘定(Kapitalkonten)を分解すること

当然のこのように、われわれはここでは完備している勘定システム(ein vollständiges Kontensystem)に立ち入るのではなく、われわれは一方において貸借対照表の借方と貸方の財産残高のそれぞれの構成要素を勘定に適応させ、われわれは他方において純粋な財産の減少と増加を勘定に適応させる場合に、欠落のない計算手続き(eine vollständige Rechnungsführung)をはじめて可能となることを指摘するものである。

e) 混合勘定の導入、(Die Einführung der gemischten Konten)

われわれは、このような前もって明らかになっていることにしたがっているという状態になる。

f) 勘定システム(das Kontensystem)の連続している展開(sukzessiven Entwicklung des Kontensystems)

われわれは、ひとつの課において欠落することなく表示されそして討議することが可能となる最も良く簡潔に図式化されているビジネスの進展を用いる。

このように表されていること(die Darstellung)は同時的な一覧表(die synchronistischen Tabellen)、即ち、アメリカ的な帳簿記帳の形態に従った以下のような構造をもったものが最もよく表示している。

S.33

1. 資本勘定 (Kapitalkonto)・商品勘定 (Warenkonto)・現金勘定 (Kassakonto)に関するより簡潔な図式化されているビジネスの経過 (das Geschäftsgang)は、われわれが商品が現金でもった購買され販売されており、在庫がなんら残されていない場合を想定している場合である。
このような場合には、収益を伴っているビジネスの経過 (eine Geschäftsgang mit Gewinn)も損失を伴っているビジネスの経過 (eine Geschäftsgang mit Verlust)も、十分な時間がある場合には二つの商品種類 (zwei Warengattungen)が二つの異なる商品勘定において (in zwei verschiedenen Warenkonten)一方が収益でもって決算され (den einen mit Gewinn abschließend)、他方が損失でもって決算される (den anderen mit Verlust abschließend)という取り扱いが適切なものとなる。
2. 同じように簡潔なビジネスの経過が決算の際にすべての商品が販売されていないものとの区別される (複式帳簿記帳における棚卸の任務と意義)・(Aufgabe und Bedeutung der Inventur in der doppelten Buchhaltung)
勘定システム (Kontensystem)：現金、商品種類 A、商品種類 B、損益、資本
Kontensystem: Kasse, Warengattung A, Warengattung B, Verlust und Gewinn, Kapital.
3. 人員の計算と貸借対照表勘定の導入 Einführung der Personenrechnung und des Bilanzkontos.
旅客輸送 (der Personenverkehr)はまず第一に (zunächst) (債務者に関するものと債権者に関するものがひとつの勘定に示されるという)個別的勘定 (die Einzelkonten)に表示される (dargestellt wird)、次いで (sodann) (債務者勘定と債権者勘定といった)信用取引に関する (für den Kreditverkehr)集合勘定「共通勘定」の進展 (die Entwicklung des Kollektivkontos)に移行させられる。
このようなケースにおいて (勘定—調整帳簿 [Konto-Korrentbuch]とといった)補助帳簿によって勘定を補足している (die Ergänzung der Konten)必要性 (die Notwendigkeit)が現れる。
4. 銀行取引 (der Bankverkehr)の導入 Einführung des

Bankverkehrs.

この目的のために、われわれは簡潔なビジネスの経過 (die kurzen Geschäftsgang)を銀行取引の最も頻繁に起こる形態 (die häufigsten Formen des Bankverkehrs)に結び付けている。

勘定システム (Kontensystem)：現金、商品勘定、債務者勘定、債権者勘定、銀行勘定、損益勘定、資本勘定、貸借対照表勘定、

Konten [= Kontensystem]: Kassa⁻, Waren⁻, Debitoren⁻, Kreditoren⁻, Bank⁻, Verlust⁻ und Gewinn⁻, Kapitalkonto, Bilanzkonto.

5. 手形流通 (der Wechselverkehr)、(送金為替 [Rimessen])所有手形、(約束手形 [Eigenwechsel]と引受手形 [Akzente]といった)負債手形 (das Schuldwechsels)の流通、
時間が十分にある場合には、手形の記帳 (die Verbuchungen der Wechsel)は一度は (einmal)混合勘定によって (durch gemischte Konten)行われ (durchführen kann)その後 (sodann)純粋な残高勘定によって (durch reine Bestandskonten)実施されることが可能となる (durchführen kann)。
(混合勘定を用いる帳簿記帳と混合勘定を用いない帳簿記帳を比較する機会)
(Gelegenheit zum Vergleich der Buchhaltung mit gemischten und ohne gemischte Konten.)
新しい損益勘定として (als neues Verlust- und Gewinnkonto)利子勘定 (das Zinskonto)と割引勘定 (das Diskontokonto)が現れる、われわれは、この勘定で利子と割引にだけ (nicht allein über den Zins und Diskont)関する必要となる指示 (die notwendigen Belehrungen)を与えるのではなく、現金勘定、商品勘定、商品計算についての値引き (Rabatt)とそのほかの差し引き (andere Abzüge)についても指示を与える。
6. 貸借対照表を作成することにおける練習 (Einübung in der Aufstellung der Bilanz)
われわれが複式帳簿記帳にふつつ行われているすべての勘定と引き続いて導入しなければならない (sukzessive eingeführt haben)そしてこうすることによって (dadurch)商人の営業経営全体に関する練習がされなければならない (gewonnen haben)

われわれはこのような関係における (in Zusammenhang) 欠落のない営業経営全体を記帳することが必要になると思われる (notwendig erscheint)。

※貸借対照表を作成することにおける練習にとして挙げられている原書 S.34 の数定例は、本稿の最後に付表 2 としている。

S.35

そのために、教師の任務は、以前の一時期には発生しているすべてのビジネス上の出来事が含まれている経営計画 (die Geschäftsplan) をまとめ上げることである。

すでに、個々の経営経過 (die einzelnen Geschäftsgängen) の場合には複式帳簿記帳の段階的な発展に関して、帳簿の締め切りについて討議されなければならない、さらに帳簿の締め切りについて訓練がなされなければならないということに主な重点 (das Hauptgewicht) が置かれていた、しかし、こうした課題は最も重要なものであり、高校の生徒がこの作業を全く誤りなく (eine vollständige Sicherheit) 得られるための決算についての特別な課において訓練されなければならない、決算貸借対照表を作成することに関して、私 (ich = Johann Friedirch Schär: ヨハン・フリドリッヒ・シェファール) によってはじめて (zum ersten Male) 文献に導入された図 (in der Literatur eingeführte Schema) であり、そのとき以来、商業学校において (von der Handelsschuler) 広く受け入れられているだけでなく、実務においても広く受け入れられているものである、そして、われわれは経営の経過を処理すること (die Lösung eines Geschäftsganges) と関連している商人が行う取引 (im kaufmännischen Verkehr) において現れてくるあらゆる基本的なタイプ (all Grundtypen) を明らかにし、システムティックに構成されている。

決算貸借対照表を作成する手法 (die Technik der Schlußbilanz) を正しく明らかにするために、われわれはこうして部分的な目的について (am Ende dieses Abschnittes) 決算貸借対照表と勘定の締め切りを具体的に表さなければならない。

S.35

C. 経営形態に基づく複式帳簿記帳の簡潔な表示

(Zusammenfassende Darstellung der doppelten

Buchhaltung auf Grund von Geschäftstypen)

日常的な商人取引において発生している全てのビジネスの形態を伴う経営の経過に従って、
(nach einem Geschäftsgang mit allen im gewöhnlichen kaufmännischen Verkehr vorkommenden Geschäftstypen)

「システムティックな帳簿記帳の典型的な表示 (Typische Darstellung der systematischen Buchhaltung)」のタイトルを持つ 35 ページに含まれている一覧表が新しい方法的な手続きを示している。

※上記にあるように原書では「Seite 35」と表現されているが、実際には原書 P.34 と P.35 の間にページが付されていない一覧表が折り込まれており、この一覧表は本稿の最後に付表 3-1 ~ 付表 3-8 としている。

いちばんはじめに (zuächst)、営業計画 (der Geschäftsplan) とその帳簿記帳上の表示 (die buchhalterische Darstellung) が記録的な発展の過程に (dem historischen Werdegang) 対応しているそれぞれの経済的な企業の三つ段階に (in die drei jeder wirtschaftlichen Stufen) に区分される。

- a) 商業企業の創設：(営業の基礎の存在があるものとする) 棚卸の始まり (Eingangsinventur) と貸借対照表の導入 (Eingangsbilanz)
- b) (年間の商取引) 経営が整っている商業経営の活動における創設からその解散に至るまで、
- c) (決算貸借対照表における) 財産の残高の調査 (die Untersuchung) と (会社が解散したのとして仮想した決算貸借対照表に匹敵する) 年度貸借対照表における (損益計算である) ビジネス上の成果の調査 (die Untersuchung) している商人企業 (die kaufmännischen Unternehmung) の解散

これらに加えて (sodann) ビジネスの経過 (der Geschäftsgang) は全く新しい原則 (das ganz neuen Prinzip) ・予 (あらかじ) め考えられている原則 (das methodisch Prinzip) そして実務的に極めて実りの多い原則 (praktisch sehr fruchtbaren Prinzip) にしたがって構成されており、(一日・一ヶ月、一年といった) 期間内において起こっているビジネス上の出来事 (die Geschäftsvorfälle) が起こり (sich ・ ・ abspielen) 十の基本的な形態に (in zehn Grundformen) にまとめられているシステムテ

イックに整えられている (systematisch geordnet erscheinen) ことによって構成されている。つまり、高校の生徒はビジネスを経営している (Geschäftsbetrieb) これら十の基本形態だけを実際に把握している。

しかし、このような表示は予め考えられている授業目的にだけ役立つものではなく、実務に関して極めて優れたものとして活用可能であり、その理由は一日の取引 (Tagesverkehr) ・一ヶ月の取引 (Monatsverkehr) ・年間の取引 (Jahresverkehr) のこのような図 (dieser Schema) にしたがって一日の貸借対照表 (Tagesbilanzen) ・一ヶ月の貸借対照表 (Monatsbilanzen) ・年間の貸借対照表 (Jahresbilanzen) が作成されることが可能となるためである。

S.36

D. 決算貸借対照表と勘定の締め切りの構成的表示

(Bildliche Darstellung der Schlußbilanz und das Kontoabschlusses)

すでに上記で述べられているように、われわれは決算貸借対照表を作成することに関して、(残高貸借対照表である) 試験的な貸借対照表に基づく勘定の成果をその成果に対応している棚卸価値に基づく勘定の成果と対峙させ、さらに後者の棚卸価値を個別的な勘定の残高と比較することによって、混合勘定と純粋な成果勘定の場合に現れてくる差額 (entstehenden Differenze) が第三段目における損益価値 (Verlust- oder Gewinnwerte) よりも意味深いものとして構成されている (zusammengestellt) ことによる、新しく具体的な手続きを展開している (entwickelt haben)。

決算貸借対照表についての準備において当初の資本を減少させている (verminderte Anfangskapital) 貸方勘定の残高を貸方^{*)}に収容させるために (zu den Passiven eingestellt)、在庫品調査の結果の借方と貸方の間での差額 (ein Saldo) が現れ、この差額が損益勘定における正反対の残高 (der entgegengesetzten Saldo) を一致させられなければならない。つまり、純収益のこのような方法において損失の複式による証明と複式帳簿記帳の目的がそれぞれ明確にされている (vor Augen gestellt wird)。

※ここで述べられている「貸方勘定の残高を貸方に収容させる」に関して、シェアー (Johann Friedrich Schär) は原書 S.38の【脚注】において以下のような説

明と加えている。すなわち、「資本を収益項目に (zu den Gewinnposten) 収容することが可能となる、その理由は、一時的な貸借対照表の借方残高は純収益 (der Reingewinn) ではなく、期末の資本となる、つまり、当初の資本を純収益が増加させ、経営者の私的勘定が減少させることになり、同様に、損益勘定の貸方残高 (der Habensaldo des Gewinn- und Verlustkontos) も当初資本を増加させることになるためである」と。

一時的な決算貸借対照表から、つまり上記で詳しく述べられている決算を準備することから、期末の貸借対照表勘定 (Ausgangsbilanzkonto) と (利潤貸借対照表である) 損益勘定 (Verlust- und Gewinnkonto) が複式的に形成されている決算貸借対照表 (die Schlußbilanz) を作成することが可能となる。

このような構成は、期末貸借対照表勘定と損益勘定 (sie = Ausgangsbilanzkonto und Verlust- und Gewinnkonto) によって帳簿記帳に関する在庫品調査の意義が正しいものであることが明確にされており、決算貸借対照表の基礎 (eine Grundlage der Schlußbilanz) となるものが試験貸借対照表 (die Probebilanz) と思われる、この試験貸借対照表 (das = die Probebilanz) はすべての営業の経過を勘定的に記帳しているもの (die kontenmäßigen Verbuchung) の計算結果 (das Ergebnis) である、しかし、混合勘定が決算の障害となっている責任があり、それぞれの勘定の計算結果が決算貸借対照表について展開されてはいない在庫品の調査がこのような障害を明らかにしており、在庫品の調査が第二番目の基礎とはならない。

こうすることによって高校の生徒たちが、混合勘定によって引き起こされている複式帳簿記帳の欠陥に関する理解を呼び起こし、高校の生徒たちが帳簿記帳が次第に完備されたものになるにしたがって、混合勘定が除外される数をより多くすることになることがわかるようになる。

このような構成はより広い利点を持っており、試験的貸借対照表の借方残高 (die Sollsalidi) は一部は貸借対照表の借方 (teils Aktiven) となり、一部は損失 (teils) となり、一部はこれら両方の合計もしくは差額となり、反対に、試験的貸借対照表の貸方残高 (die Habensaldi) は一部は貸借対照表の貸方 (teils Passive) (そして資本) となり、一部は収益項目 (teils Gewinnposten) となる。

※この箇所までが原書 S.36において述べられているものあり、原書 S.37にある図表は本稿の最後に付表 4-1 と付表 4-2 としている。加えて、原書 S.38にある図表は付表 5-1 と付表 5-2 としている。更に、原書 S.39にある三つの方程式を表している図表は本稿の最後に付表 6-1 とし、この付表 6-1 から導きだされている方程式については、本稿の最後に付表 6-2 としている。

S.39

決算貸借対照表を作成する手法(die Technik)を正しく具体的に形作るために、われわれはこのような事象を具体的に表せるように努力してきており、帳簿記帳の多くの教師が、決算貸借対照表を具体的に表示することを習得し、授業に活用できように関心を持ってもらいたい。勘定の個々の数字、借方と貸方、損益項目が長方形のます目(rechteckige Felder)によってわかりやすく説明されている(veranschaulicht sind)。

一つの処理(der Schritt)がより広く行なわれており、具体的に説明されている方法における決算貸借対照表に至るまでの数学的な証明がなされており、この場合には、それぞれの長方形が数字の大きさとしての代数的な符号によって把握されている。

このような数学的に推論すること(diese mathematische Ableitung)は、高校がこうしたことに関する(dafür)理解があることを教師が知っている場合にのみ授業の中に挿入される(einschalten wird)、そして、このような推論が行なわれることなく(ohne diese Ableitung)、図(die Darstellung)が用いられていることは全く分かりきったことである。

S.40

E. 複式帳簿記帳における要約されている導入に関する試験的な授業

(Problektion für die zusammenfassende Einführung in die doppelte Buchhaltung)

われわれは、予め考えられている組み立てられているビジネスの経過において(in methodisch aufgebauten Geschäftsgängen)、商業上の教訓と訓練することによって(durch Belehrung und Übung)高校の生徒に複式帳簿記帳の手ほどきをしてきており、われわれは、筋道

の通っている復習をすることによって(durch eine zusammenhängende Wiederholung)教材全体をシステムティックに把握するのではなく、高校の生徒に関連している事柄の手ほどきをすることが必要になると思われる。

われわれは、最も目的にあっている試験的な教材で、即ち、質問とその解答をするという形態で、その全体にいたることになり、そして、その場合には教師と生徒に関して等しく重要なものとなっている別の目的を、即ち、複式帳簿記帳の比較的完備されている理論を展開させているものに目を向けることになる。

F. 複式帳簿記帳における筋道の通っている復習

(Zusammenhängende Wiederholung in der doppelte Buchhaltung)

01. 質問：帳簿記帳はなにを目的とするものであるのか？

解答：帳簿を記帳すること(die Buchhaltung)は個別経済のビジネスを書き留めることであり、帳簿を記帳すること(sie = die Buchhaltung)はその幾つかの種類と規模を持っている私経済的な企業(die privatwirtschaftlichen Unternehmungen)と取り組むものであり、この企業がどのような経過を辿っているのか、どのような状況であるのか、そしてどのような成果を挙げているのかについて忠実な姿と計算的な姿を得るものである。

02. 質問：私経済的な企業の本質はどこにあるのか？

解答：企業家は、経済生活のいずれかの領域における財の価値を生産するもの(die Werterzeugung)・価値を維持するもの(die Werterhaltung)すなわち価値を増加させるもの(die Wertvermehrung)に関っており、企業家(er = der Unternehmer)は自分の物質的な力と知的な力を用いて、一方では(einerseits)自らの知識と経験によってまた、他方では(andererseits)取得されている財の在庫を投入することによって新しい財の価値を生産する(neue Güterwerte hervorbringt)ことによって、自らの協力に対する代償としての付加価値(der Mehrwert)を留め置くことを行い、その所有物としての自らの資本(sein Kapital)に対する代償を追い求めているものである(suchen)。

企業家(er = der Unternehmer)は、しばしば自分の会社にだけ、頻繁に他の人たちとの雇用契約を結び、これらの人たちとの協力に対する固定的な賃金を支払うことを計画する、まれに企業家の収益についての出資分を埋め

合わせるということはない。企業家の収益は労働賃金、資本利子、収益から構成されており、すなわち、企業家の収益は一部は産物であり、一部は財産・投資などによる金利子である。企業は記帳かの資本を他の人の手に移すことには失敗しており、まれには全く失われてしまっている。

S.41

03. 質問：企業の営業活動の経過とはどのようなものであるか？ 特に、商業を営む企業の活動の進展はどのようなものであるか？

解答：それぞれの企業の場合に、ある種の財の量が定められる、つまり企業の営業資本(das Geschäftskapital)が運動をすることであり、商業の場合にはこのような資本が小規模な循環となり、または大規模な循環となり、そのために、現金(Geld)・商品(Waren)・売掛金(Guthaben)・手形(Wechsel)等のさまざまな形態が用いられている。工業経営においては、機械(Maschinen)・工具(Werkzeuge)・原材料(Rohstoffe)・補助材料(Hilfsstoffe)・半製品(Halbfabrikate)・完成品(Ganzfabrikate)といったさまざまな生産手段に分解される。

短期間または長期間の後に、それぞれの財の形態が再び、それらの価値が貨幣額でもって表示される貨幣資本の本来の姿に戻る。その結果として、このような循環(der Kreislauf)を精確に計算することが可能となり、帳簿記帳の手段によって表示することが可能となる。この場合、こうした循環が同じ価値を持つ交換過程のひとつのシステムから(aus einem System)単純に構成されるのではなく、こうした循環がときには価値を増加させるか、ときには価値を減少させることは重要な事実(die wichtige Tatsache)である。

04. 質問：全くその通り正しい！ しかし、あなた方は私の考えのプロセスを先んじています。そのために、われわれは、企業家の本来的な意味での現金資本(das Geldkapital)を分解するために企業家の本分がさまざまな財の形態と生産手段を十分に成長させているものと第一に定めることになる。

解答：用心深い両親がその家にある家具調度の一部分にまで目を離すことなく、清掃を心がけ、手入れをして良

い状態を保ち、修繕することを怠らないことと同じように、企業家も自らの財産の構成部分のすべてを入念に処理し、そしてコントロールしなければならない。このような観点(in dieser Beziehung)は、コントロールのさまざまな段階で現れている。

こうした観点では、一方では(die einen)以前には、毎年一度その財の価値を概要することに戻ることで十分であり、他方(die andern)年間を通じて(das ganze Jahr hindurch)資産の構成要素、つまり、一つの在庫から他の在庫にいたるまでその期間の始まり(Eingang)にしたがって、その期間の終わりに(Ausgang)にしたがって、その残高(Bestand)にしたがってそして成果(Erfolg)にしたがってコントロールしなければならないことが必要となる。

それぞれのケースにおいて、几帳面な企業の義務は、すべての資産の構成要素は例外なく(ohne Ausnahme)同じような綿密な方法で(in gleich sorgfältiger Weise)で処理されなければならない、期首(Eingang)と期末(Auagang)に計算的に表示されなければならない、在庫(Bestand)と成果(Erfolg)を見積もらなければならないことである。そのために、われわれは棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)、単純な在庫計算(die einfache Bestandrechnung)そしてシステムマティックな帳簿記帳(die systematische Buchhaltung)といった三つの段階(drei Stufen)を備えるようになる。

05. 質問：システムマティックな帳簿記帳(die systematische Buchhaltung)は、あなたがたが述べているものにとどまるのではなく、資産の構成要素のすべてを勘定的に取り扱うもの(eine kontenmäßige Behandlung)である。しかしながら、今のところ(jetzt)われわれはこのことには立ち入らない(= 詳しく取り扱わない)。あなたがたは棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)をどのように理解しますか？

解答：棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)はそれぞれの経済的な企業(die wirtschaftlichen Unternehmung)の期末の時点(der Aufgang)そして決算の時点(Schlußpunkt)での土台(der Eckstein)となるものであり、そのために原則によって(vom Gesetz)それぞれの商人に義務となるものである。

棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)は、借方

の財産構成要素(aktiven Vermögensbestandteile)と貸方の財産構成要素(passiven Vermögensbestandteile)のすべてを用いて、一定の時点における(auf einen bestimmten Zeitpunkt)手許に保有している財の構成要素と生産手段のすべてを貨幣資本(Geldkapital)として評価され(schätzen)そしてどれぐらいの価値があるかが付与されている(aussetzt)。

棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)は、貸借対照表の借方(Aktiva)、貸借対照表の貸方(Passiva)、財産貸借対照表(Vermögensbilanz)、損益計算(Verlust- und Gewinnrechnung)そして決算貸借対照表へ集計される勘定(kontenmäßige Zusammenziehung zur Schlußbilanz)といった五つの部分から成る。

S.42

06. 質問：あなたがたは減価償却(Abschreibungen)と準備金(Reserven)、一時的な借方項目(transitorische Aktiven)と一時的な貸方項目(transitorische Passiven)に関してご存知ですか？

解答：帳棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)を行なう2つの異なる方法がある。

多少なりとも表面的にうすっぺらな方法(eine oberflächliche Art)は、帳棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)ではその実際の価値(auf ihren wahren Wert)をなんら考慮することなく貸借対照表の借方(die Aktiven)と貸借対照表の貸方(die Passiven)が貨幣資本として表示されることになる。

慎重な帳棚卸しといった徹底的な調査(die sorgfältige Inventur)は、実際の今日的な価値にしたがって考えられる(möglich)それぞれの財産の構成部分よりも精確に算定されなければならないという原則に結びついているものである。

以下のような目的に役立つことになる、

a) (動産[Mobilien]・馬[Pferde]・機械[Maschinen]・不動産[Immobilien]・支払能力のない債務者についての債権[Forderungen]等々)

目に見るものでありそして完了したときの価値によって直接補償される損失価値でもって(zu ersetzenden Wertverlust)もはや差し引くことのできない減価償却

b) 財産の対象物が完全な等価値でもって貸借対照表の

借方に書き入れられることによって準備金が形成される(die Reservebildung)

他方、予め万一に備えている貸借対照表の貸方項目は特別な資本を除外しており、その価値額を貸借対照表の借方が保持されていなければならない、すなわち、実際に現れてくる損失を補償しなければならないことに役立つものとなる、そのために支払能力がある場合には、債権について起こる可能性のある損失に関する準備金、支払いが疑わしくなることで蓋然性のある損失に関する準備金、動産(Mobilien)、不動産(Immobilien)等によって更新される幾つかの資金(Erneuerungsfonds)が作り上げられる(= 形成される：bildet man)。

c) 一時的な貸借対照表の借方項目と貸方項目：これらは一時的に価値を補足するもの(die vorübergehende Wertergänzungen)だけのものであり、つまり、棚卸しである徹底的な調査が行なわれる日にだけ(die nur am Inventurtag)手許にあり貸借対照表の借方と貸方となるものであり、しかし新しい営業期間には損益項目として(als Verlust- bzw. Gewinnposten)発生するものである。

現在の資産の資本(Aktivekapitalien = 貸借対照表の借方に計上されている資本の運用)から引き続き現れてくる利子(der laufende Zins)は、旧年における、つまり、決算されている営業年度において得られているものであり(verdient worden ist)、そのために、旧年度に関する利益(ein Gewinn)が新しい年度に関する損失(ein Verlust)となるが、しかし、棚卸しといった徹底的な調査が行なわれている日には(am Inventurtag)、貸借対照表の借方(ein Aktivum)となる。

反対に、貸借対照表の貸方に計上されている資本から(aus Passivkapitalien)引き続き現れてくる利子(der laufende Zins)は、棚卸しといった徹底的な調査が行なわれている日には(am Inventurtag)手許にある負債(bestehende Schuld)となり、既に経過している年から(aus dem abgelaufenen Jahr)この負債は新しい年度にこちら側に受け取られているものであり(herübergenommen wird)、そのためにこれらの利子は取引先では(dort)損失(ein Verlust)となり、こちら側では(hier)利子(Gewinn)となる。

取引相手との差し引き計算をした後の負債(Kontokorrentschulden)と手形債務(Wechselschulden)から、貸借対照表の貸方を割引くことが貸借対照表の借方に(zu den Aktiven)に収容され、反対に(dagegen)、取引相手との差し引き計算をした後の請求権(Kontokorrentforderungen)と手形債権(Wechselforderungen)から、貸借対照表の借方を割引くことが貸借対照表の貸方に(zu den Passiven)に収容される。

07. 質問：このように(貸借対照表の借方と貸方に収容する：zu den Aktiven und zu den Passiven eingestellt)収容することに関してはどのような原則があるのですか？

解答：将来において発生する債権(die in der Zukunft verfallenen Forderungen)は、棚卸しといった徹底的な調査が行なわれている日には(am Inventurtag)完全な価値を持ってはいない、これら債権はこの日には(am diesem Tage = 棚卸しが行なわれている日)販売がなされており(verkaufen wollte)、その債権において(an ihnen = an die Forderungen)割引は行なわれない(verlieren würde)。

貸借対照表の借方のもとで(unter die Aktiven)このような債権が完全に見合ったものになると、貸借対照表の貸方に(unter die Passiven)必要となっている価値を補足しているもの(die notwendig Wertergänzung)が収容されなければならない(einzustellen ist)。

S.43

ここでは、一つの勘定の複式簿記の左の欄である借方(Soll)と複式簿記の右の欄である貸方(Haben)と同じような状況であり、このような勘定において差し引かれている借方の項目(die subtraktiven Sollposten)は貸方に(in das Haben)必ず収容されなければならない(eingestellt werden müssen)。取引先との交互計算での債権が貸借対照表の借方には現金価値でもって(mit ihrem Barwert)収容されないという原則(der Grund)がある。

したがって、棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)は、貸借対照表の借方(die Aktiven)が勘定の借方(das Soll)を意味し、貸借対照表の貸方(die Passiven)が勘定の貸方(das Haben)を意味するといったことと一つの勘定とを比較されなければならない。

そのために、取引先との交互計算での債務と手形債務

は、これらに関する割引が貸借対照表の借り方に含められ、差し引かれている貸方項目が貸借対照表の借方に含められ、貸借対照表の貸方に同じ価値が保有されている。

08. 質問：これらの表示方法の関して別の原則(der anderen Grund)がありますか？

解答：もちろんです。取引先との交互計算勘定(= 差し引き相殺計算勘定：das Kontokorrentkonto)は純粋な残高勘定として(als reines Bestandskonto)として用いられている、債権と負債から割引かれる部分(der Diskont)はこれらの勘定に収容されるのではなく、これらは特別な損益勘定に(in einem besonderen Verlust- und Gewinnkonto)に記帳されなければならない。

さて、棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)の報告内容はこのような取引先との交互計算(= 差し引き相殺計算：das Kontokorrentkonto)と秩序だって合致していなければならない、したがって、省略された債権の合計(die unverkürzte Forderungssumme)が貸借対照表の借方に収容されなければならない。私は、棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)を精確に表示することが規則に適合したものであるという本来的には第2番目にあたるものであり、他方、資産の残高を不精確にしか報告しているものを第1番目にあたるということを見いだしている。

私には、棚卸しといった徹底的な調査の前後には(vor und nach die Inventur)一時的な項目の帳簿記帳はそれほど容易なものになる(nicht ganz leicht)とは思われない。しかし、ほとんど熟慮することなく、私はこうしたことを理解している(verstanden habe)。

貸借対照表の貸方からの割引は、決算されている営業年度に関しては利益(ein Gewinn)となり、新しく開業された年度に関して(für das neu zu eröffnende)は損失(ein Verlust)となり、棚卸しといった徹底的な調査が行なわれている日に(am Inventurtag)営業の清算が行なわれる場合には、負債がその割引額をより小さいものとなり、純財産(das Reinvermögen)はそのことに応じた合計よりも大きくなる。

新しい営業期間は、しかし、その期間内においてこうした負債(diese Schulden)が次第に現れてくるのが単に現金価値を引き継いでいるのではなく、負債としての全ての名目的価値(die vollen Nominalwert)に引き継が

れることになり、そのためにこのような割引分はここでは損失となる。

09. 質問：あなたがたが棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)の最も重要な部分を用いて詳細に取り組んでいることを耳にしてうれしく思います。授業のまさにこの箇所を、この部分を最初からかなり難しいものとして(als recht schwierige)現れてくるものであり、筋道を追って考えなければならない、そして、このような場合には特に考え続けなければならないものを将来(für die Folgen)あなた方に許容したいと思います。

さて、我々が話しを一步進めると、営業資本の循環を精確に跡付けること(zu verfolgen)が可能となる、貸借対照表の借方財産(die aktiven Vermögens)と貸借対照表の貸方財産(die passiven Vermögens)のそれぞれの残高を予め慎重に処理すること(vorsorglich zu verwalten)によって可能となる、さらに、棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)が日付よりも(= 取引日よりも: jeden Tag)先んじてが可能となる、帳簿記帳の手段となるのはどのようなものか?

解答：帳簿を記帳すること(die Buchhaltung)がさまざまな資産の構成要素(Vermögensbestandteile)・資本の形態(Kapitalformen)・生産手段(Produktionsmittel)を特別な方法で(in ausgezeichneter Weise)コントロールによる方法(das Mittel)は、一方では(die einerseits)期首に(den Eingang)増加し(die Vermehrung)、他方では(andererseits)期末に(den Ausgang)減少している(die Verminderung)方法で(in der Weise)表示することになる勘定(die Konten)がいわゆるより精確に在庫勘定(die Bestandskonten)と表されるものであり、これらの残高(sie = die Bestand)は、ビジネスを営むこと(der Geschäftsbetrieb)でもたらされる商取引の過程と生産プロセスを(die Tauschvorgänge und Produktionsprozesse)を計算的に表示することが可能なもの(rechnungsmäßig darstellen können)であり、帳簿の借方(die Sollseite)と帳簿の貸方(die Habenseite)にある。

S.44

財産の構成要素の棚卸し価値(der Inventurwert)は勘定に第1番目の項目として受け継がれる、つまり、貸借対照表の借方の財産構成要素(ein aktiver Vermögensbes-

tandteil)が勘定の借方(das Soll)に第1番目の項目として、貸借対照表の貸方の財産構成要素(ein passiver Vermögensbestandteil)が第1番目の価値を減少させるものとして(als erster Verminderungswert)当該残高勘定の貸方において(in das Haben des zutreffenden Bestandskontos)繰越されなければならない(eingetragen werden muß)。

当該財産の構成要素が貨幣資本として把握される場合、即ち、マルク(Mark)・ペニヒ(Pfennig)・クローネ(Krone)・ヘフラー(Heller)・フラン(Franken)サンチーム(Gentime)等といった貨幣単位にしたがって評価される場合には、棚卸しといった徹底的な調査(die Inventur)とまったく同じように評価することが可能となることは明らかなことである(selbstverständlich ist)。

ビジネスを営むこと(der Geschäftsbetrieb)が財産の構成要素をサイクルの中に置くと、ひとつのサイクル(einen)をサイクルと取り替えることになり、慎重な業務管理でもって(mit der vorsorglichen Verwaltung)期首と期末の勘定的な表示が同時平行的に(parallel)日付でもって表示されなければならない(dargestellt werden muß)。そのために、それぞれの期首の価値(Eingangswert)が貸借対照表の借方項目(Sollposten)と考えられ、期末の価値(Ausgangswert)が貸借対照表の貸方項目(Habenposten)と考えられる。

純粋な残高勘定の場合、財産の構成要素の残高勘定の場合、その価値を取引上の交換過程が変動されることがない間には、ビジネスを営むこと(der Geschäftsbetrieb)によって、価値を増加させること(Wertzunahme)も価値を減少させること(Abnahme = Wertabnahme)も明らかにされることがなく、そのためにわれわれは貸借対照表の借方の合計に(in der Sollsumme)期首の価値(der Eingangswert)を持つことになり、貸借対照表の貸方の合計に(in der Habensumme)期末の価値(der Ausgangswert)を持つことになり、貸借対照表の借方残高には(im Sollsaldo)借方の棚卸しの価値(der aktiven Inventurwert)を持つことになり、貸借対照表の貸方残高には(im Habensaldo)貸方の棚卸しの価値(der passiven Inventurwert)を持つことになる。

10. 質問：このような純粋な残高勘定から常に、どのような計算が可能となるか?

解答：正しくビジネスを経営する場合、それぞれの時点で (in jedem Augenblick) 残高勘定から当該財産の構成要素のストック (der Vorrat) から算定されることが可能となる (berechnen kann)。

実地検査によって見積もられている在庫品でもって算定されている在庫品が一致すること (die Übereinstimmung) は正当なもの (die Richtigkeit) となるが、しかし、計算の不規則性と誤りによって、不一致になること (die Nichtübereinstimmung)、即ち、ビジネスを管理することが一致しないことであり、正しくないことになる。

11. 質問：このような純粋な残高勘定を決算することはどのように形成されますか？

解答：決算の場合 (beim Abschluß)、借方残高 (der Sollsaldo) は勘定からの借方として (als Aktivum aus dem Konto) 棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) に引き継がれる乃至開始貸借対照表 (die Ausgangsbilanz) に引き継がれる、そのために、この残高 (er = Sollsaldo) は残高勘定において最終的には貸借対照表の貸方項目 (die letzten Habenposten) を構成し、勘定として表示されている棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) において (期首貸借対照表において) 借方 (ein Aktivum) であるひとつの勘定における借方項目 (eine Sollposten) を構成する。

反対に、マイナスの財産の構成要素 (ein negativer Vermögensbestandteil) として、即ち、貸借対照表の貸方 (ein Passivum) としての貸方残高 (der Habensaldo)、棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) に収容される (eingestellt werden)、残高勘定の借方 (das Soll des Bestandskontos) に、同時に収容されるという結果になる、借方残高 (Sollsaldo) = 後からの貸方項目 (letzter Habenposten) となること：貸方残高 (Habensald) = 後からの借方項目 (letzter Sollposten) となることといった、このように残高を正反対に収容すること (die entgegengesetzte Einstellung) が借方と貸方の間の合計が等しくなること (die Summengleichheit) をもたらし、つまり、勘定 (das Konto) がその目的を満たすことになり (erfüllt hat) そして貸借対照表が作成されることによって (durch Bilanzziehung) 決算がなされる (abgeschlossen wird)。

S.45

12. 質問：残高勘定において (in den Bestandskonten) 純粋な期首の価値として (als reine Eingangswerte) 別の項目 (andere Posten) がそして純粋な期末の価値として (als reine Ausgangswerte) 別の項目 (andere Posten) が表示されることになるが、どちらが行なわれることになるか？

解答：例えば、何らかの原則から、値引き (der Rabatt) ・現金割引 (der Skonto) ・割引 (der Nachlaß) 等の既に記帳されている項目を (einen schon eingetragenen Posten) が縮められて記帳されなければならないという根拠が挙げられ、これらの差し引く項目 (dieser Subtraktivposten) は反対側に (auf die Gegenseite) 収容されなければならない (eingestellt werden muß)。

借方項目 (die Sollposten) は相対して加えられなければならない (addiert werden müssen)、同様に、貸方項目 (die Habenposten) も相対して加えられなければならない (addiert werden müssen)。そのために、これらの間にある差し引く項目 (die Subtraktivposten) をバラバラにすることは出来ない (geschoben werden können)。

ところで、帳簿の借方 (Soll) と帳簿の貸方 (Haben) の意味において、帳簿の借方を減少させること (eine Verminderung des Solls) は期末 (ein Ausgang) 以外にはなく、財産の構成要素が縮小させるもの (eine Verkleinerung des Vermögensbestandteils) であり、帳簿の貸方を減少させること (eine Verminderung des Habens) は残高を増加させること (eine Vergrößerung des Bestandes) そのものである。そのために帳簿の貸方には帳簿の借方を差し引いている項目が含まれ、帳簿の借方には帳簿の貸方を差し引いている項目が含まれる。

S.45

13. 質問：ミックスさせられている残高勘定を用いるとどのような状況になりますか？

解答：ミックスさせられている残高勘定 (sie = die gemischten Bestandskonten) は帳簿記帳において避けては通れない災いとなるもの (ein notwendiges Übel) であり、多数の財産の構成要素が多数に達し、企業の手によって価値を変動されることがなく、特に工業経営において (im Fabrikbetrieb) は財産の価値を変動させることはないが、しかし、商業経営の場合にも (auch beim

Handel)、企業の手もとでその価値を増減させる (vermehrten oder vermindern) 多数の財貨 (zahlreiche Güter) がある。

さて、それぞれの価値増加 (die Wertvermehrung) が定められるとただちに (sofort) 帳簿の借方に記帳を行なうことが可能となり、同じような方法で (in gleicher Weise) それぞれの価値の減少 (die Wertverminderung) が帳簿の貸方項目 (die Habenposten) として認識・記帳されることが可能となり、在庫勘定 (das Bestandskonto) が常に、純粋な価値 (ein reines) をとどめることになり、その残高 (der Saldo) が棚卸価値 (der Inventurwert) 乃至仕入価値 (der Anschaffungswert) と同じ価値を持ち続けることになる。

残念ながら、このような記帳すること (diese Buchung) は必ずしも可能なものとはならない。期末の項目に (in einem Ausgangsposten) 今のところまだ定められていない価値の増加 (die Wertvermehrung) がある場合、価値が増加したのとして帳簿の借方に収容されている収益 (der Gewinn) を含んでいることになる。

つまり、帳簿の借方はさしあたり定められていない価値の増加をより小さいものとし、即ち、帳簿の貸方はその価値増加の金額をより大きいものとしており、つまり、帳簿の借方残高は財貨の在庫の実際の価値 (die wirkliche Wert des Gütervorrates) よりもその収益 (die Gewinn) を小さいものとなっている。

そのために、収益 (der) が別の方法で算定され (bestimmt werden)、そして帳簿の借方に (in das Soll) 純粋な在庫勘定の勘定 (das Konto reines Bestandskonto) と帳簿の借方残高 (der Sollsaldo) が実際の財貨の在庫と等しくなるように記帳される (eingetragen werden) か、勘定 (das Konto) が純粋な損益勘定を用いている勘定に (zu einem reinen Verlust- und Gewinnkonto) なり、その貸方残高 (der Habensaldo) が収益 (der Gewinn) を明らかにしている (angibt) ことによって、特別な (棚卸しと) いった徹底的な調査 (die Inventur) が実施されることによって財貨の在庫 (der Gütervorrat) が評価されなくてはならないかのいずれかが行なわれなければならない。

反対に、損失を伴っている財貨の価値 (ein Güterwert mit Verlust)、つまり、財の入荷よりも (als er eingegangen ist) 安い価格で支出される場合には、帳簿の貸方 (das Haben) がこのような価値損失をより小さいものとし、帳

簿の借方 (das Soll) がこのような価値損失をより大きいものとし、そのために残高 (der Saldo) が現在のところ精確に定めることができない損失 (genau um den jetzt noch unbestimmbaren Verlust) を財の在庫よりも大きいものとなる。

初めて、価値損失 (der Wertausfall) 即ち損失が貸方に収容されると、これに対して、その勘定 (das Konto) が純粋な在庫勘定となり、そしてその帳簿の借方残高 (der Sollsaldo) が財の在庫 (der Gütervorrat) に等しいものとなる (gleichwertig ist)。

S.46

すなわち、棚卸しと) いった徹底的な調査 (die Inventur) によって在庫が定められなければならない、その在庫 (ihn = Vorrat) を勘定の貸方に (in das Haben) 収容することになると、純粋な損益の勘定がとなり、つまり、帳簿の借方残高 (der Sollsaldo) が価値損失 (der Wertausfall) と等しいものとなり、帳簿の貸方残高 (der Habensaldo) が収益 (der Gewinn) と等しいものとなる。

そのために、(価値の増加である: Wertzunahme) 収益 (der Gewinn) が在庫勘定の帳簿の借方に (in das Soll der Bestandskonten) 含められ、(価値の損失である: Wertausfall) 損失 (der Verlust) が在庫勘定の帳簿の貸方に (in das Haben der Bestandskonten) 含められ、つまり、棚卸しと) いった徹底的な調査 (die Inventur) によって、これらふたつ価値の増減が定められることが可能となる (bestimmt werden können)。

棚卸高 (die Inventur) を収容する前に、混合勘定の借方残高 (der Sollsaldo der gemichten Konten) が (棚卸価値 プラス 損失: nventurwert plus Verlust) の合計となり、そもそも未知のものとしての (überhaupt etwas Unbekanntes) 2 種類の未知数 (zwei Unbekannten) の (より少ない収益である棚卸価値である: Inventurwert weniger Gewinn) 差額 (Differenz) が混合勘定の借方残高 (der Sollsaldo der gemichten Konten) となる。そのために、混合勘定を締め切ること (der Abschluß der gemischten Konten) は棚卸しと) いった徹底的な調査 (die Inventur) を用いるだけであり、つまり、いつでも行なわれるものではなく、期間毎に (periodisch) 可能となるものである。

14. 質問: 帳簿記帳が欠けていることにどのように対処

することができますか？

解答：誰もが勤務を超過すること (die Mehrarbeit) をいとわない、混合しているビジネス (die gemischten Geschäfte) が等しく損益において (gleich auf Gewinn und Verlust) 追求され、ただちに、収益 (der Gewinn) を在庫勘定の帳簿の借方に (in das Soll der Bestandskonten) 価値の増加として (als Wer vermehrung) 收容し、損失 (der Verlust) を在庫勘定の帳簿の貸方に (in das Haben der Bestandskonten) 価値の減少として (als Wer verminderung) 收容しといった範囲において超過勤務が可能であり、誰も (er = wer) が常に純粋な在庫計算に基礎を置き続けていることになる。

残高勘定とともに (mit den Bestandskonten) 損益勘定と平行して用いることによって混合勘定 (die gemischten Konten) を用いることを避けることが可能となり、有価証券勘定 (der Wertschriftenkonto) と並んで有価証券・利子勘定 (ein Wertschriften-Zinsenkonto)、固定資産 (der Immobilienkonto) と並んで固定資産・収益勘定 (ein Immobilien-Ertragskonto)、為替送金「送金為替」勘定 (der Rimessenkonto) と並んで割引勘定 (ein Diskontokonto)、不確かな債務勘定 (der Konto zweifelhafter Debitoren) と並んで準備金勘定 (ein Reservekonto) [支払保証勘定：Delcrederekonto]、現金を扱っている場所の勘定 (der Münzortenkonto) と並んで通貨差額勘定、損益取引と関していること (die bezüglichen Verlust- und Gewinnengeschäfte) は残高勘定に (in die Bestandskonten) 收容されるのではなく、損益取引に含まれている損益勘定 (die dazu gehörenden Verlust- und Gewinnkonten) に收容されなければならない (eingestellt werden müssen)。

損益 (Verlust und Gewinn) がただちにそれぞれの個別のケースにおいて定められているところでは、以上のような逃れるすが役立つないために、(のがれることが) 不可能となる；数量の配賦計算を (zur Mengenverrechnung)、相殺をすることを (zu Skontri) 手段として難をさけるのではなく、棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) に依存することのない即ち在庫価値を定めることと平行して定められなければならない。

以上のようなことが不可能なところでは、評価する方法での価値決定 (die schätzungsweisen Wertbestimmung) で在庫を定めることに満足することが可能となる。

けれども、在庫を精確に定めることと損益を精確に定めることは我々には専(もっぱ)ら棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) だけで定められる (verhelfen)。

S.46

15. 質問：混合しているものとして扱われることが可能な勘定はありますか？ あなたがたはこのことについて何か情報がありますか？

解答：現金勘定 (das Kassakonto) と債務者 (die Debitoren) と債権者 (die Kreditoren) に関する勘定がどのような事情のもとでも混合された用いられません (geführt werden dürfen)。常に、現金残高 (der Kassasaldo) は現金残高と一致していなければならない、(債務者：die Debitoren と債権者：die Kreditoren との) 交互計算 (das Kontokorrent) は実際の債権と負債に一致していなければならない (übereinstimmen muß)。

S.47

現金勘定と (債務者：die Debitoren と債権者：die Kreditoren との) 交互計算勘定 (das Kontokorrentkonto) が、混合されているビジネス (die gemischten Geschäfte) ・損益のそれぞれ (jeder Verlust und Gewinn) ・現金勘定と交互計算取引において (im Kasse- und Kontokorrentverkehr) 認識していること、または算定することがなされると、これらの勘定に (in diese Konten) にただちに收容されなければならない (eingestellt werden muß)。このような要請に強く固執しなければならない。

こうしたことに加えて、混合勘定 (die gemischten Konten) は可能な限り (soviel als möglich) 用いることを回避しなければならない (zu vermeiden) ものであり、そして、混合勘定 (sie = die gemischten Konten) は、損益を即座に算定し記帳することが不可能となっている財の形態に関してのみ (nur für solche Güterformen) 用いられるべきであり (zu werdenden)、

16. 質問：純粋な在庫勘定として用いられている勘定が常に財の残高の実際価値に (dem wirklichen Wert des Güterbestandes) 合致しているという説明から推し量られますか (geschlossen werden darf) ?

解答：価値の増加 (die Wertzunahme) と減少 (die Abnahme) が財の在庫が引き渡し (ausgehen)、そのこと

が帳簿の貸方に (in das Haben) 記帳されている部分にだけ及んでいる場合には、こうしたことが可能になると考えられます。

しかし、品物 (Waren) ・外国為替 (Devisen) ・外国の銀行券 (fremdes Papiergeld) ・株式 (Aktien) ・国の年金 (Staatsrenten) のような我々の財産のなかで残されている財の形態がしばしば極めて大きな価値の変動に支配されており (unterworfen sind)、使用によって損耗している機械 (Maschinen) ・家畜 (Haustiere) を用いることにおいて、土地の価値が増減していること等のために、純粹な在庫勘定の帳簿借方残高は単純にこれらの在庫の期首の価格 (der Eingangspreis) 乃至購買価格 (der Erwerbspreis) 以外のなものではなく、したがって、これらの金額が現在の市場価格 (heutiger Marktpreis) 乃至棚卸価値 (der Inventurwert) となっているということとはできない。

このような価値の変動を日を追って記帳することが不可能なために、帳簿記帳を完璧にしているシステム (vollendetsten System der Buchhaltung) の場合にも、棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) に頼らざるを得ない。

この (sie = vollendetsten System der Buchhaltung) 帳簿記帳を完璧にしているシステムが財産の構成要素を勘定の上で取り扱うことでどうしてもなくてはならないもの (die ganz unentbehrliche Ergänzung) であり、棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) が精確に実証することが可能となると借方と貸方といった帳簿記帳が行なわれ、常に損益計算といった帳簿記帳が行なわれることになる。

17. 質問：帳簿記帳においてどのような在庫勘定 (die Bestandskonten) が用いられますか？

解答：「それぞれの財産の構成要素に関しては、一つの勘定を！」と原則にしたがっている限りでは、在庫勘定 (die Bestandskonten) が経済的な企業におけるさまざまな帳簿の借方と帳簿の貸方の財産を構成要素として用いられる (geführt werden als ...) ということが現れる (vorkommen)。

しかし、単式の帳簿記帳の低い段階において、精確なコントロールが避けることのできない必要になると思われる勘定的な取り扱い (die kontenmäßigen Behandlung)

の財の形態が選択され、そして財の形態を引き受けることになり、普通 (gewöhnlich) 現金勘定 (die Kassakonto) と債務者 (die Debitoren) と債権者 (die Kreditoren) との信用取引 (der Kreditverkehr) に関する勘定で対応するものとなっている。

在庫計算を拡大する (in der erweiterten Besatndrechnung) と商品 (Waren) ・為替送金 (Rimessen) ・為替手形 (Tratten) ・有価証券 (Wertschriften) 等の別の財産の構成要素に関する勘定も作られることになる。システムマテックな帳簿記帳の段階において、帳簿の借方 (aktive) の財産の構成要素と帳簿の貸方 (passive) の財産の構成要素のそれぞれが勘定的に取り扱われなければならない (kontenmäßig behandelt werden muß)、そのために、財の形態に従っている名称を持つ多くの在庫勘定があり、これらの勘定においてコントロールされなければならない (kontrolliert werden soll)。

S.48

18. 質問：これらすべての在庫勘定にはどのような共通な属性 (die gemeinsamen Eigenschaften) がありますか？

解答：これらの残高勘定 (die Bestandskonten) は、期首の価値 (Eingangswert) と期末の価値 (Ausgangswert) に従って財産の構成要素の一覧表が作成され (verzeichnen)、そのために帳簿の借方 (die Sollseite) と帳簿の貸方 (die Habenseite) という 2 つの部分に (in zwei Teile) 分けられることと一致している。

これら財産の種類価値増加 (Wertvermehrungen) は帳簿の借方 (die Sollseite) に収容されなければならない (eingestellt werden müssen)、これら財産の種類価値減少 (Wertverminderungen) は帳簿の貸方 (die Sollseite) に収容されなければならない (eingestellt werden müssen)。

そのために在庫勘定の借方には当該財の形態を棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) からこちら側に (herüber) もって来られた開始価値から現れてくるものであり、その後、ビジネス経営によって (durch den Geschäftsbetrieb) 生じさせられた価値の増加 (die hervorgerufene Wertmehrung)、つまり収益項目 (die Gewinnposten) が現れる、帳簿の貸方には (in das Haben) 価値の減少 (die Wertverminderung) が期末に

(der Ausgang) 損失 (der Verlust) が現れ、決算の場合に (beim Abschluß)、棚卸しといった徹底的な調査から (aus der Inventur) 当該財の形態の有高 (Bestand) または在庫 (Vorrat) を増加させるためにあちら側 (である反対側に: hinüber) 現れる。

貸方の財産の構成要素に関する勘定の場合、貸方 (das Haben) が負債の状況と増加 (Stand und Vermehrung) を意味し、反対に、借方 (das Soll) が負債の減少を意味する。財産の増加 (die Vermehrung des Vermögens) が負債の減少 (die Schuldverminderung) と同等となり、反対に、負債の増加 (die Schuldvermehrung) が財産の減少 (die Verminderung des Vermögens) と同等となり、このことから帳簿の借方 = 価値の増加 (Soll = Wertvermehrung)、そして帳簿の貸方 = 価値の減少 (Haben = Wertverminderung) となる。

そのためにこれらの勘定は帳簿の貸方項目を用いて (mit einem Habenposten)、即ち、棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) からこちら側 (herüber) もって来られた貸借対照表の貸方 (Passivum) と用いて始められる (eröffnet werden)。それぞれの負債の増加は帳簿の貸方に (in das Haben) 収容され (eingestellt wird)、それぞれの負債の減少は帳簿の借方に (in das Soll) 収容される (eingestellt wird)。

決算の場合に (beim Abschluß)、貸借対照表が棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) における貸借対照表の貸方として (als Passivum) 乃至期末貸借対照表における貸方項目として (als Habenposten in die Ausgangsbilanz) の帳簿の貸方残高 (der Habensaldo) がこちら側に持って来られる (hinübergewonnen wird) という方法で作成される (sich vollzieht)。したがって、貸借対照表の貸方 (das Passivum) が当該勘定に引き継がれないことになり (erlischt)、その結果として、これらの残高が勘定の借方に収容されなければならない (eingestellt werden muß)。

S.48

19. 質問: 資本勘定 (das Kapitalkonto) にはどのような課題が含まれているのか?

解答: 資本勘定 (das Kapitalkonto) は純粋な財産をコントロールする任務を引受け、そのために、経営主によって (vom Prinzipal) 企業に都合された資本の最初の状態

(das anfänglichen Stand) を表示するだけでなく、純粋な財産を増加させる都度 (jede Zunahme) または減少させる都度 (jede Abnahme)、このことを書き留めるという任務 (die Aufgabe) を持つことになる。

経営主の勘定 (das Konto des Prinzipals) は、経営に投入される資本と労働のすべてに関してすべての債権者のものとなるものであり、純粋な営業資産をなんらかの理由で減少される全てに関して債務者のものとなるものであり、したがって、帳簿の貸方には、当初の財産、利益によって生じさせられたすべての資本の増加を収容しなければならない、反対に、帳簿の借方には損失によって生じた財産の減少が収容されなければならない。つまり、資本勘定の貸方残高において (im Habensaldo des Kapitalkontos) 計算されている純粋な財産 (das berechnete Reinvermögen) が含まれることとなる。

20. 質問: 資本勘定の場合によっては起こり得る借方はどのような意義がありますか?

解答: 資本勘定の借方残高は赤字決算の場合に (bei einer Unterbilanz) 損失 (der Verlust) が収容される (einstellen wird)、この損失は財産の減少が当初の財産よりも大きくなり、この損失の増加 (die Zunahme) は営業企業体が事故に合うこと、負担する諸経費、経営主の私的な利用した分であり、資本勘定の借方には貸方項目の合計を完全に上回るものが収容される。

S.49

このようなケースは当然のこととして、当該企業家が財貨を信用取引の方法で手に入れている場合にのみ可能となることである。ここでは、資本勘定の借方残高が在庫勘定の貸方残高と等しくなっており、すなわち、貸借対照表の借方に関する貸借対照表の貸方の余りが等しくなっている。

21. 質問: 残高勘定と資本勘定の間にはどのような関連がありますか?

解答: 第一に、純粋な取引の経過として (als reine Tauschvorgänge) ミックスされている取引 (die gemischten Geschäfte) が把握されると、純粋な交換取引 (reine Tauschgeschäfte) と純粋な損益取引 (reine Verlust- und Gewinngeschäfte) といった取引の二種類だけ (nur

zwei Arten von Geschäften)を帳簿記帳が記帳しなければならない。一方の財貨の形態に(in der einen Güterform)における保有されている状態に減少が表れ、他方の財貨の形態に(in einer anderen Güterform)において保有されている状態と同じ価値分の増加(einer gleichwertigen Vermehrung)となる。

つまり、これら二つの取引(純粋な交換取引[reine Tauschgeschäfte]と純粋な損益取引[reine Verlust- und Gewinngeschäfte])は純粋な財産に影響を及ぼすものではなく、したがって、これら二つの取引は資本勘定にかかわるものではなく、これら二つの取引が一方の在庫勘定の借方に収容され、別の在庫勘定の貸方に収容される。

純粋な収益取引の場合(bei den reinen Gewinnsgeschäften)、新しい価値(ein neuer Wert)であるなんらかの財貨の構成要素を増加させることが生じ、そのためにこうした純粋な収益取引が当該在庫勘定における借方項目となる。反対に、財産計算(die Vermögensrechnung)は純粋な収益取引を資本の増加(Kapitalvermehrung)として資本勘定の貸方に収容しなければならない(einstellen muß)。

純粋な損失取引の場合には(bei den reinen Verlustsgeschäften)、すでに保有されているなんらかの財の一部がなくなることであり、そのために、このようなものがなくなること(dieser Vorfall)は当該残高勘定における貸方となる。これに反して、財産計算(die Vermögensrechnung)はこの純粋な損失取引を資本の減少(Kapitalverminderung)として資本勘定の借方に収容しなければならない(einstellen muß)。

在庫勘定において、現在高に従った(nach Bestand)財産の構成要素が期首と期末にコントロールされる(Eingang und Ausgang kontrolliert werden)、在庫勘定の借方残高に(in ihren Sollsalidi)貸借対照表の借方(die Aktiven)が当てはまり、在庫勘定の貸方残高に(in ihren Habensaldi)貸借対照表の貸方(die Passiven)が当てはまり、その残高勘定の余剰に(im Überschluß der ersteren)即ち、残高勘定全体の借方残高に(im Sollsaldo der gesamten Bestandskonten)、実証されている純粋な財産(das nachgewiesene Reinvermögen)が当てはめられ、資本勘定の貸方残高に(im Habensaldo des Kapitalkontos)が当てはめられる。

そのために、われわれは残高勘定(die Bestandskonten)

を現金処理(die Kassaverwaltung)と照合することが可能であり、資本勘定(das Kapitalkonto)を現金計算(die Kassarechnung)と校合することが可能となる。したがって、現金における現金残高が現金勘定の現金残高と一致していなければならないものとしてわかっており(gewiß als · · ·)、残高勘定の借方残高が資本勘定の貸方残高と等しくなっていなければならない(gleich sein muß)。

22. 質問：あなたがたはシステムマティクな帳簿記帳の本質(das Wesen der systematischen Buchhaltung)を簡略して表せますか？

解答：システムマティクな帳簿記帳(die systematischen Buchhaltung)は一方では(einerseits)純粋な財産の計算から構成されており、他方では(andererseits)貸借対照表の借方の構成要素(aktiven Bestandteilen)と貸借対照表の貸方の構成要素(passiven Bestandteilen)から構成されており、そのために、これらは複式の方法(der doppelte Art)での純粋な財産が実証されることが可能であり、かつては残高勘定を用いて(mit Hilfe der Bestandskonten)、財産の構成要素全体の形態の変化と(die Formveränderung)と価値の変動(die Wertveränderung)にぎっしりと記録されており(lückenlos aufgeschrieben worden ist)、財の形態の全体をその大きさと構成(die Größe und Zusammensetzung)をそれら残高勘定(sie = die Bestandskonten)が実証することが可能となり、その後、資本計算を用いて(mit Hilfe der Kapitalrechnung)上記の純粋な財団が実証され(soeben nachgewiesen wurde)、それぞれの財産の増加と減少(jede Vermehrung und Verminderung des Vermögens)をコントロールしており、そのために、純粋な財産がどれくらいの大きさになっているかを精確に方向されていた(genu angibt)。

S.50

このような原則から個々の取引内容(jeder Geschäftsvorfall)が必ず一ほかならぬ勘定(die Konten)がこのことを表示しているのだが二つの処理を行なっていることによってコントロールされなければならない(kontrolliert werden muß)。純粋な取引の経過(ein reiner Tauschvorgang)即ち、財産の構成要素内の純然たる形態の変化(eine bloße Formveränderung)は、ひとつの在庫勘定において一増加として一借方項目として

記録されなければならない(eingetragen werden muß)、別の在庫勘定において一減少として一貸方項目として記録されなければならない(eingetragen werden muß)。

純粋な損益取引(reine Verlust- und Gewinnengeschäfte)すなわち、純粋な財産の変動(die Veränderungen des reinen Vermögens)は一方では資本計算(in die Kapitalrechnung)に収容され(eingestellt werden)、他方では残高勘定に(in die Bestandskonten)、つまり、利益(Gewinn)は残高を増加させるものとして残高勘定の借方と資本勘定の貸方に収容され、損失(Verlust)は残高を減少させるものとして残高勘定の貸方と資本勘定の借方に収容される。

一方に側において、最も精確にどのように新しい財が製作され、経済的な企業はどこで製作されているかが実証され(nachgewiesen wird)そしてこれらのことから構成されていることが実証されており、他方の側において、財貨の増加の影響について連続している債権者に対する債務者の計算(die fortlaufend Gegenrechnung)乃至純粋な財産における減少についての連続している照合計算(die fortlaufend Gegenrechnung)が行なわれる。

このような2重の作用に従っている個々の取引がコントロールされているために、当然のごとく、すべての取引の合計(die Summe aller Geschäfte)も財産を2重に明らかにするもの(der doppelten Nachweis)でなければな

$$\begin{aligned}
 K &= a_1 + a_2 + a_3 + a_4 - p_1 - p_2 - p_3 - p_4 = \\
 O &= \qquad \qquad \qquad - a_4 \qquad \qquad \qquad + p_4 \\
 O &= \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad + a_5 \qquad \qquad \qquad - p_5 \\
 +g &= \qquad \qquad \qquad +g \\
 -v &= \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad -v \\
 K+g-v &= a_1 + a_2 + a_3 + a_5 + g - v - p_1 - p_2 - p_3 - p_5
 \end{aligned}$$

らない(ergeben muß)

つまり、システムマティックな帳簿記帳(die systematische Buchhaltung)は営業資本のサイクルをひとつの数学上の方程式によって(eine mathematische Gleichung)表示することであり、一方の側では(auf der einen Seite)資本であり、他方の側では(auf der anderen)財産の構成要素であり、後者の場合に財産の形態の変化(Formveränderungen)は方程式になんらの影響を持たない、つまり、形態の変化は純然には価値の移動(eine Wertverschiebung)を意味しており、これに対して価値の変動(Wertveränderungen)方程式の両側において同じ方法によって増加(Zunahme)または減少(Abnahme)として収容される(eingestellt werden)。

初めの財産を、 a_1, a_2, a_3, a_4 等 = 貸借対照表の借方の構成要素、そして、 p_1, p_2, p_3, p_4 等 = 負債とする。

交換取引(ein Tauschgeschäft)によって、例えば、 a_4 と(gegen) p_4 が交換で決済され(ausgleichen werde)、新たに a_5 と(gegen) p_5 が加えられる。さらに、利益取引(ein Gewinngeschäft) g で、財産が増加させられ、損失取引(ein Verlustgeschäft) v で、財産が減少させられる。

システムマティックな帳簿記帳(die systematische Buchhaltung)はこれらの取引から、以下の方程式を構成する(zusammenstellt)。

当初の財産 プラス 利益残高
 =新しいB/Sの借方 マイナス 新しいB/Sの貸方
貸借対照表の形態：
 新しいB/Sの貸方=
 新しいB/Sの貸方 プラス 当初の資本 プラス 利益の残高

S.51

23. 質問：代数学の基礎がどのように追究されているかを詳しく学ぶことが帳簿記帳の事柄を代数的に表示することになるということうれしく思います。代数学の基礎(sie = die Anfangsgründe der Algebra)がこのような方法で事実であることが確かなことである認識(der sicheren Einblick)をいつまでも同じものであり(das Gleichbleibende)・規則性を持ったもの(die Gesetzmäßige)であることを獲得し、一定の数値(die

bestimmten Zahlen)を用いる場合に、これらの法則性(dieses Gestzmäßige)ははっきりとは現れてこない。

したがって、代数学の基礎(sie = die Anfangsgründe der Algebra)が上の記述の方程式のなかで(in der vorstehenden Gleichung)本来の完璧にシステムマティックな帳簿記帳(die ganze systematische Buchhaltung)を描写している。われわれは二つの勘定の列を展開している。在庫勘定の列(die Reihe der Bestandskonten)についてあなたがたはどのようなことを認識しますか？

解答：このことに関して最も本質的なこと (das Wesentlichste) はすでに述べています。肝心なのは、貸方に記帳すること (die Kontierung) が欠落なしに全部そろっている (vollständige) ことである。より多くの副次的な意義からの疑問が理論的な観点からの疑問となり、在庫勘定を多数の個別的な勘定に (in viele Einzelkonten) 分解できるのか、帳簿記帳を行なっている勘定の集まり (die Kollektivkonten) の根底には小さな勘定があるのか、その疑問の内容である。

それぞれの手続きがより精確なものになると営業経営を描写している個々の描写しているものがより多くなり、個々の勘定をまとめること (die Zusammenfassung) ・勘定の集まりを概観すること (der Überblick) が容易になるが、帳簿記帳を補助するもの (zur Anlage von Hilfsbüchern) が不可欠なものとなる。

S.51

24. 質問：資本勘定から導き出される勘定はどのようなものがありますか？

解答：第一に、企業の私的な計算の状態に関して私的な勘定を管理すること (die Führung eines Privatkontos) が必要となる。借方には、美辞寝るから私的計算に関する企業化の金額が回収されている金額がある。言うまでもなく、期間的な合計である財産の減少は、決算貸借対照表を作成する場合には、資本勘定の借方に転記されなければならない (übertragen werden muß) ものである。それから、損益勘定 (ein Verlust- und Gewinnkonto) が (借方に) ビジネス上の純財産の減少を、そして、(貸方に) 純財産の増加を勘定的に表示していることを始められる。

一例として棚卸しといった徹底的な調査 (die Inventur) は期間的な複式勘定に現れてくるものであり、この借方には (in sein Soll) 損益勘定から導き出されている勘定の実証されている (借方残高である) 損失が受け入れられており、反対に貸方には (im Haben) 補助勘定から実証されている (貸方残高である) 利益項目が受け入れられている。損益勘定を決算することは (財産の増加となる) 資本勘定の貸方に (純利益である) 貸方残高を繰り越すことであり、(財産の減少となる) 資本勘定の借方に (純損益である) 借方残高を繰り越すことである。

当然の如く、残高を繰り越す場合には下位に位置する勘定から残高の性質上上位に位置している勘定には変動

はない、つまり、(借方残高である) 補助勘定における損失は上位に位置している複式勘定に存在している。同様に、損失から二つのことが行なわれることはない、つまり、残高をこのように繰り越すことは補助勘定を調整すること (die Ausgleichung) または均衡させること (die Bilanz) が求められており、このような原則からここで勘定から取り除かれている借方残高を貸方において決算される項目として収容されなければならない (einzustellen ist)、反対に、常に、一つの側における残高がより小さい合計となることが明らかにされることになる。

S.52

最終的な成果 (das schließliche Ergebnis と同額のもの (das Gleiche) が、例えば、損益勘定における損失としての費用となるか商品勘定において繰り越されていくものとなるのかという事柄が特に重要なこととなる。損失はいつまでも損失でありつづけることになり、そここの勘定によって定められた損失が資本勘定において処理されることになる。

25. 質問：あなたがたは決算貸借対照表について知っていますか？

解答：決算貸借対照表 (die Schulßbilanz) は当初の貸借対照表における財産の構成要素に集中したものであり、損益勘定ないし資本勘定における損益額となるものであり、決算貸借対照表 (sie = die Schulßbilanz) は多重のシステム (Veilkontensystem) から二重のシステム (Zweikontensystem) に戻すもの (die Rückkehr) である。

混合勘定が扱われていない限り、決算貸借対照表 (die Schulßbilanz) はその時々 (jeden Augenblick) 試験的な貸借対照表から製作されることになる。借方残高 (die Sollside) が、純粋な在庫勘定とかわりをもっている限り当初の貸借対照表の借方となり、反対に、損失が純粋な損益勘定に起因している場合には、損益計算における借方項目 (Sollposten) となる。貸方残高 (die Habensaldi) は純粋な残高勘定の場合の当初貸借対照表においては貸方項目である負債であり、反対に、収益は収益が純粋な損益勘定に由来するものである損益計算においては貸し方項目となる。混合勘定の場合に取り除くこと (die Ausscheidung) に関しては、棚卸しといった徹底的調査

(die Inventur)すなわちこのような残高に関して数量の配賦計算を用いて(mit Mengenverrechnung)実施される相殺すること(das Skontro)になり、最終的には在り高を評価すること(die Schätzung des Vorrats)を補助することになる。

初めにこのような在りの価値(der Wert dieser Vorräte)が識別される場合に、損失または収益を定めることが可能となる。第一に、当初貸借対照表に棚卸価値(der Inventurwert)が収容され、同時に、当該在庫勘定後に現れる貸方項目が収容される、こうすることによって、この後者の貸方項目が損失としての借方残高(ein Sollsaldo)が繰り越されなければならない(übertragen werden muß)、収益としての貸方残高が損益勘定において必ず繰り越される(übertragen werden muß)純粋な損益勘定(das reinen Verlust- und Gewinnkonto)となる。

このような複式の相殺(dieser Doppelsammlung)を用いて、集中すること(die Konzentration)が実施される(vollzogen ist)。詳しく言うと、営業を開始した時点での財産(das Anfangsvermögen)が(当初の貸借対照表での貸方である)帳簿の貸方に収容されると、われわれは当初の貸借対照表の借方残高が実証されている財貨の増加となり、損益勘定の貸方残高が算定された財貨の減少となる。純利益を二つの算定方法が一致することは帳簿記帳の作業の正しいこととなる。

この試験的な手続き(die Probe)は純粋な利益に(auf den Reingewinn)向けられるのではなく、純粋な財産に(auf das Reinvermögen)に向けられる、このようなケースにおいて営業を開始した時点での財産(das Anfangsvermögen)が当初の貸借対照表の貸方に(in das Haben)収容されるのではなく、帳簿の貸方(die Passiven)に収容されることになり、借方残高(der Sollsaldo)が実証された純粋な財産(das nachgewiesene Reinvermögen)を報告することになる。

その後、損益勘定の残高を資本勘定に記録し、そして資本勘定の貸方残高が算定された純粋な財産となる。このように算出すること(diese Ausrechnung)は、第一に、事前の作業において(in einer Vorarbeit)作成される、貸借対照表が事実とあっている場合には、決算の項目をシステムマティックに整えること(die systematische Ordnung)が優先(in der Primanota)され、適切な勘定への収容が行なわれる。

S.53

決算貸借対照表の外見上のメルクマール(das äußere Merkmal)は貸借対照表における全ての勘定にあるが、しかし、その本質は、帳簿記帳のシステム(das System der Buchhaltung)に基礎を置く純粋な財産詳しく言えばつまり純利益を複式的に証明すること(die doppelten Nachweis)である。

S.53

26. むすび：Schlußwort

解答：最後にわれわれは、質問22についての解答の中で代数的な符号で明らかにされるものを追究し、あらゆるものを理解されることが可能となる方法で表し、このことによって代数学に含まれていないものを追究する。あなたがたがご存知のように、一定の合計金額だけを表示されることが可能となっている取引を記帳することはその意義が明らかにされており、すなわち、財産の形態と価値の変動における影響が金額で明らかにされる。現金単位(die Geldeinheit)は貨幣法によって(die Münzgesetze)金と銀の一定の重量そのものである。

たとえば、1 Zoll は、金で表示すると0.358423 Zoll の金となり、銀では5 Zoll の銀である、1金貨フランは0.2920323 Zoll の金となり、1銀貨フランは4.5 Zoll の銀である。そのために、我々は貨幣単位に替えて金と銀の重量に相当している価値の測定器(der Wertmesser)を受け入れるならば、我々は帳簿記帳をある方法で取り替えることが可能である。

1. 例えば、一つの取引の開始が100gの帳簿の借方、金30gの帳簿の貸方であり、つまり、純粋財産は金70gである。
つまり、われわれは純粋財産の左のはかり皿に(in die linke Wageschale)70gあり、右のはかり皿に(in die rechte Wageschale)である帳簿の貸方は30gである、反対に、帳簿の貸方(die Aktiven)は100gであり、秤(はかり：die Wage)は同じ重さである。
2. 我々が左の秤皿から帳簿の貸方30gを取り出すが、しかし同時に右の秤皿からも同じ重量のものを帳簿の借方から取り去る、秤(はかり：die Wage)は同じ重さであり、われわれは両方の更には純粋な財産70gを持っている。

3. われわれが右の秤皿に例えば金 5g を誤って交換してしまった場合には、われわれは別の 5g によって取り除き、われわれは同じ 5g を皿に入れる、したがって、依然として秤(はかり: die Wage)は同じ重さである。
4. われわれが右の秤皿に 8g の新しい構成要素を皿の中に入れると、同じ量が乱されることになる (gestört ist)、そして、われわれが 8g を左の秤皿に入れることによって製作されることが可能となり (hergestellt werden kann)、純粋な財産は両方の場所において金が 78g に増加させられる (angewachsen ist)。
5. 我々が右の秤皿から一掴みの金 3g を取り出す場合には、再び同じ量が製作されなければならない、また、左の秤皿から金 3g の同量のものが取り出されている (herausgenommen werden)。
6. 秤は同じ重さであり、それぞれの秤皿であり金は 75g であり、我々は最終的な純粋な財産を完成させたことになる。

S.54

これらの六つのケースにおいて完璧にシステムマテイクな帳簿記帳 (die ganze systematische Buchhaltung) が示されたことになる。

左の秤皿は資本勘定を意味している。金を皿に入れることは貸方にあり、金を取り出すことは借方であり、皿には資本勘定の貸方残高の重量がある。

右の秤皿はすべてのさまざまな在庫勘定を意味しており、金を皿に入れることは借方であり、金を皿から取り出すことは貸方であり、その他の保有されている重さは在庫勘定のすべての借方残高以外のなものでもない、すなわち、帳簿の借方と帳簿の貸方が区別されることになる。

純粋な交換取引は上記の 3 の下で記述されている皿から取り出すものと同じ金の重量を皿に取り入れるものであり、これら二つの取引は右の秤皿の中にある。

収益取引 (die Gewinnengeschäfte) は、上記の 5 は損益取引を記述しており、上記の 4 の下で両方の秤皿に金が入り入れられ、両方の秤皿から同僚の金を取り出されていることを意味している。

両方の秤皿が同量になっていることは帳簿記帳的に翻訳することができる。

(計算されている純粋な財産である) 資本勘定の貸方残高は (実証されている純粋な財産である) 在庫勘定の借方と等しくものでなければならない。

帳簿記帳担当者は信頼できる秤を行なう人として両方の秤皿が同じ重さになることは決してなく、秤皿が乱されるという状況はなく、そのために帳簿記帳担当者は以下のことを記憶しておかなければならない。

秤皿に取り入れられることは再び同じ皿から取り除かれなければならないが、しかし、同じ数量のものが別の皿に取り入れられる。秤皿から取り除かれることは、その皿に同じ量が再び取り入れられるが、しかし別の秤皿から取り除かれるものである。

このような単純な秤の法則を帳簿記帳的に翻訳することをわれわれはわれわれが大学で研究することに委ねることにする。

3. あとがき

以上翻訳を試みたシェーアの「帳簿記帳の方法」は 1913 年に公表・出版されたものであり、シェーア自身がベルリン商科大学に在任中のものであることから、「第 1 部: 帳簿記入の方法の導入」において述べられているように教員 (der Lehrer) が高校の生徒¹⁾ (der Schüler) の認識力と理解力を高めるための授業の方法に関するシェーア自身の考察から開始されている。そして、この「帳簿記帳の方法」が「これまでの専門分野の教科書には、実際の生活でもとめられているものと高校で求められているものを同時に満たし得ることが欠けていた」(本稿 P.4) 部分を補うことを目的に公表・出版されたものと考えられる。

このことはシェーア自身が「帳簿記帳の授業に関する方法論的な原則」において六つの事柄 (本稿 P.4~5) が挙げられており、帳簿記帳の教員 (der Buchhaltungslehrer) の資質について七つの事柄 (本稿 P.7~12) が挙げられており、これらの内容に基礎を置いているシェーア自身が想定している仮定の授業内容が展開されている (本稿 P.23~34) であり、この授業が貸借対照表の作成にまで至っ

1) 本稿では、der Schüler を高校の生徒と訳している。

ている。ここでの貸借対照表の作成のためには単式帳簿記帳(die einfache Buchhaltung)よりも複式帳簿記帳(die doppelte Buchhaltung)がその整合性が高いものとして結論づけられており(本稿 P.34)、その成果としての「システムマティクな帳簿記帳の典型的な表示」(本稿の最後にある【付表1-1】と【付表1-2】)としての一覧表にまとめられる可能性が示されており、ここでの数値はシェーアが想定している仮想授業の中から導き出されたものではないが、帳簿記帳において考慮すべき点に基づいて作成される可能性のあることが重視されているものと考えることが可能である。

つまり、複式帳簿記帳にしたがって作成される貸借対照表それ自体にシェーアの論点があるものと考えられる。このことは帳簿記帳の第一段階としての構成要素において(本稿 P.15~21)「A. 現金勘定、B. 人名勘定、C. 価値計算、D. その他の資産の構成部分に関する会計、E. 棚卸しと言った徹底的調査、F. (単式帳簿記帳)結合された簿記手続き」の内容が詳らかに述べられている。このことは、反対に、帳簿記帳の中で取り扱われる内容を限定していることを併せて示しているものと考えることが可能であり、「第3部：第二段階(複式簿記の導入)：B(複式帳簿記帳の完備している教科課程)」を展開する場合の前提を規定しているものと考えることが可能である。

この「第3部：第二段階(複式簿記の導入)：B(複式帳簿記帳の完備している教科課程)」において、特に、シェーアの論点の特色を示すものと考えられるものとして「銀行取引の導入(Einführung der Bankverkehrs)」を挙げることが可能である。つまり、シェーアの「帳簿記帳の方法」が公表・出版された当時(1913年)には高度な信用取引がドイツ帝国において行渡っていたものと考えられ、したがって、商品売買取引をはじめあらゆる取引の最終的な決済である現金の引き渡しと受け取りが行なわれる以上に企業が開設している当座預金勘定を経由した

$$\begin{aligned}
 K &= A_1 + a_2 + a_3 + a_4 - p_1 - p_2 - p_3 - p_4 = \\
 O &= \quad \quad \quad - a_4 \quad \quad \quad + p_4 \\
 O &= \quad \quad \quad + a_5 \quad \quad \quad - p_5 \\
 +g &= \quad \quad \quad +g \\
 -v &= \quad \quad \quad -v \\
 K+g-v &= a_1 + a_2 + a_3 + a_5 + g - v - p_1 - p_2 - p_3 - p_5
 \end{aligned}$$

決済取引が広く行なわれていることのひとつの証左と考えることが可能である。事実、シェーア自身が一時期教職から離れ、「1870年 教職を辞し、旅館主、チーズ輸出商となる。また、バーゼル州立銀行の設立に参加し、後に管理役とな」⁹⁾た事実があり、こうしたことから銀行取引により大きな意義を見出しているものと考えられる。

具体的には【付表2】にみられるような「6. 所有手形勘定、7. 負債手形勘定、8. 利子勘定と割引勘定、9. 曖昧な債務者、10. 支払保証(貸倒再評価)勘定」五つの項目が挙げられている点がこのことを示しているものと考えられる。そして、この【付表2】は【付表1-1】・【付表1-2】との関連性をみることはできない。

以上のようなプロセスを経て、「第3部：第二段階」は「F. 複式帳簿記帳における筋道の通っている復習」に至り、「あとがき」をふくめた26の項目が示されており、特に、「22. 質問」において「システムマティクな帳簿記帳の本質を簡略して表せるか?」として方程式を導き出している(本稿 P.52)。ここでの「 $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$ 」の部分に関しては、岡本人志氏は「シェーアは、一定時点に存在する \dots (中略) \dots 個々の資産構成部分の価値をそれぞれ a_1, a_2, a_3, \dots で表わし、その合計をAで表わすことによって、 \dots (中略) $\dots a_1 + a_2 + a_3 + \dots = A$ の式を得る。簿記における資本の概念を、シェーアは \dots (中略) \dots 所有物に属している全ての資産部分の交換価値(Tauschwerte)の合計である \dots (中略) \dots 資産は資本と等置される。シェーアにおいて、資産と資本の相違は前者が具体的な資産構成部分を表わすのに対して、後者が抽象概念である \dots (中略) \dots 資本をKで表わすことによって、 $a_1 + a_2 + a_3 + \dots = A = K$ ⁵⁾の式が得られることを指摘されており、ここで、本稿(P.52)にある表をここで採録してみると、Kが資産の構成要素からのみ構成されているのではなく、以下にみられるように「 p_1, p_2, p_3, p_4 」が差し引かれている。

当初の財産 プラス 利益残高
 =新しいB/Sの借方 マイナス 新しいB/Sの貸方
 貸借対照表の形態：
 新しいB/Sの貸方 =
 新しいB/Sの貸方 プラス 当初の資本 プラス 利益の残高

2) 岡田昌也：前掲書 p.172

システムマティックな帳簿記帳(die systematische Buchhaltung)はこれらの取引から、以下の方程式を構成する(zusammenstellt)。

つまり、これら「p1、p2、p3、p4」が負債項目を意味しており、ここでみられるKに関して、岡本人志氏は「負債が加わると、 $A = K$ なる等式は変化させられる。・・・(中略)・・・信用(現在と将来の連結)によって個別経済が相互に連結されると、・・・(中略)・・・Aの構成部分を成しながら、実際は他の法律主体に属し、将来その法律主体に金銭対価をしはらなければならないような財が存在する。これは、Aからその財を引き離し、譲り渡すという方法によってのみ可能であるから、それは消極的性質をもつものである」⁹⁾点を指摘されており、「A」として表示されている資産を基点として、この「A」に対比させる観点から、異なる性質を持つ財産として「 p_1 、 p_2 、 p_3 、 p_4 」に消極的性質が付与されている。そして、このような消極的性質が付与された「 p_1 、 p_2 、 p_3 、 p_4 」が、上記の表の中でのKの算定式では、 $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 - p_1 - p_2 - p_3 - p_4 = K$ として表わされており、したがって、消極とは反対を意味する言葉である積極という言葉が「A」として表示されている資産に付与することが可能と考えられる。

この点に関して、岡本人志氏は「AはもはやKと等し

くない。資産(資本)は、・・・(中略)・・・消極資産に属する項目を p_1 、 p_2 、 p_3 ・・・で表わし、その合計をPで表わすことによって、次の式を得る。 $(a_1 + a_2 + a_3 + \dots) - (p_1 + p_2 + p_3 + \dots) = K - P$ ⁷⁾とし、シェーアが示している「 $A = K$ 」の等式が「 $A = K - P$ 」の等式として拡充される可能性が現れてくることが指摘されているものと考えることが可能である。そして、この「 $A = K - P$ 」が「 $A - P = K$ 」として、つまり「P」を移項することによって、前者が資産等式、後者が資本等式をそれぞれ意味することになり、これら二つの等式の名称が「P」が等式の中で右辺と左辺のいずれか位置するかによって定められるかに依存しているものであり、単純に「P」を負債として理解するのではなく、「A」との対比によって消極財産として捉えることにシェーアが示している【付表1-1】・【付表1-2】における「営業経過の内容」と【付表2】における「主帳簿の勘定」さらに【付表3-1】・【付表3-2】における「仕訳帳」のそれぞれに営業(die Ggeschäften)の内容が示されている意義があると考えられる。

以下にある【付表3-1】～【付表3-8】の位置関係は次のとおりである、

上段 【付表3-1】【付表3-3】【付表3-5】【付表3-7】

下段 【付表3-2】【付表3-4】【付表3-6】【付表3-8】

S.30～31

【付表 1 - 1】

システマティックな帳簿記帳の典型的な表示.

| 営業経過の内容. (日誌.) | | | | I | | II | | III | |
|---|------------------|--------------|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | 貸借対照表勘定 | | 資本勘定 | | 現金勘定 | |
| | | | | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 |
| I. 開始貸借対照表によってさまざまな勘定に借方と貸方に配分する | | | | | | | | | |
| 1. | 手持ち現金 | | | | 10,000 | — | — | 10,000 | |
| 2. | 商品在庫 | | | | 35,000 | — | — | — | — |
| 3. | ポートフォリオにおける送金為替 | 借方 (Aktiva) | = 80,000 | | 15,000 | — | — | — | — |
| 4. | 債務者の売掛金 | | | | 20,000 | — | — | — | — |
| 5. | 流通している負債手形 | | | | 13,000 | — | — | — | — |
| 6. | 債権者における負債 | 貸方 (Passiva) | = 80,000 | | 12,000 | — | — | — | — |
| 7. | 純資産 | 資本 (Kapital) | | | 55,000 | — | 55,000 | 10,000 | — |
| 開始勘定の残高:借方合計 = 貸方合計: = 80,000 | | | | 80,000 | 80,000 | | | | |
| II. ビジネスの経過 | | | | | | | | | |
| 1. | 現金による商品販売 | | 5,000 | | | | | 5,000 | |
| 2. | 取り扱い通常経費以外の雑費支払い | | 200 | | | | | | 200 |
| 3. | 負債手形の支払い | | 4,000 | | | | | | 4,000 |
| 4. | 買掛金による商品の購買 | | 7,500 | | | | | | |
| 5. | 債権者への送金為替 | | 7,200 | | | | | | |
| 6. | 商品の搬送費の支払い | | 500 | | | | | | 500 |
| 7. | 債務者宛の手形振り出し | | 8,000 | | | | | | |
| 8. | 売掛金による商品の販売 | | 11,300 | | | | | | |
| 9. | 負債手形による商品の購買 | | 4,500 | | | | | | |
| 10. | 経営者の私的使用に関する支払い | | 200 | | | 200 | | | 200 |
| 試験的貸借対照表: 借方合計 = 貸方合計 | | | | 128,400 | | 200 | 55,000 | 15,000 | 4,900 |
| 棚卸し (商品 32,000, 送金為替 15,850, 負債手形 13,570) | | | | | | | | | |
| III. 決算貸借対照表 | | | | | | | | | |
| a. 当初貸借対照表勘定による借方と貸方の合計 | | | | | | | | | |
| 1. | 手持ち現金 | | | 10,100 | | | | | 10,100 |
| 2. | 商品在庫高 | | | 32,000 | | | | | |
| 3. | ポートフォリオにおける送金為替 | Aktiva | = 81,250 | 15,850 | | | | | |
| 4. | 債務者(借主)の売掛金 | | | 23,300 | | | | | |
| 5. | 流通している負債手形 | | | | 13,570 | | | | |
| 6. | 債権者における負債 | Passiva | = 81,250 | | 12,300 | | | | |
| 7. | 純資産 | Kapital | | | 55,380 | 55,380 | | | |
| 損益の算出前の勘定の状態 | | | | 81,250 | 81,250 | 55,580 | 55,000 | 15,000 | 15,000 |
| b. 損益勘定の算出と損益勘定におけるこれらの項目の合計 | | | | | | | | | |
| 1. | 商品における収益 | = 800 | = 850 | | | | | | |
| 2. | 送金為替における収益 | = 50 | | | | | | | |
| 3. | 負債手形における損失 | = 70 | = 270 | | | | | | |
| 4. | 諸経費における損失 | = 200 | = 850 | | | | | | |
| 5. | 純資産 | = 580 | | | | | 580 | | |
| 全ての勘定の締め切り | | | | | | 55,580 | 55,580 | | |

【付表 1-2】

システマティックな帳簿記帳の典型的な表示

| | I. 貸借対照表勘定 | | II. 資本勘定 | | III. 現金勘定 | | IV. 商品勘定 | | V. 送金為替勘定 | | VI. 債務者勘定 | | VII. 為替手形勘定 | | VIII. 債権者勘定 | | IX. 諸経費勘定 | | X. 損益勘定 | |
|--------|------------|-----------|----------|--------|-----------|--------|----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-----------|-----|---------|-----|
| | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 |
| I. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. K | | 10,000 | — | | 10,000 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. W | | 35,000 | | | | | 35,000 | | | | | | | | | | | | | |
| 3. R | | 15,000 | | | | | | | 15,000 | | | | | | | | | | | |
| 4. G | | 20,000 | | | | | | | | 20,000 | | | | | | | | | | |
| 5. S | 13,000 | | | | | | | | | | | | 13,000 | | | | | | | |
| 6. S | 12,000 | | | | | | | | | | | | | | 12,000 | | | | | |
| 7. R | 55,000 | | 55,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Stand | 80,000 | 80,000 | | 55,000 | 10,000 | | 35,000 | | 15,000 | | 20,000 | | 13,000 | | 12,000 | | | | | |
| II. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. W | | | | 5,000 | | | 5,000 | | | | | | | | | | | | | |
| 2. Z | | | | | 200 | | | | | | | | | | | | 200 | | | |
| 3. Z | | | | | 4,000 | | | | | | | | 4,000 | | | | | | | |
| 4. A | | | | | | 7,500 | | | | | | | | | 7,500 | | | | | |
| 5. R | | | | | | | | | 7,200 | | | | | | 7,200 | | | | | |
| 6. Z | | | | | 500 | 500 | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. T | | | | | | | | | 8,000 | | | 8,000 | | | | | | | | |
| 8. W | | | | | | | 11,300 | | | | 11,300 | | | | | | | | | |
| 9. W | | | | | | | 4,500 | | | | | | 4,500 | | | | | | | |
| 10. Z | | | 200 | | 200 | | | | | | | | | | | | | | | |
| Pro | | | 200 | 55,000 | 15,000 | 4,900 | 47,500 | 16,300 | 23,000 | 7,200 | 31,300 | 8,000 | 4,000 | 17,500 | 7,200 | 19,500 | 200 | | | |
| Inv | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| III. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| a. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. K | 10,100 | | | | 10,100 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. W | 32,000 | | | | | | 32,000 | | | | | | | | | | | | | |
| 3. R | 15,850 | | | | | | | | 15,850 | | | | | | | | | | | |
| 4. G | 23,300 | | | | | | | | | 23,300 | | | | | | | | | | |
| 5. S | 13,570 | | | | | | | | | | | 13,570 | | | | | | | | |
| 6. S | 12,300 | | | | | | | | | | | | 12,300 | | | | | | | |
| 7. R | 55,380 | | 55,380 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| St. | 81,250 | 81,250 | 55,380 | 55,000 | 15,000 | 15,000 | 47,500 | 48,300 | 23,000 | 23,050 | 31,300 | 31,300 | 17,570 | 17,500 | 19,500 | 19,500 | 200 | | | |
| b. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. G | | | | | | | 800 | | | | | | | | | | | | | 800 |
| 2. G | | | | | | | | 50 | | | | | | | | | | | | 50 |
| 3. V | | | | | | | | | | | | | 70 | | | | | | | 70 |
| 4. V | | | | | | | | | | | | | | | 200 | | | | | 200 |
| 5. R | | | | 580 | | | | | | | | | | | | | | | | 580 |
| Absch. | | 全ての勘定の端切り | 55,380 | 55,380 | | | 48,300 | 48,300 | 23,050 | 23,050 | | | 17,570 | 17,570 | | | 200 | 200 | 850 | 850 |

S.34

【付表 2】

| 主帳簿の勘定 (Konten des Hauptbuchs) | 売上貸借対照表 | | 残高貸借対照表 | | 当初貸借対照表 | | | 利潤貸借対照表 | |
|---|------------|-----------|---------|---------|---------|---------|-----------------|---------|--------|
| | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | inkl. Anf.-Kap. | 損失 | 収益 |
| 1. 現金勘定 | 67,390 | 65,295 | 2,095 | | 2,095 | | | | |
| 2. 商品勘定 | 277,379 | 208,661 | 68,718 | | 98,600 | | | 29,882 | |
| 3. 銀行勘定 | 194,133 | 183,907 | 10,226 | | 10,226 | | | | |
| 4. 債務者勘定 | 219,456 | 202,903 | 16,553 | | 16,553 | | | | |
| 5. 債権者勘定 | 173,553 | 186,234 | | 13,178 | | 13,178 | | | |
| 6. 所有手形勘定 | 66,172 | 62,389 | 3,783 | | 3,783 | | | | |
| 7. 負債手形勘定 | 21,000 | 25,543 | | 4,543 | | 4,543 | | | |
| 8. 利子勘定と割引勘定 | 2,945 | 3,778 | | 883 | | | | 883 | |
| 9. 曖昧な債務者 | 1,443 | 502 | 941 | | 941 | | | | |
| 10. 支払保証(貸倒再評価)勘定 | 379 | 600 | | 221 | | 750 | | 529 | |
| 11. 経営原価勘定 | 13,419 | | 13,419 | | | | | 13,419 | |
| 12. (経営者の)私的勘定 | 6,517 | 6,517 | | | | | | | |
| 13. 資本勘定 | 6,517 | 103,400 | | 96,883 | | 96,883 | | | |
| 14. 一時的な借方と貸方 | 547 | 624 | | 77 | 137 | 214 | | | |
| 15. 損失勘定と収益勘定 | | | | | | | | | |
| 貸借対照表合計 | 1,050,353 | 1,050,353 | 115,735 | 115,735 | | | | | |
| 借方合計 | | | | | 132,335 | | | | |
| 貸方合計：含む。期首資本 マイナス 私的費用 | | | | | | 115,568 | | | |
| 損失合計 | | | | | | | | 13,948 | |
| 収益合計 | | | | | | | | | 30,715 |
| 純資産 | | | | | | | | | |
| a) 当初貸借対照表による証明 | | | | | | 16,767 | | | |
| b) 損益勘定の算定 (berechnet d. Verlust- und Gewinn-Konto) | | | | | | | | 16,767 | |
| | | | | | 132,335 | 132,335 | | 30,715 | 30,715 |
| 資本計算： | 期首資本 | | 103,400 | | | | | | |
| | 営業収益 | 16,767 | | | | | | | |
| | (経営者の)私的費用 | 6,517 | | | | | | | |
| | 資本の増加 | | 10,250 | | | | | | |
| | 新しい資本 | | 113,650 | | | | | | |

【付表 3-1】

Zu: Schär, Mwrhosik swe Buchhaltung, S.35

a) システマティックな帳簿記帳の典型的な表示

[Text と Buchungsaatz を full で]

| 仕訳帳 (Journal) | | | 金額 | |
|-----------------------|------------------------|-------------------------|---------|-----------|
| 記帳方法 (Text) | | | | |
| A. 開示: Inventur | | | | |
| I. 借方 | 1. 現金 | 開始貸借対照表における現金勘定 | 2,450 | |
| | 2. 商品在庫高 | 開始貸借対照表における商品勘定 | 96,500 | |
| | 3. 銀行預金 | 開始貸借対照表における銀行勘定 | 1,680 | |
| | 4. 債務者資産 | 開始貸借対照表における債務者勘定 | 18,000 | |
| | 5. 曖昧な債務者 | 開始貸借対照表における勘定の曖昧さ | 800 | |
| | 6. 貸方からの割引 | 開始貸借対照表における一時的な借方 | 140 | |
| | 7. ポートフォリオにおける手形 | 開始貸借対照表における所有手形 | 1,700 | 121,270 |
| II. 貸方 | 1. 債権者 | 開始貸借対照表における債権者勘定 | 15,000 | |
| | 2. 負債手形 | 開始貸借対照表における負債手形勘定 | 2,000 | |
| | 3. 曖昧さに対する準備金 | 開始貸借対照表における支払保証 (貸倒再評価) | 600 | |
| | 4. 借方からの準備金 | 開始貸借対照表における一時金 | 270 | |
| | 5. 資本金, 純資産 | 開始貸借対照表における資本金勘定 | 103,400 | 121,270 |
| B. 一時的な借方と貸方の廃棄 | | | | |
| 1. | 貸方から割引の繰り越し | 一時的な借方における利子勘定 | | 140 |
| 2. | 借方から割引の繰り越し | 利子における一時的な貸方 | | 270 |
| C. ビジネスの経過: 年間の流通額の合計 | | | | |
| 1. | 商品の入荷: | | | |
| | a) 信用における購買 | 債権者における商品 | 171,234 | |
| | b) 現金での購買 | 現金における商品 | 6,432 | 177,666 |
| 2. | 商品の発送: | | | |
| | a) 信用における販売 | 商品における債務者 | 201,456 | |
| | b) 現金での販売 | 商品における | 5,678 | 207,134 |
| 3. | 購買費用 (Frankatur) | 現金における商品 | | |
| 4. | 信用の支払い: | 以下における債権者: | | |
| | a) 手形の受け入れ | 負債手形 | 23,543 | |
| | b) 銀行における小切手と手形の裏書による | 銀行勘定 | 130,147 | |
| | c) 支払い | 現金 | 14,621 | |
| | d) 現金勘定 | 利子と割引 | 3,218 | |
| | e) 返送品 | 商品勘定 | 1,527 | 173,056 |
| 5. | 債務の支払い | 以下の債務勘定: | | |
| | a) その送金為替と為替手形 | 手形勘定 | 64,472 | |
| | b) 現金の入金 (Bareingänge) | 現金勘定 | 23,789 | |
| | c) 銀行における小切手と手形の裏書 | 現金勘定 | 109,647 | |
| | d) 現金勘定 | 利子勘定と割引勘定 | 1,937 | |
| | e) 返送品 | 商品勘定 | 2,415 | 202,260 |
| 6. | その他の銀行取引 | | | |
| | a) 送金為替に関する貸方記入 | 手形における銀行 | 61,735 | |
| | 割引に関する差し引き | 手形における利子と割引 | 654 | 62,389 |
| | b) 現金支払い | 現金における銀行勘定 | | 20,918 |
| | c) 現金の引き出し | 銀行における現金勘定 | | 35,350 |
| | d) 当座勘定-利子 (借方利子) | 利子勘定と割引勘定における銀行 | | 153 |
| | e) 換金されている引受手形 | 銀行における負債手形 | | 18,410 |
| | | | 繰越 | 1,141,084 |

【付表 3 - 2】

| | | | | |
|-------------|-------------------------------------|-----------------------|---------|-----------|
| 7. | 現金での引受け手形の回収 | 現金勘定における負債手形 | | 2,590 |
| 8. | 曖昧な項目取引 | | | |
| a) | 曖昧な項目の現金払い | 曖昧な勘定における現金 | 123 | |
| | 残りの項目は損失として控除される | 曖昧な勘定における支払い保証(貸倒再評価) | 379 | 502 |
| b) | 優れている債務が支払い不能になる | 債務勘定における曖昧さの勘定 | | 643 |
| 9. | あらゆる種類の経営経費の現金払い | 現金勘定における経営経費 | | 13,419 |
| 10. | 営業上の現金からの私的な給料 | 現金勘定における私的使用 | | 6,517 |
| D. | 決算貸借対照表に至るまでの試験貸借対照表と事前の作業：試験貸借対照表 | | | 1,164,755 |
| 1. | 負債手形と債権者からの割引引き | 利子と割引における一時的な借方計上 | | 137 |
| 2. | 手形と債務者からの割引引き | 一時的な貸方計上からの利子と割引引き、 | | 214 |
| 3. | 資本勘定における私的使用の繰越高 | 私的勘定における資本勘定 | | 6,517 |
| E. | 決算貸借対照表に至るまでの合計 | | | 1,171,623 |
| | 棚卸価値：商品 = 98,600, 支払保証(貸倒再評価) = 750 | | | |
| | 一時的な借方計上 = 137, 一時的な貸方計上 = 214 | | | |
| | その他の全ての棚卸価値 = 対応している残高勘定の差引残高 | | | |
| F. | 決算貸借対照表に至る事前作業 (S. 35) | | | |
| 1. | 以下の事項(借方)に関する決算貸借対照表 | | | |
| | 現金勘定 | | 2,095 | |
| | 商品勘定 | | 98,600 | |
| | 銀行勘定 | | 10,226 | |
| | 債務者勘定 | | 16,553 | |
| | 所有手形勘定 | | 3,783 | |
| | 曖昧な債務者勘定 | | 941 | |
| | 一時的な借方 | | 137 | 132,335 |
| 2. | 決算貸借対照表における以下の事項(貸方): | | | |
| | 債権者勘定 | | 13,178 | |
| | 負債手形 | | 4,543 | |
| | 曖昧な資金 | | 750 | |
| | 一時的な貸方 | | 214 | |
| | 資本勘定 (103,400 - 6,517 + 16,767) | | 113,650 | 132,335 |
| 3. | 損失と収益 | 経営費用勘定 | 13,419 | |
| | | an Delkrederefonds | 529 | |
| | | 資本金勘定 | 16,767 | 30,715 |
| 4. | 収益勘定における商品勘定 | | 29,882 | |
| | 収益勘定における利子と割引 | | 883 | |
| すべての勘定の貸借残高 | | | | 1,497,723 |

【付表 3 - 3】

a) システマティックな帳簿記帳の典型的な表示 [Konto 1 ~ Konto 5]

| 仕訳帳 | | 1. 現金勘定 | | 2. 商品勘定 | | 3. 銀行勘定 | | 4. 債務勘定 | | 5. 債権者勘定 | | |
|------|----|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|
| 記帳方法 | 金額 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | |
| A. | | | | | | | | | | | | |
| I. | 1 | 2,450 | 2,450 | | | | | | | | | |
| | 2. | 96,500 | | | | | | | | | | |
| | 3. | 1,680 | | | | | | | | | | |
| | 4. | 18,000 | | | | | | | | | | |
| | 5. | 800 | | | | | | | | | | |
| | 6. | 140 | | | | | | | | | | |
| | 7. | 1,700 | 121,270 | | | | | | | | | |
| II. | 1 | 15,000 | | | | | | | | | | |
| | 2. | 2,000 | | | | | | | | | | |
| | 3. | 600 | | | | | | | | | | |
| | 4. | 270 | | | | | | | | | | |
| | 5. | 103,400 | 121,270 | | | | | | | | | |
| B. | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | 140 | | | | | | | | | | |
| | 2. | 270 | | | | | | | | | | |
| C. | | | | | | | | | | | | |
| 1 | a) | 171,234 | | | | | | | | | | |
| | b) | 6,432 | 177,666 | 6,432 | | | | | | | | |
| 2. | a) | 201,270 | | | | | | | | | | |
| | b) | 5,678 | 207,134 | 5,678 | | | | | | | | |
| 3. | | 798 | | 798 | | | | | | | | |
| 4. | | | | | | | | | | | | |
| | a) | 23,543 | | | | | | | | | | |
| | b) | 130,147 | | | | | | | | | | |
| | c) | 14,621 | | 14,621 | | | | | | | | |
| | d) | 3,218 | | | | | | | | | | |
| | e) | 1,527 | 173,147 | | | | | | | | | |
| 5. | | | | | | | | | | | | |
| | a) | 64,472 | | | | | | | | | | |
| | b) | 23,789 | 23,789 | | | | | | | | | |
| | c) | 109,647 | | | | | | | | | | |
| | d) | 1,937 | | | | | | | | | | |
| | e) | 2,415 | 202,260 | | | | | | | | | |
| 6. | | | | | | | | | | | | |
| | a) | 61,735 | | | | | | | | | | |
| | b) | 654 | 62,389 | | | | | | | | | |
| | c) | 20,918 | 20,918 | | | | | | | | | |
| | d) | 35,350 | 35,350 | | | | | | | | | |
| | e) | 18,410 | | | | | | | | | | |
| | 繰越 | 1,141,084 | 67,267 | 42,769 | 277,379 | 208,661 | 194,133 | 183,907 | 219,456 | 202,260 | 173,056 | 186,234 |

【付表 3 - 4】

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|-----------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 7. | | 2,590 | 2,590 | | | | | | | | | |
| 8. | | | | | | | | | | | | |
| a) | 123 | | 123 | | | | | | | | | |
| | 379 | 502 | | | | | | | | | | |
| b) | | 643 | | | | | | | | | | |
| 9. | | 13,419 | 13,419 | | | | | | | | | |
| 10. | | 6,517 | 6,517 | | | | | | | | | |
| D. | | 1,171,623 | 67,390 | 65,295 | 277,379 | 208,661 | 194,133 | 183,907 | 219,456 | 202,903 | 107,056 | 186,234 |
| 1. | | 137 | | | | | | | | | | |
| 2. | | 214 | | | | | | | | | | |
| 3. | | 6,517 | | | | | | | | | | |
| E. | | | | | | | | | | | | |
| F. 決算貸借対照表に至る事前作業 | | | | | | | | | | | | |
| 1. 以下の事項(借方)に関する決算貸借対照表 | | | | | | | | | | | | |
| 現金勘定 | 2,095 | | 2,095 | | | | | | | | | |
| 商品勘定 | 98,600 | | | | 98,600 | | | | | | | |
| 銀行勘定 | 10,226 | | | | | | 10,226 | | | | | |
| 債務者勘定 | 16,553 | | | | | | | | 16,553 | | | |
| 所有手形勘定 | 3,783 | | | | | | | | | | | |
| 曖昧な債務者に関して | 941 | | | | | | | | | | | |
| 一時的な借方計上 | 137 | 132,335 | | | | | | | | | | |
| 2. 決算貸借対照表に関する以下の事項(貸方) | | | | | | | | | | | | |
| 債権者勘定 | 13,178 | | | | | | | | | | 13,178 | |
| 負債手形勘定 | 4,543 | | | | | | | | | | | |
| 曖昧な資金 | 750 | | | | | | | | | | | |
| 一時的な貸方 | 214 | | | | | | | | | | | |
| 資本勘定 | 113,650 | 132,335 | | | | | | | | | | |
| 3. 損益 | | | | | | | | | | | | |
| 経営費用 | 13,419 | | | | | | | | | | | |
| 支払保証(貸倒再評価)資金 | 529 | | | | | | | | | | | |
| 資本金 | 16,767 | 30,715 | | | | | | | | | | |
| 4. 収益勘定における商品勘定 | 29,882 | | | | 29,882 | | | | | | | |
| 収益勘定における利子と割引 | 883 | | | | | | | | | | | |
| すべての勘定の貸借残高 | 1,497,723 | 67,390 | 67,390 | 307,261 | 307,261 | 194,133 | 194,133 | 219,456 | 219,456 | 186,234 | 186,234 | |

【付表 3 - 5】

a) システマティックな帳簿記帳の典型的な表示 [Konto 6 ~ Konto 10]

| 仕訳帳 | | 6. 所有勘定 | | 7. 負債勘定 | | 8. 利子勘定と割引勘定 | | 9. Dubiose Debit. | | 10. Delkrekonto | |
|-------|-----------|---------|--------|---------|--------|--------------|-------|-------------------|----|-----------------|----|
| 記帳方法 | 金額 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 |
| A. | | | | | | | | | | | |
| I. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 2,450 | | | | | | | | | | |
| 2. | 96,500 | | | | | | | | | | |
| 3. | 1,680 | | | | | | | | | | |
| 4. | 18,000 | | | | | | | | | | |
| 5. | 800 | | | | | | | | | | |
| 6. | 140 | | | | | | | | | | |
| 7. | 1,700 | 121,270 | 1,700 | | | | | | | | |
| II. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 15,000 | | | | | | | | | | |
| 2. | 2,000 | | | | | | | | | | |
| 3. | 600 | | | | | | | | | | |
| 4. | 270 | | | | | | | | | | |
| 5. | 103,400 | 121,270 | | | | | | | | | |
| B. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 140 | | | | | | | | | | |
| 2. | 270 | | | | | | | | | | |
| C. | | | | | | | | | | | |
| 1 a) | 171,234 | | | | | | | | | | |
| b) | 6,432 | 177,666 | | | | | | | | | |
| 2. a) | 201,270 | | | | | | | | | | |
| b) | 5,678 | 207,134 | | | | | | | | | |
| 3. | 798 | | | | | | | | | | |
| 4. | | | | | | | | | | | |
| a) | 23,543 | | | | | | | | | | |
| b) | 130,147 | | | | | | | | | | |
| c) | 14,621 | | | | | | | | | | |
| d) | 3,218 | | | | | | | | | | |
| e) | 1,527 | 173,147 | | | | | | | | | |
| 5. | | | | | | | | | | | |
| a) | 64,472 | 64,472 | | | | | | | | | |
| b) | 23,789 | | | | | | | | | | |
| c) | 109,647 | | | | | | | | | | |
| d) | 1,937 | | | | | | | | | | |
| e) | 2,415 | 202,260 | | | | | | | | | |
| 6. | | | | | | | | | | | |
| a) | 61,735 | | | | | | | | | | |
| b) | 654 | 62,389 | 62,389 | | | | | | | | |
| c) | 20,918 | | | | | | | | | | |
| d) | 35,350 | | | | | | | | | | |
| e) | 18,410 | | | | | | | | | | |
| 繰越 | 1,141,084 | 66,172 | 62,389 | 18,410 | 25,661 | 2,731 | 3,641 | 800 | | 600 | |

【付表 3 - 6】

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|-----------|---------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 7. | | 2,500 | | | | | | | | | | |
| 8. | | | | | | | | | | | | |
| a) | | 123 | | | | | | | | | | |
| | | 379 | 502 | | | | | | | | | |
| b) | | | 643 | | | | | | | | | |
| 9. | | 13,410 | | | | | | | | | | |
| 10. | | 6,517 | | | | | | | | | | |
| D. | | 1,164,755 | 66,172 | 62,389 | 21,000 | 25,543 | 2,731 | 3,641 | 1,443 | 502 | 379 | 600 |
| 1. | | 137 | | | | | | 137 | | | | |
| 2. | | 214 | | | | | 214 | | | | | |
| 3. | | 6,517 | | | | | | | | | | |
| E. | | | | | | | | | | | | |
| F. 決算貸借対照表のための事前準備 | | | | | | | | | | | | |
| 1. 以下の事項(借方)に関する決算貸借対照表 | | | | | | | | | | | | |
| 現金勘定 | | 2,095 | | | | | | | | | | |
| 商品勘定 | | 98,600 | | | | | | | | | | |
| 銀行勘定 | | 10,226 | | | | | | | | | | |
| 債務者勘定 | | 16,553 | | | | | | | | | | |
| 所有手形勘定 | | 3,783 | | 3,783 | | | | | | | | |
| 曖昧な債務者勘定 | | 941 | | | | | | | | | | |
| 一時的な借方 | | 137 | 132,335 | | | | | | | | | |
| 2. 決算貸借対照表に関する以下の事項(貸方) | | | | | | | | | | | | |
| 債権者勘定 | | 13,178 | | | | | | | | | | |
| 負債手形勘定 | | 4,543 | | | | | | | | | | |
| 曖昧な資金 | | 750 | | | | | | | | | | |
| 一時的な貸方 | | 214 | | | | | | | | | | |
| 資本勘定 | | 113,650 | 132,335 | | | | | | | | | |
| 3. 損益 | | | | | | | | | | | | |
| 経営費用勘定 | | 13,419 | | | | | | | | | | |
| 曖昧な資金 | | 529 | | | | | | | | | | |
| 資本勘定 | | 16,767 | 30,715 | | | | | | | | | |
| 4. 収益勘定における商品勘定 | | 29,882 | | | | | | | | | | |
| 収益勘定における利子と割引 | | 883 | | | | | | | | | | |
| すべての勘定の貸借残高 | | 1,497,723 | 66,172 | 66,172 | 25,543 | 25,543 | 3,778 | 3,778 | 1,443 | 1,443 | 1,129 | 1,129 |

【付表 3-7】

a) システマティックな帳簿記帳の典型的な表示 [Konto 11 ~ Konto 15]

| 仕訳帳 | | 11. 経営勘定 | | 12. (経営者の)私的勘定 | | 13. 資本勘定 | | 14. Transitorische | | 15. 損益勘定 | |
|-------|-----------------|----------|----|----------------|----|----------|---------|--------------------|-----|----------|----|
| 記帳方法 | 金額 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 | 借方 | 貸方 |
| A. | | | | | | | | | | | |
| I. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 2,450 | | | | | | | | | | |
| 2. | 96,500 | | | | | | | | | | |
| 3. | 1,680 | | | | | | | | | | |
| 4. | 18,000 | | | | | | | | | | |
| 5. | 800 | | | | | | | | | | |
| 6. | 140 | | | | | | | 140 | | | |
| 7. | 1,700 121,270 | | | | | | | | | | |
| II. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 15,000 | | | | | | | | | | |
| 2. | 2,000 | | | | | | | | | | |
| 3. | 600 | | | | | | | | | | |
| 4. | 270 | | | | | | | 270 | | | |
| 5. | 103,400 121,270 | | | | | | 103,400 | | | | |
| B. | | | | | | | | | | | |
| 1 | 140 | | | | | | | 140 | | | |
| 2. | 270 | | | | | | | 270 | | | |
| C. | | | | | | | | | | | |
| 1 a) | 171,234 | | | | | | | | | | |
| b) | 6,432 177,666 | | | | | | | | | | |
| 2. a) | 201,270 | | | | | | | | | | |
| b) | 5,678 207,134 | | | | | | | | | | |
| 3. | 798 | | | | | | | | | | |
| 4. | | | | | | | | | | | |
| a) | 23,543 | | | | | | | | | | |
| b) | 130,147 | | | | | | | | | | |
| c) | 14,621 | | | | | | | | | | |
| d) | 3,218 | | | | | | | | | | |
| e) | 1,527 173,147 | | | | | | | | | | |
| 5. | | | | | | | | | | | |
| a) | 64,472 | | | | | | | | | | |
| b) | 23,789 | | | | | | | | | | |
| c) | 109,647 | | | | | | | | | | |
| d) | 1,937 | | | | | | | | | | |
| e) | 2,415 202,260 | | | | | | | | | | |
| 6. | | | | | | | | | | | |
| a) | 61,735 | | | | | | | | | | |
| b) | 654 62,389 | | | | | | | | | | |
| c) | 20,918 | | | | | | | | | | |
| d) | 35,350 | | | | | | | | | | |
| e) | 18,410 | | | | | | | | | | |
| 繰越 | 1,141,084 | | | | | | 103,400 | 410 | 410 | | |


















【付表 3－8】

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|-----------|-----------|--------|---------|---------|---------|---------|-----|-----------|
| 7. | | 2,500 | | | | | | | |
| 8. | | | | | | | | | |
| a) | 123 | | | | | | | | |
| | 379 | 502 | | | | | | | |
| b) | | 643 | | | | | | | |
| 9. | | 13,419 | 13,419 | | | | | | |
| 10. | | 6,517 | | 6,517 | | | | | |
| D. | | 1,164,755 | 13,419 | 6,517 | 6,517 | 103,400 | 410 | 410 | |
| 1. | | 137 | | | | | 137 | | |
| 2. | | 214 | | | | | | 214 | |
| 3. | | 6,517 | | | | | | | |
| | | | | 6,517 | 6,517 | | | | |
| E. | | 1,171,623 | 13,419 | 6,517 | 6,517 | 6,517 | 103,400 | 547 | 624 |
| | | | | | | | | | 1,164,755 |
| | | | | | | | | | 1,164,755 |
| F. 決算貸借対照表のための事前準備 | | | | | | | | | |
| 1. 以下の事項(借方)に関する決算貸借対照表 | | | | | | | | | |
| 現金勘定 | 2,095 | | | | | | | | |
| 商品勘定 | 98,600 | | | | | | | | |
| 銀行勘定 | 10,226 | | | | | | | | |
| 債務者勘定 | 16,553 | | | | | | | | |
| 所有手形勘定 | 3,783 | | | | | | | | |
| 曖昧な債務者勘定 | 941 | | | | | | | | |
| 一時的な借方 | 137 | 132,335 | | | | | | 137 | |
| 2. 決算貸借対照表に関する以下の事項(貸方) | | | | | | | | | |
| 債権者勘定 | 13,178 | | | | | | | | |
| 負債手形勘定 | 4,543 | | | | | | | | |
| 曖昧な資金 | 750 | | | | | | | | |
| 一時的な貸方 | 214 | | | | 214 | | | 214 | |
| 資本勘定 | 113,650 | 132,335 | | | 113,650 | 113,650 | | | |
| 3. 損益 | | | | | | | | | |
| 経営費用勘定 | 13,419 | | 13,419 | 132,335 | 132,335 | | | | 13,419 |
| 曖昧な資金 | 529 | | | | | | | | 529 |
| 資本勘定 | 16,767 | 30,715 | | | | 16,767 | | | 16,767 |
| 4. 収益勘定における商品勘定 | | | | | | | | | |
| 収益勘定における商品勘定 | 29,882 | | | | | | | | 29,882 |
| 収益勘定における利子と割引 | 883 | | | | | | | | 883 |
| すべての勘定の貸借残高 | 1,497,723 | 13,419 | 13,419 | | | 120,167 | 120,167 | 761 | 761 |
| | | | | | | | | | 30,715 |
| | | | | | | | | | 30,715 |

S.37 【付表 4 - 1】

| 1. (主要帳簿の)帳簿記帳、棚卸し、決算貸借対照表の関係 | | | | | | | |
|--|--|--|--|------------|----|----|----|
| A. 主要帳簿の勘定 | | B. 棚卸し | | C. 決算貸借対照表 | | | |
| ■ = 棚卸し前の勘定残高 | | (部分的な資産の評価) | | 資産残高 | | 損益 | |
| □ = 棚卸し価値の挿入と損益の算定 | | | | 借方 | 貸方 | 損失 | 収益 |
| I. グループ: 純粋な在庫勘定 | | 借方 | 貸方 | | | | |
| a) 借方価値を伴っている勘定 (現金, 債務者, 送金為替 等.) | | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> </div> <div style="margin-left: 10px;">S₁</div> </div> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="margin-left: 5px;">H₁</div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">A₁</div> </div> | | | | |
| b) 貸方価値を伴っている勘定 (債権者, 負債手形, 銀行, 社債 等) | | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="margin-left: 10px;">S₂</div> </div> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="margin-left: 5px;">H₂</div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> </div> | | | | |
| | | <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">P₁</div> | | | | | |
| II. グループ: 混合勘定. | | | | | | | |
| a) 借方価値と収益 (商品勘定における販売と成果の関係) | | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="margin-left: 10px;">S₃</div> </div> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="margin-left: 5px;">H₃</div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">A₂</div> </div> | | | | |
| | | <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">G₁</div> | | | | | |
| b) 借方価値と損失 (販売と販売の失敗、損耗を伴う設備等) | | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">■</div> </div> <div style="margin-left: 10px;">S₄</div> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;">■</div> <div style="margin-left: 5px;">H₄</div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">A₃</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 10px;">V₁</div> </div> | | | | |

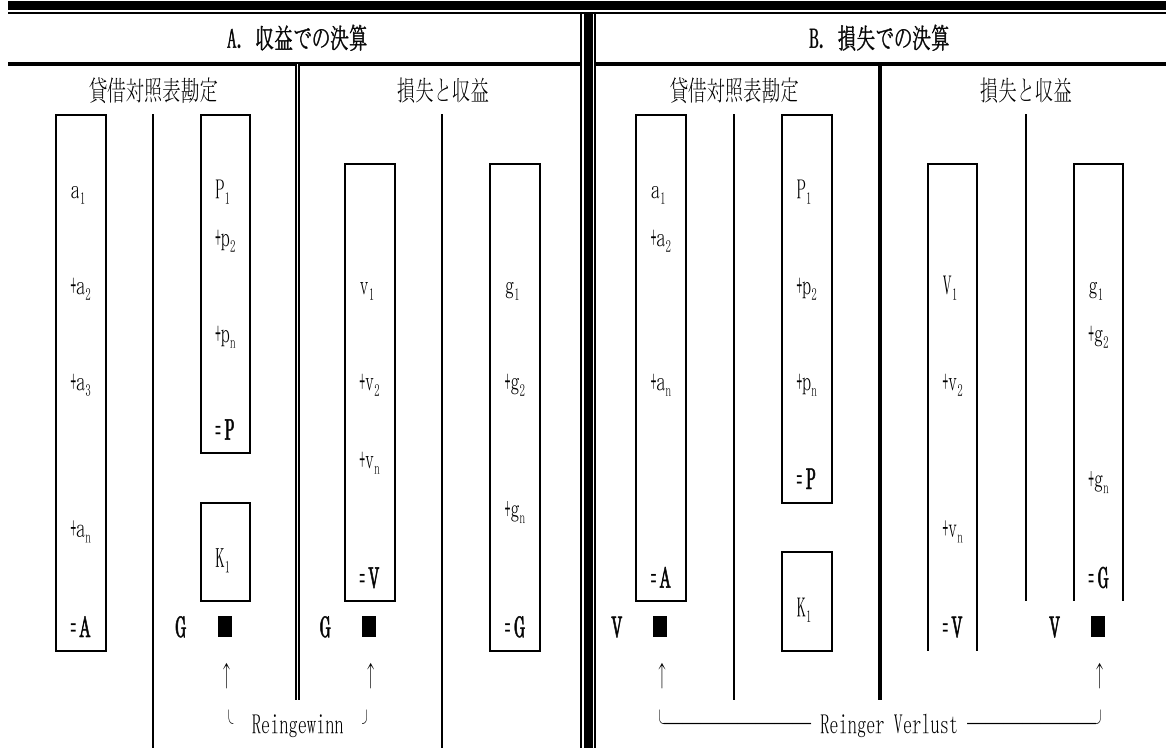
【附表 4 - 2】

| | | | | |
|--------------------------|-------|--|---|-------|
| Ⅲ. グループ: 純粋な損益勘定 | S_5 |  |  | |
| a) 収益勘定 | | |  | |
| (純粋な労働収益, 資本収益 等) | | |  | |
| | G_2 | |  | H_5 |
| | | |  | |
| | | |  | |
| b) 損失勘定 | |  |  | H_6 |
| 費用原価 — (経営, 貸方利子, 減価償却, | S_6 |  | | |
| 債務者における損失 等) | |  | | |
| | |  | V_2 | |
| | | | | |
| | | | | |
| c) 資本勘定: 私的勘定を伴う | S_7 |  |  | H_7 |
| (開始資本 マイナス 私的使用) | | |  | |
| | K_1 | |  | |
| | | |  | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

棚卸価値を収容することによって、損益項目はすべての勘定とバランスがとれることとなる、その理由は価値を補足するもの(残高)がより小さい借方が貸方のより小さい方に収容されるためである。
 資本勘定の増加に伴って、これらの残高を一時的に収容されることは、すべての勘定が最終的に締め切られることになる。
 つまり、貸借対照表勘定、損益勘定そして資本勘定の最終的な締め切りを欠くことになる。
 $Das A_1 = S_1 - H_1$, so ist $S_1 = H_1 + A_1$
 $Das P_1 = H_2 - S_2$, so ist $H_1 + A_1 = H_2$
 $Das G_1 = (H_3 + A_2) - S_3$, so ist $G_1 + S_3 = H_3 + A_2$
 主に、貸借対照表についてすべての勘定が用いられている。

S.38 【付表 5 - 1】

II. 上記の分析の結果として決算貸借対照表を具体的に表現したもの。(Tabelle I.)



S.38 【付表 5 - 2】

III. 個別的な会社の場合の資本勘定の締め切り.

| A. 収益での決算 | | | | B. 損失での決算 | | | |
|------------|-------|---------|----------------|-----------|---------|-------|----------------|
| 貸借対照表勘定の残高 | 貸借対照表 | 貸借対照表 | 営業開始時点 | 損失勘定の | 貸借対照表 | 私的勘定の | 営業開始時点の資本 |
| (A - P) | 勘定の残高 | 勘定の残高 | の資本 | 残高 純損失 | 勘定の残高 | 残高 | K ₁ |
| | | (G - V) | K ₁ | (V - G) | (A - P) | | |

S.39 【付表 6 - 1】

IV. 決算貸借対照表に至るまでの数学的な表示

I の計算結果をわれわれは決算貸借対照表にいたるまでの数学的表示の拠所としている。

| I. 方程式 | II. 方程式 | III. 方程式 |
|-------------------------|--------------------|-------------------------|
| 継続的前提: (個別的な貸借対照表) | 継続的前提: (試験的な貸借対照表) | 方程式 I. と 方程式 II. から差し引き |
| S_1 $H_1 + A_1$ | S_1 H_1 | A_1 |
| $S_2 + P_1$ H_2 | + S_2 + H_2 | P_1 |
| $S_3 + G_1$ $H_3 + A_2$ | + S_3 + H_3 | + G_1 + A_2 |
| S_4 $H_4 + A_3 + V_1$ | + S_4 + H_4 | + $A_3 + V_1$ |
| $S_5 + G_2$ H_5 | + S_5 + H_5 | + G_2 |
| S_6 $H_5 + V_2$ | + S_6 + H_6 | + V_2 |
| $S_7 + K_1$ H_7 | + S_7 + H_7 | + K_1 |

S.39 【付表 6 - 2】

IV. 方程式 III. から導き出される方程式:

$$(A_1 + A_2 + A_3) + (V_1 + V_2) = (P_1 + K_1) + (G_1 + G_2)$$

$$A_1 + A_2 + A_3 = A : V_1 + V_2 = V : G_1 + G_2 = G \quad \text{IV}$$

V. 方程式 IV の合計からの等式をまとめることによって導きだされる方程式.

$$A + V = (P + K_1) + G \quad (K_1 = \text{当初資本})$$

Va: 貸借対照表勘定の借方残高 = 損益計算勘定の貸方残高

$$A - (P + K_1) = G - V. \quad (\text{収益の複式簿記的な証明}).$$

Vb: 貸借対照表勘定の貸方残高 = 損失勘定の借方残高

$$(P + K_1) - A = V - G. \quad (\text{損失の複式簿記的な証明})$$